



Wi-Fiルーター

WSR-1500AX2Lシリーズ

ユーザーマニュアル

4

<https://www.buffalo.jp/>

35022855-02
2024.07

本書について

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、改良のため予告なしに変更される場合があります。現に購入された製品とは一部異なることがあります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または当社サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品(付属品等を含む)を輸出または提供する場合は、外国為替及び外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとりください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。
- 本書で記載している「記号」は、環境依存文字ではない下記の半角文字をあらわします。
!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~ および半角スペース
「¥(円マーク)」は、使用環境によって「\ (バックスラッシュ)」表示になる場合があります。

操作方法について

本書では、パソコンでご利用になる場合を想定した操作方法を説明しています。タブレットをお使いの場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えるなどして、本書をご活用ください。

目次

本書について	1
操作方法について	1

第 1 章 本製品の概要と使い方 7

本製品の特長	7
動作環境	8
電波の範囲を広げるには	9
Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合	9
メッシュネットワークを構築しない場合	18
機器をWi-Fi接続するには	33
WPA3で接続する方法	33
暗号化キーを使って接続する方法(手動設定)	34
QRコードを使って接続する方法(QRsetup)	35
AOSSで接続する方法	36
WPSで接続する方法	38

第 2 章 本製品の各種設定 39

本製品の設定を変更するには	39
スマートフォン・タブレットをお使いの場合	39
Windowsをお使いの場合	40
Macをお使いの場合	44
管理パスワードを変更する	47
本製品のファームウェアバージョンを確認する	48
本製品のファームウェアを更新する	48
自動的に更新する場合	48
手動で更新する場合	49

スマートフォンから更新する場合.....	49
WPA2を無効にして、WPA3(Wi-Fiの新しい暗号化設定)だけを使用する	50
Wi-Fiチャンネルを変更する	51
機器との電波強度と対応バンドをチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるようにする(バンドステアリングLite).....	53
AOSS接続を解除する	55
ほかの機器から本製品を検索できなくする(ANY接続拒否設定)	56
アクセスできる機器を制限する(MACアクセス制限).....	57
機器同士のWi-Fi通信を禁止する(プライバシーセパレーター).....	60
ポートを開放する(ポート変換設定)	61
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合	61
利用するポート番号が不明な場合	64
本製品のIPアドレスを変更する	65
Windowsをお使いの場合	65
Macをお使いの場合	71
フレッツ回線向けの設定をする(PPPoEマルチセッション) ...	75
ルーター機能を停止する	78
本製品の設定を保存する・復元する	79
設定の保存.....	79
設定の復元.....	80

第3章 設定画面の詳細情報 81

トップ画面.....	81
無線LAN(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ).....	83

AOSS/WPS.....	85
EasyMesh.....	86
中継機モードでWi-Fiルーターとの接続失敗時の表示	88
詳細設定画面	89
Internet.....	89
PPPoE.....	91
アドレス変換	93
IPv6	94
LAN	96
DHCPリース	97
経路情報	98
2.4 GHz(11n/g/b)	99
5 GHz(11ax/ac/n/a)	103
バンドステアリングLite.....	107
EasyMesh/中継機能(WB)	109
WPS.....	114
AOSS.....	115
MACアクセス制限.....	116
マルチキャスト制御	117
無線引っ越し機能	118
ファイアウォール	119
IPフィルター	121
IPv6フィルター	122
パススルー	123
ポート変換.....	124
DMZ	125
UPnP.....	125
システム設定	126
ログ	128
設定管理/再起動.....	129

ファームウェア更新	130
システム	131
ログ	133
通信パケット	134
診断	135

第4章 困ったときは..... 136

IPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない.....	136
インターネットにつながらない	138
Wi-Fi接続が切れる/不安定	138
Wi-Fiでつながらない	139
AOSSでWi-Fi接続できない	140
設定画面が表示できない	141
Wi-Fiでの通信が遅い	141
設定を出荷時の状態に戻したい	141

付録

製品仕様	142
各部の名称とはたらき	143
初期設定一覧	146
参考情報 パソコンのIPアドレスを一時的に固定する	150
Windows 11の場合の設定	150
Windows 10の場合の設定	151
Macの場合の設定	152
電波に関する注意	153

Wi-Fi(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティーに関する 注意	154
免責事項	155
商標・登録商標	155

第1章 本製品の概要と使い方

本製品の特長

大容量・多台数通信に強いWi-Fi 6(11ax)に対応

高画質な動画配信サービスなど大きなデータを扱うコンテンツや、たくさんの機器との同時通信に強い、Wi-Fi 6(11ax)に対応しています。

EasyMeshに対応

EasyMesh対応のWi-FiルーターやWi-Fi中継機と組み合わせて、メッシュネットワークを構築できます。メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行うコントローラとエージェントが連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、機器に切り替えを促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiをご利用いただけます。

詳しくは、[「EasyMeshとは」\(P.9\)](#)を参照してください。

日本の主要なIPv6サービスに対応

アクセス集中による影響が少ないIPv6高速インターネットをご利用いただけます。

動作確認済みサービスは、当社ホームページ(<https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html>)を参照してください。

TWT(Target Wake Time)に対応

TWT(Target Wake Time)は、本製品からWi-Fi機器へのデータ通信タイミングを調整し、信号受信待機の必要がないときに、Wi-Fi機器の通信機能をスリープ状態へ移行させることで消費電力を抑え、Wi-Fi機器のバッテリーを長持ちさせる機能です。

メモ:

- 本製品のTWTは常に有効に設定されています。無効にできません。
- Wi-Fi機器側もTWTに対応している必要があります。

ビームフォーミングに対応(5 GHz(11ax/ac/n/a)のみ対応)

ビームフォーミングは、機器にめがけて集中的に電波を送信する機能です。機器の位置や距離を判別し、電波を適切に届けられます。

メモ:

- ビームフォーミングは、常に有効に設定されています。無効にできません。
- ビームフォーミングは、ビームフォーミングに対応した機器に対して使用できます。
- 2.4 GHz(11n/g/b)では、ビームフォーミングには対応していません。

802.11ax MU-MIMOに対応(5 GHzのみ対応)

MU-MIMOは、空間多重によってMU-MIMOに対応した複数の機器と同時に通信できる機能です。本製品では、最大2台の機器が同時通信できます。

メモ:

- 工場出荷時は有効に設定されています。通常はそのままご使用ください。
通信速度が安定しなかったり、通信速度が低下したりする場合は、無効にしてください。無効にする場合は、[\[5 GHz\(11ax/ac/n/a\)\]\(P103\)](#)の802.11ax MU-MIMOで、「使用する」のチェックを外してください。
- 機器側も802.11ax MU-MIMOに対応している必要があります。
- 2.4 GHz(11n/g/b)では、802.11ax MU-MIMOには対応していません。

動作環境

Wi-Fiルーター本体とWi-Fi接続するときの対応機器

Wi-Fi機能に対応したパソコン、Mac、スマートフォン、タブレット、ゲーム機など

Wi-Fiルーターを設定変更するときの対応機器・対応OS・対応ブラウザ

<対応機器>

パソコン、Mac、スマートフォン^{※1}、タブレット^{※1}

<対応OS>

Windows 11/10^{※2}

macOS 11以降

iOS 15以降

iPadOS 15以降

Android 9以降

<対応ブラウザ>

Microsoft Edge、Chrome、Firefox、Safari

※1 標準搭載のブラウザを使った初期設定(インターネット接続設定)のみ対応しています。

※2 64ビットと32ビットに対応しています。

<本製品の設定・利用時に使用するソフトウェア>

以下ダウンロードページの記載を確認してください。

https://86886.jp/wsr-1500ax2l_s/

電波の範囲を広げるには

本製品は、別売の中継機や中継機能のあるWi-Fiルーターと組み合わせて使用することで、Wi-Fi接続できる電波の範囲を広げることができます。

電波の範囲を広げる方法には次の2種類があります。

- ・ [「Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合」\(P.9\)](#)
- ・ [「メッシュネットワークを構築しない場合」\(P.18\)](#)

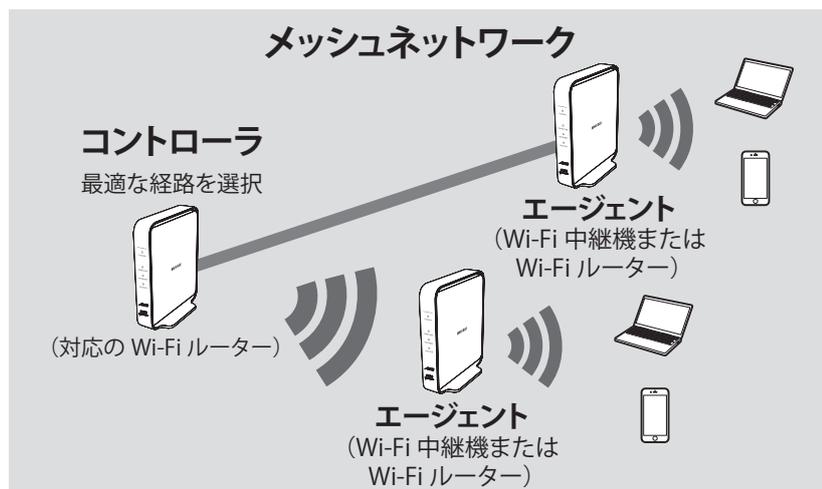
メモ: EasyMeshに対応していない中継機やWi-Fiルーターでは、メッシュネットワークを構築できません。EasyMeshに対応していないWi-Fi機器と組み合わせて使用する場合は、[「メッシュネットワークを構築しない場合」\(P.18\)](#)を参照してください。

Wi-Fi EasyMesh™でメッシュネットワークを構築する場合

EasyMeshとは

「Wi-Fi CERTIFIED EasyMesh®」とはWi-Fi Alliance の認定規格であり、EasyMeshに対応していれば異なるメーカー製品間でもメッシュネットワークを構築できます。

メッシュネットワークでは、ネットワークの管理を行う「コントローラ(対応のWi-Fiルーター)」と「エージェント(Wi-Fi中継機またはWi-Fiルーター)」が連携し情報共有することで、最適なWi-Fiネットワークを自動構築します。また、メッシュネットワーク内のより安定した接続先を検知し、機器に切り替えを促すことが可能なので、家の中を移動しながらでも快適にWi-Fiをご利用いただけます。



EasyMeshには、次の特長があります。

- ・ 一度LANケーブルで接続するだけでコントローラ(Wi-Fiルーター)とエージェント(Wi-Fi中継機またはWi-Fiルーター)として使用できます。従来のAOSSボタンやWPSボタンを使用する方法よりもかんたんに中継設定できます。
- ・ コントローラが経路を自動で最適化するので、接続や通信が安定して使用できます。

接続手順のながれ

手順のながれ	参照していただく取扱説明書	
	本製品をコントローラとして使用する場合	本製品をエージェントとして使用する場合
ステップ1 コントローラとエージェントを設定する	本書「 本製品をコントローラとして使用する 」(P.11)を参照	本書「 本製品をエージェントとして使用する 」(P.13)を参照
ステップ2 エージェントをコントローラに接続する	エージェントに付属の取扱説明書を参照	本書「 ステップ2 エージェントをコントローラに接続する 」(P.14)を参照
ステップ3 エージェントを設置する	エージェントに付属の取扱説明書を参照	本書「 ステップ3 エージェントを設置する 」(P.16)を参照
ステップ4 パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する	本書「 ステップ4 パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する 」(P.17)を参照	コントローラに付属の取扱説明書を参照

EasyMeshでの注意事項

- メッシュネットワークを利用するには、**コントローラおよびエージェントとして使用する「Wi-Fiルーター、Wi-Fi中継機」が、すべてEasyMeshに対応していることが必要**です。
当社製品のEasyMesh対応の型番とファームウェアのバージョンは、下記Webページを参照してください。
<https://www.buffalo.jp/support/taiou/easymesh.html>
- ネットワーク内にあるWi-Fi機器の1台が、コントローラとして設定されていること(コントローラは2台以上設置できません)
- ネットワーク内にあるWi-Fi機器が、エージェントとして設定されていること(エージェントは2台まで設置できます)
- 設定画面の[詳細設定] - [無線設定] - [EasyMesh]または[EasyMesh/中継機能(WB)]で[高速ローミング(11r)]の[使用する]にチェックが入っている場合、高速ローミングに対応していない機器が接続できなくなることがあります。このようなときは[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックすると改善する場合があります。
- 本製品がエージェントとして動作しコントローラと接続しているとき、本製品が送信するSSIDは接続しているコントローラのSSIDとなります。本製品がエージェントとして動作しコントローラと接続していないとき、本製品からSSIDは送信されません。

ステップ1 コントローラとエージェントを設定する

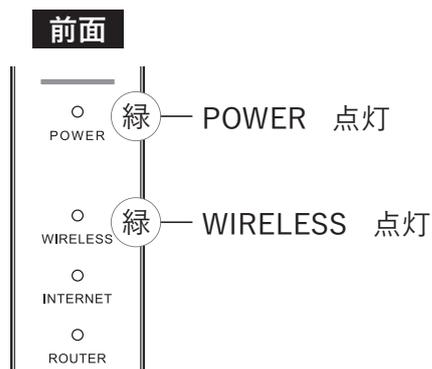
以下の手順を参照し、本製品をコントローラまたはエージェントに設定してください。

本製品をコントローラとして使用する

- 1 本製品のROUTER/AP/WBスイッチが「ROUTER」または「AP」になっていることを確認します。



- 2 エージェントの電源が入っているか確認し、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。
- 3 ACアダプターを接続してから約2分後、本製品前面のランプ(POWER、WIRELESS)が緑色に点灯していることを確認します。



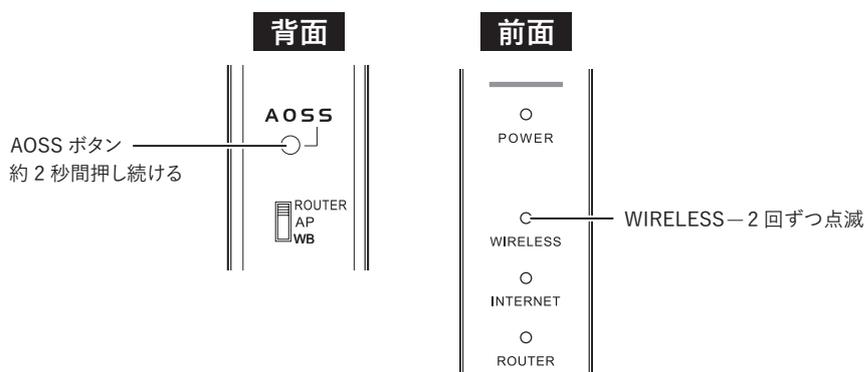
以上で、コントローラの設定は完了です。

続いて、エージェントに付属の取扱説明書を参照し、コントローラとエージェントを接続してください。

メモ: LANケーブルを使用せずに、AOSSボタンを使って本製品をコントローラとして設定するときは、次のように行います。

- (1) 本製品のROUTER/AP/WBスイッチが「**ROUTER**」または「**AP**」になっていることを確認します。
- (2) エージェントの電源が入っているか確認し、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。
- (3) ACアダプターを接続してから約2分後、本製品前面のランプ(POWER、WIRELESS)が緑色に点灯していることを確認します。
- (4) エージェントのAOSSボタンまたはWPSボタンを押します(製品によって操作は異なります)。
- (5) 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが緑色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。

メモ: AOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(緑)とROUTERランプ(緑)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引越し機能が動作します。このような状態になったときは、本製品からACアダプターを取り外し、もう一度(1)からやり直してください。



- (6) 正常に接続できると、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯します。
WIRELESSランプが緑色に高速で連続点滅(0.1秒間隔)しているときは、正しく接続できていません。
本製品からACアダプターを取り外し、(1)からもう一度やり直してください。

以上で設定は完了です。

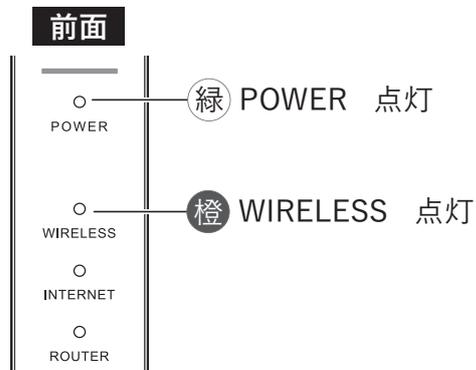
本製品をエージェントとして使用する

1 本製品のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」にします。



2 コントローラの電源が入っているか確認し、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。

3 ACアダプターを接続してから約2分後、本製品前面のランプの点灯を確認します。



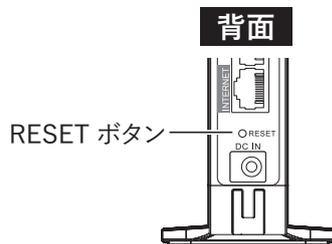
以上で、エージェントの設定は完了です。

続いて、[「ステップ2 エージェントをコントローラに接続する」\(P.14\)](#)を参照し、コントローラとエージェントの接続を実施してください。

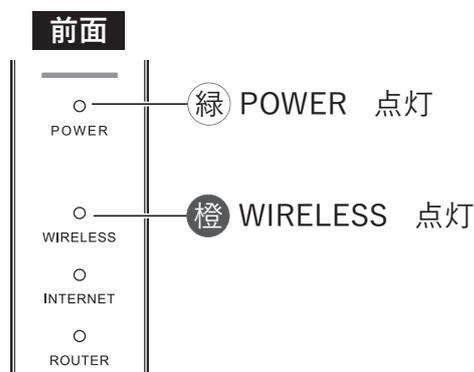
ステップ2 エージェントをコントローラに接続する

ここでは、本製品をエージェントとしてコントローラに接続する手順を記載しています。

- 1 本製品のRESETボタンを、先の細いもの(つまようじなど)で約3秒間長押しして、本製品を初期化します。



- 2 初期化してから約3分後、本製品前面のランプが図のように点灯していることを確認します。



- 3 本製品のLAN端子と、コントローラのLAN端子をLANケーブルで接続します。
- 4 LANケーブルを接続してから約2分後、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯していれば、コントローラとの接続は完了です。

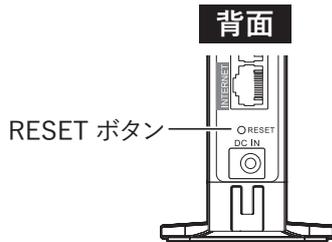
メモ: WIRELESSランプが橙色に高速で連続点滅(0.1秒間隔)しているときは、正しく接続できていません。手順1からもう一度やり直してください。

以上でコントローラと本製品(エージェント)の接続設定は完了です。

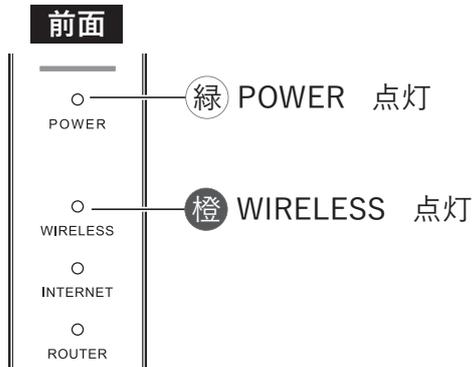
続いて、[「ステップ3 エージェントを設置する」\(P.16\)](#)を参照し、本製品を設置してください。

メモ: LANケーブルを使用せずに、AOSSボタンを使って本製品をエージェントとして設定するときは、次のように行います。

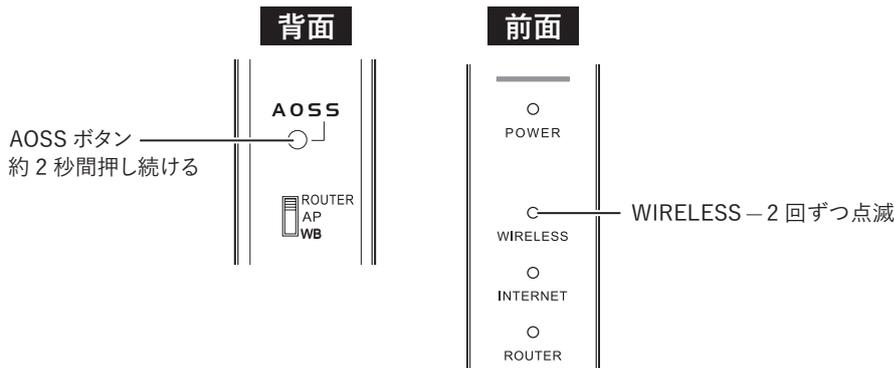
- (1) 本製品のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」にします。
- (2) コントローラの電源が入っているか確認し、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。
- (3) ACアダプターを接続してから約2分後、本製品前面のPOWERランプが緑色、WIRELESSランプが橙色に点灯していることを確認します。
- (4) 本製品のRESETボタンを、先の細いもの(つまようじなど)で約3秒間長押しして、本製品を初期化します。



- (5) 初期化してから約3分後、本製品前面のランプが図のように点灯していることを確認します。



- (6) 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが緑色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。



- (7) コントローラのAOSSボタンまたはWPSボタンを押します(製品によって操作は異なります)。

メモ: コントローラが当社製品の場合、コントローラのAOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(緑)とROUTERランプ(緑)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引越し機能が動作します。このような状態になったときは、本製品からACアダプターを取り外し、もう一度(1)からやり直してください。

- (8) 正常に接続できると、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯します。
WIRELESSランプが緑色に高速で連続点滅(0.1秒間隔)しているときは、正しく接続できていません。本製品からACアダプターを取り外し、(1)からもう一度やり直してください。

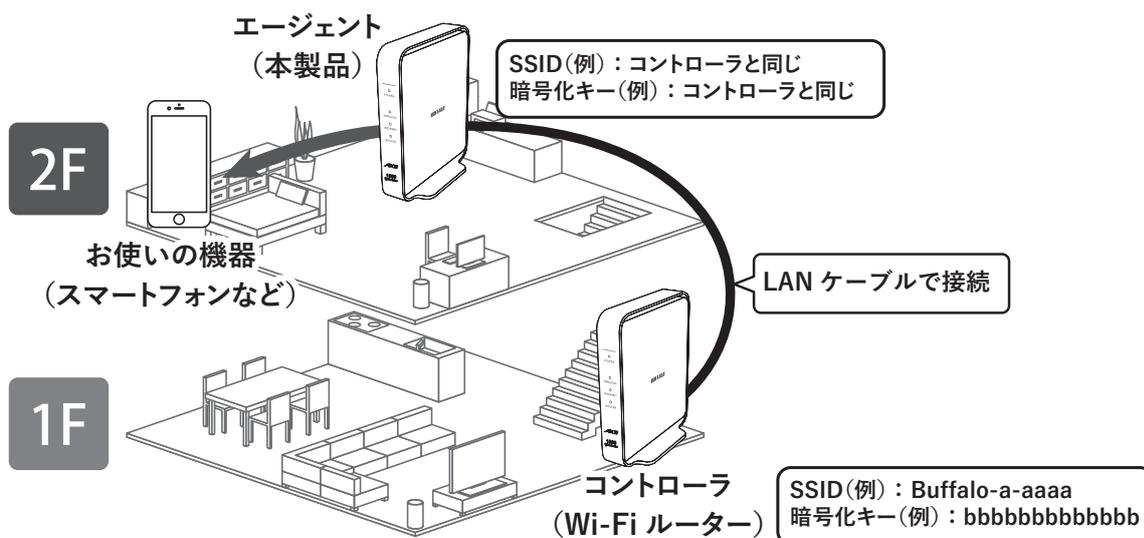
以上で設定は完了です。

ステップ3 エージェントを設置する

ステップ2でコントローラと接続した本製品を、設置する手順を記載します。
本製品を設置する場所へのLANケーブル配線のしやすさや、Wi-Fiの繋がりやすさを考慮し、コントローラとエージェントを『LANケーブル接続』で設置するのか、または『Wi-Fi接続』で設置するのかを判断してください。

エージェントをLANケーブル接続で使用する場合

- 1 本製品からLANケーブルとACアダプターを取り外します。
- 2 パソコンやスマートフォンを利用する場所の近くに本製品を置きます。
- 3 エージェント(本製品)とコントローラをLANケーブルで接続します。



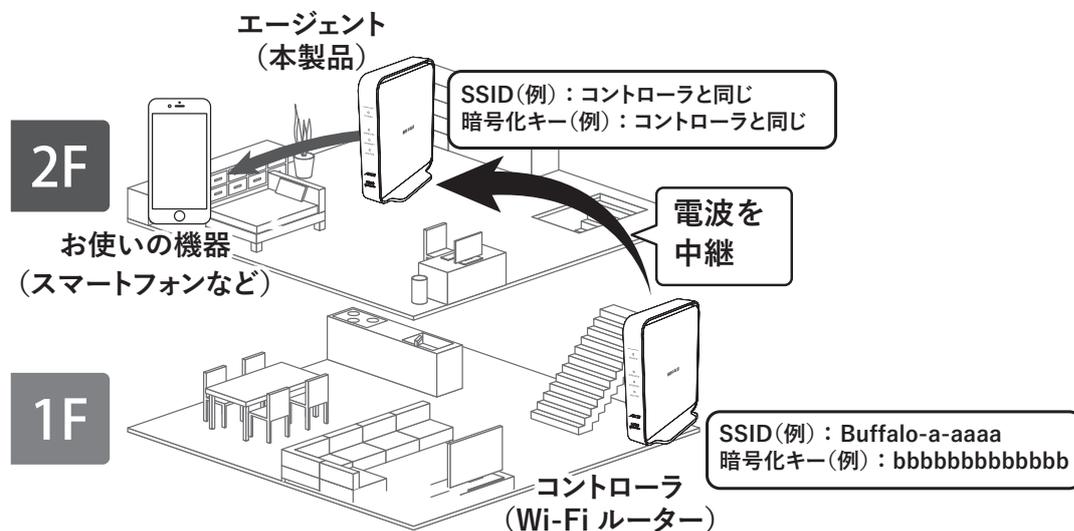
※コントローラとエージェントを接続するLANケーブルは別途ご用意ください。
例) 当社製LANケーブルBSLS6SU100BK2など

- 4 ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。
- 5 ACアダプターを接続してから約2分後、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯していれば、設置完了です。

続いて、「[ステップ4 パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する](#)」(P.17)を参照し、ネットワークに接続してください。

エージェントをWi-Fi接続で使用する場合

- 1 本製品からLANケーブルとACアダプターを取り外します。
- 2 コントローラ（Wi-Fi ルーター）の場所と、パソコンやスマートフォンを利用する場所の中間付近に本製品を置き、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します（電源が自動でONになります）。



- 3 ACアダプターを接続してから約3分後、本製品のWIRELESSランプが緑色に点灯していれば、設置完了です。

メモ: WIRELESSランプが橙色と緑色に交互に点滅しているときは、本製品がコントローラから離れすぎている可能性があります。本製品をコントローラに近い場所に移動させてお試しください。

以上で設定は完了です。

続いて、[「ステップ4 パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する」\(P.17\)](#)を参照し、ネットワークに接続してください。

ステップ4 パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する

メッシュネットワークは、コントローラのWi-Fi設定（SSIDや暗号化キー）に統一されています。パソコンやスマートフォンをEasyMeshのネットワークに接続する手順は、コントローラに付属の取扱説明書を参照してください。

メッシュネットワークを構築しない場合

中継機を本製品に接続する方法

中継機を本製品に接続する場合は、中継機の取扱説明書を参照して接続をしてください。

本製品を中継機として使用する方法

本製品を中継機として使用する方法は、以下の3つの方法があります。

- [「本体のボタンを押して設定する\(AOSS/WPSプッシュボタン式\)」\(P.20\)](#)
- [「Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する\(手動設定\)」\(P.22\)](#)※
- [「WPS\(PINコード式\)で設定する」\(P.25\)](#)※

※中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。

メモ:

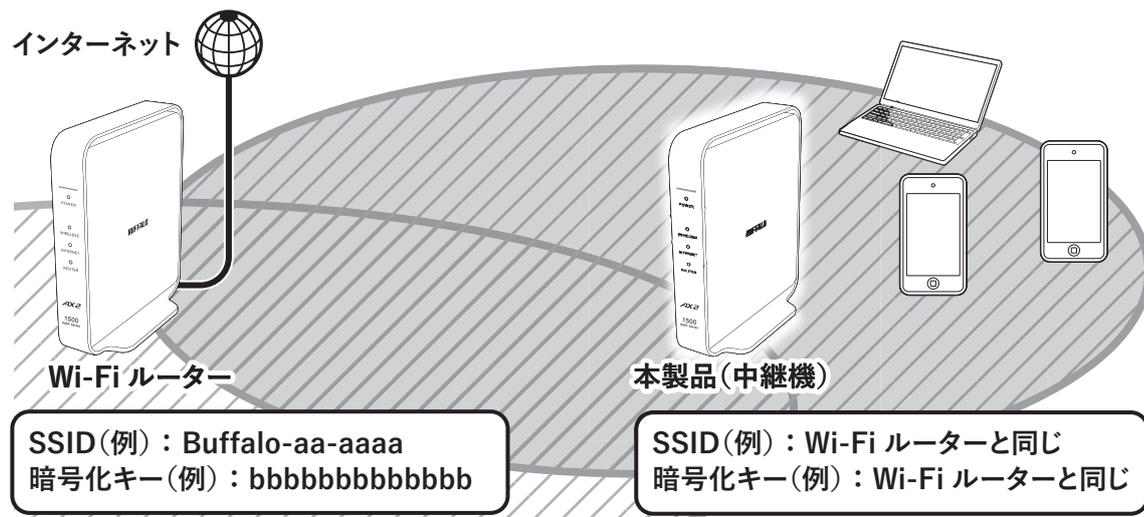
- EasyMesh対応Wi-Fiルーターに対して、本製品を中継機として使用したい場合は、事前にWi-FiルーターのEasyMesh機能を使用しないに設定してください。
接続先Wi-Fiルーターが当社製の場合は、設定画面を開き、[詳細設定]－[無線設定]－[EasyMesh]の[EasyMesh機能]で[使用する]のチェックが入っていれば外し、EasyMesh機能を無効にしてください。
- 以下の条件の場合、Wi-Fiルーターの設定(SSIDや暗号化キー)を引き継ぐことはできません。
 - 手動で接続している場合、Wi-Fiルーターと接続しているバンド以外の設定を引き継ぐことはできません。
 - Wi-Fiルーターで無効にしているバンドの設定は引き継ぐことができないことがあります。

ご利用イメージ

中継機導入前



中継機導入後



- 上記の「中継機導入後」の図において、パソコンやスマートフォンなどをWi-Fiルーターに近づけた場合、それらのWi-Fi機器は引き継いだSSIDで本製品からWi-Fiルーターへ接続を自動的に切り替え(ローミングを行います)。
- 本書に記載の手順で設定を行うと、本製品はWi-Fiルーターの設定(SSIDや暗号化キー)を引き継ぎますので、ご利用中のWi-Fi機器(パソコンやスマートフォンなど)の設定を変更することなくお使いいただけます。
- Wi-FiルーターにMACアクセス制限設定をしている場合は、[「MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する」\(P.29\)](#)を参照して設定してください。

本体のボタンを押して設定する(AOSS/WPSプッシュボタン式)

ここでは、本体のボタンを押して設定する手順(AOSS/WPSプッシュボタン式)を説明します。

メモ: WPSでは、Wi-Fiルーターの仕様によって引き継ぐWi-Fiルーターの設定(SSIDや暗号化キー)が異なります。

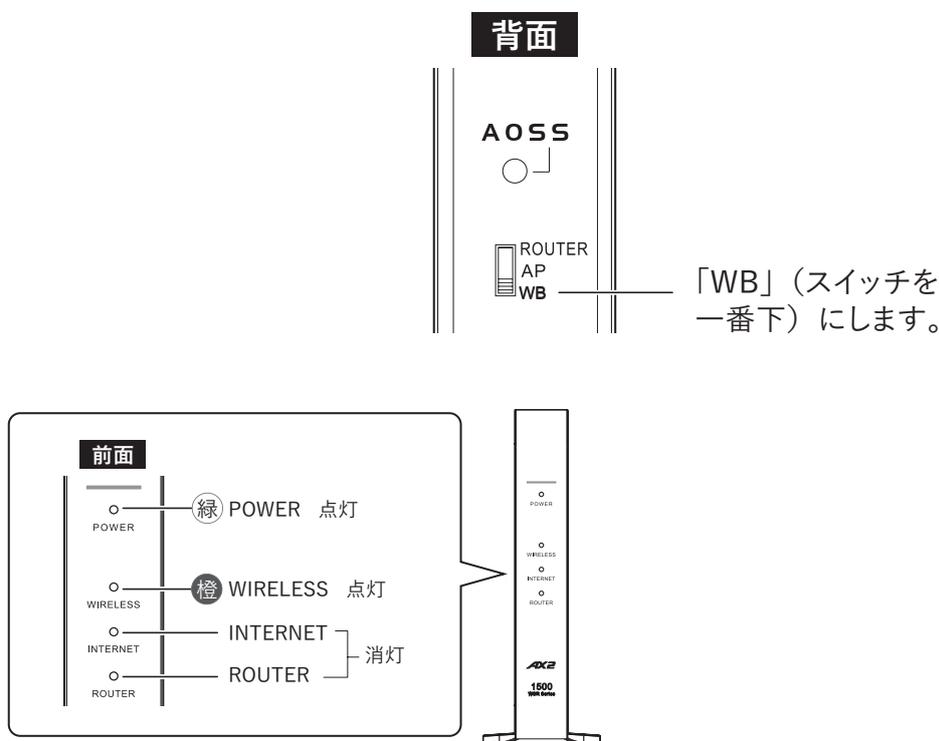
- 1 **すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いのWi-Fi機器(パソコンやスマートフォンなど)を接続してインターネットに接続できることを確認します。**

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

- 2 **本製品(中継機)のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」にして、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。**

約2分後、本製品(中継機)前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。

以下の状態でない場合は、本製品背面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで(約3秒間)長押しして初期化してください。



- 3 **本製品(中継機)のAOSSボタンを、WIRELESSランプが緑色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。**

2回ずつ連続点滅したら、ボタンから手を離します。

- 4 **Wi-FiルーターのAOSS/WPSボタンを押して、AOSS/WPS接続を開始します。**

ボタンを押す間隔は、お使いのWi-Fiルーターによって異なります。

メモ: Wi-Fiルーターが当社製品の場合、Wi-FiルーターのAOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(緑)とROUTERランプ(緑)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引越し機能が動作します。このような状態になったときは、本製品からACアダプターを取り外し、もう一度手順2からやり直してください。

- 5 **本製品(中継機)のWIRELESSランプが緑色に点灯していることを確認します。**

メモ:

- 本製品のWIRELESSランプが緑色に点滅している場合、2分程度待ってからもう一度ランプの状態を確認してください。

- その後もWIRELESSランプの点滅が続いている場合は、本製品からACアダプターを取り外し、もう一度手順2からやり直してください。

以上で中継機の設定は完了です。

Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する(手動設定)

ここでは、Wi-Fiルーターに設定されている暗号化キーを使って設定する手順(手動設定)を説明します。

メモ:

- ・ 中継機の設定画面を表示し、中継機の接続設定をするために、LAN端子を持つパソコンが必要です。
- ・ Wi-Fiルーターと接続しているバンドのみWi-Fiルーターの設定(SSIDや暗号化キー)を引き継ぎます。

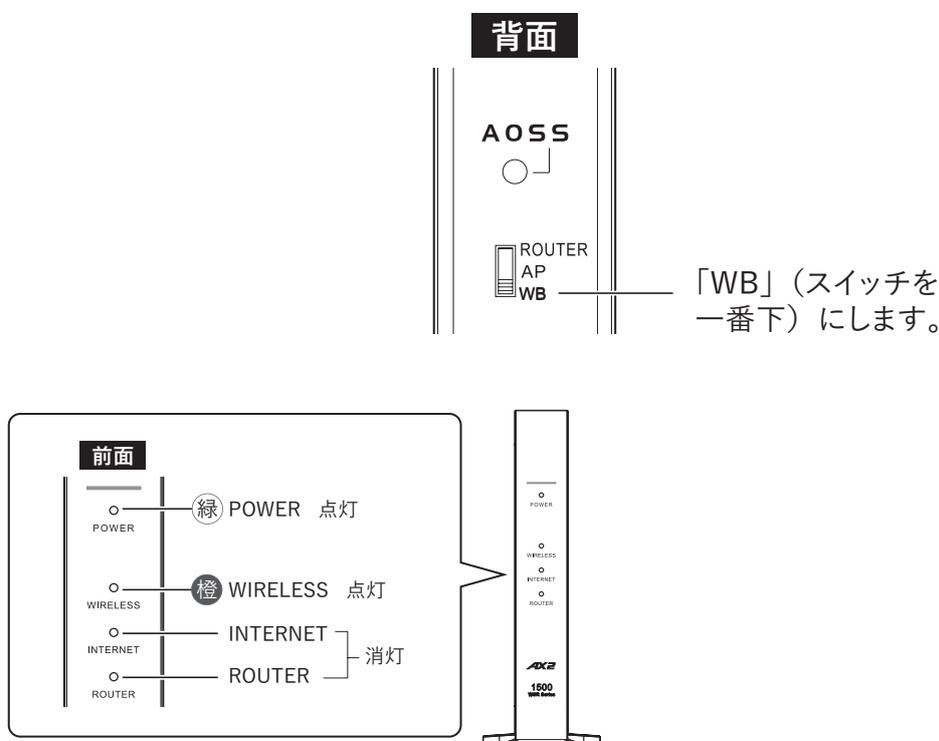
1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いのWi-Fi機器(パソコンやスマートフォンなど)を接続してインターネットに接続できることを確認します。

メモ: インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品(中継機)のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」にして、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。

約2分後、本製品(中継機)前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。

以下の状態でない場合は、本製品背面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで(約3秒間)長押しして初期化してください。



3 [「参考情報 パソコンのIPアドレスを一時的に固定する」\(P.150\)](#)を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx(例:192.168.11.135)に固定します。

メモ: 設定完了後にIPアドレスを元に戻せるように、変更前のIPアドレスはメモをすることをおすすめします。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

6 セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。

メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

本機ログイン用

ユーザー名: admin
パスワード: XXXXXXXXX

ユーザー名
admin

パスワード
●●●●●●●●

モバイル用設定画面

ログイン

7 「詳細設定」-「無線設定」-「EasyMesh/中継機能(WB)」をクリックします。

8 「手動設定をする」をクリックします。

Wi-Fiルーターと無線接続

EasyMeshまたは 中継機能(WB)で接続	WiFiルーターとのWPSを開始する
中継機能(WB)で接続	手動設定をする
	PINを使用したWPSを開始する

9 接続先のWi-Fiルーターを選択し、[選択]をクリックします。

接続するエアステーション(親機)の選択

選択	SSID	電波	暗号化	無線モード
<input checked="" type="radio"/>	Buffalo-XXXXXX-WPA3	△	○	ax/ac/n/a
<input type="radio"/>	Buffalo-XXXXXX-WPA3	△	○	ax/ac/n/a
<input type="radio"/>	Buffalo-XXXXXX-WPA3	△	○	ax/ac/n/a

選択

再検索

決定

キャンセル

10 接続先のWi-FiルーターのWPA-PSK(事前共有キー)を入力し、[決定]をクリックします。

SSID	<input type="text" value="Buffalo-XXXXXX-WPA3"/>
無線の認証	<input type="text" value="WPA3 Personal"/>
無線の暗号化	<input type="text" value="AES"/>
WPA-PSK (事前共有キー)	<input type="text" value="XXXXXXXXXXXXXXXX"/>

11 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを変更前の状態に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

WPS(PINコード式)で設定する

ここでは、PINコードを使って設定する手順を説明します。

メモ:

- Wi-Fiルーターと接続しているバンドのみ、Wi-Fiルーターの設定(SSIDや暗号化キー)を引き継ぎます。
- PINコードを使って設定するためには、パソコンが2台必要になります。
 - 接続先Wi-Fiルーターの設定画面を表示するパソコン
 - 本製品の設定画面を表示し、本製品の接続設定をする、LAN端子を持つパソコン

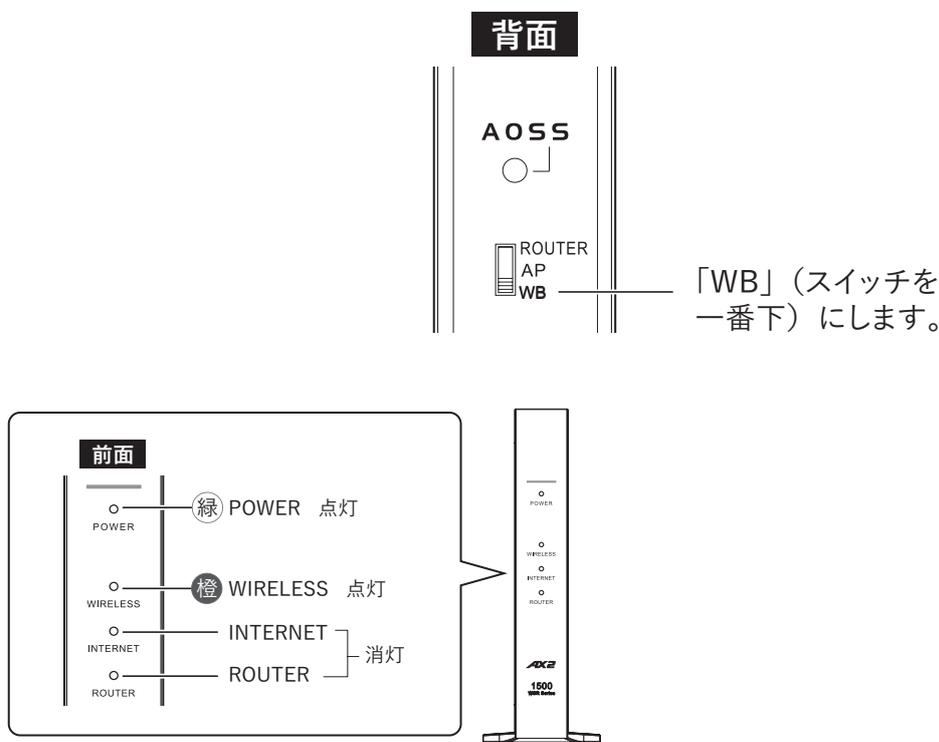
1 すでに設置済みのWi-Fiルーターに、お使いのWi-Fi機器(パソコンやスマートフォンなど)を接続してインターネットに接続できることを確認します。

インターネットに接続できない場合、Wi-Fiルーターの説明書を参照して設定を行い、インターネットに接続できることを確認してください。

2 本製品(中継機)のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」にして、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。

約2分後、本製品(中継機)前面のランプが以下の状態になっていることを確認します。

以下の状態でない場合は、本製品背面のRESETボタンをPOWERランプが緑色に点滅するまで(約3秒間)長押しして初期化してください。



3 [「参考情報 パソコンのIPアドレスを一時的に固定する」\(P.150\)](#)を参照して、設定用パソコンのIPアドレスを192.168.11.xxx(例:192.168.11.135)に固定します。

メモ: 設定完了後にIPアドレスを元に戻せるように、変更前のIPアドレスはメモをすることをおすすめします。

4 中継機と設定用パソコンをLANケーブルで接続します。

5 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

6 セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。

メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

本機ログイン用

ユーザー名: admin
パスワード: XXXXXXXXX

ユーザー名
admin

パスワード
●●●●●●●●

モバイル用設定画面

ログイン

7 「詳細設定」-「無線設定」-「EasyMesh/中継機能(WB)」をクリックします。

8 「PINを使用したWPSを開始する」をクリックします。

Wi-Fiルーターと無線接続

EasyMeshまたは 中継機能(WB)で接続	WiFiルーターとのWPSを開始する
中継機能(WB)で接続	手動設定をする
	PINを使用したWPSを開始する

- 9 画面上部に表示されている「PINコード」を控え、接続先のWi-Fiルーターを選択し、「PIN実行」をクリックします。

選択	SSID	無線ch	電波	暗号化	無線モード
<input checked="" type="radio"/>	Buffalo-5G-XXXX	108	○	○	ax/ac/n/a
<input type="radio"/>	Buffalo-XXXX-WPA3	128	○	○	ax/ac/n/a
<input type="radio"/>	Buffalo-XXXX-WPA3	128	○	○	ax/ac/n/a

PIN 実行 再検索 キャンセル

メモ: 「PIN実行」をクリックすると、「WPSを実施しています。」と表示されますので、2分以内に手順10～12を完了させてください。

- 10 別のパソコンなどを使って、接続先のWi-Fiルーターの設定画面を表示します。

- 11 WPS設定の画面を表示します。

メモ: 接続先のWi-Fiルーターが当社エアステーションシリーズの場合は、無線設定ページにあるWPSの画面を表示します。

- 12 手順9で控えたPINコードを登録します。

WPS機能 使用する
 外部Registrar 使用する

エアステーションのPINコード XXXXXXXX PIN生成
 EnrolleeのPINコード XXXXXXXX OK

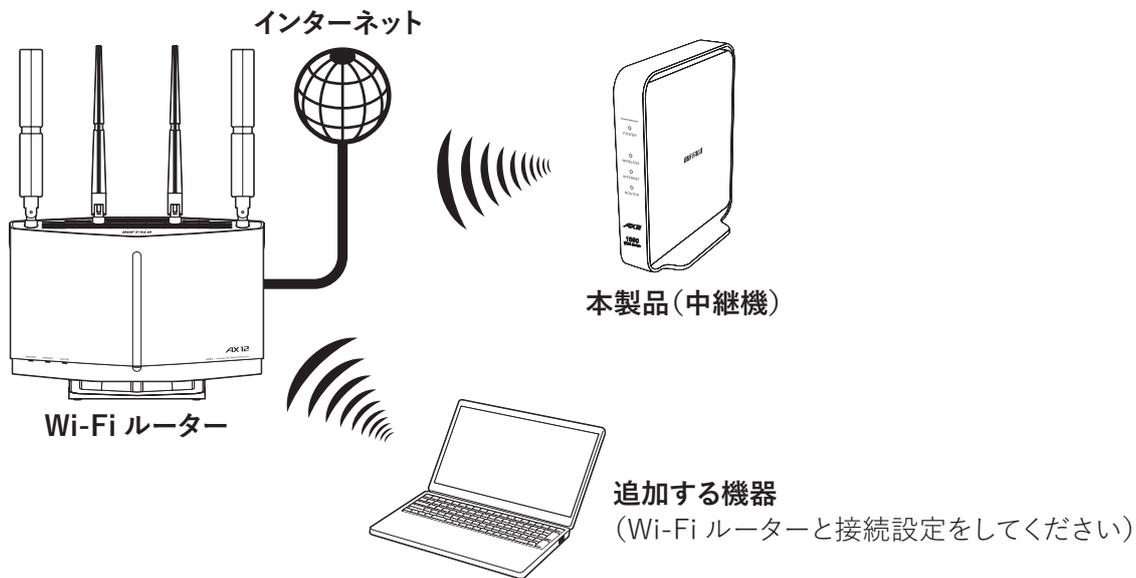
メモ: 接続先が当社エアステーションシリーズの場合は、「EnrolleeのPINコード」にPINコードを入力し、「OK」をクリックしてください。

- 13 手順3で固定した設定用パソコンのIPアドレスを変更前の状態に戻します。

以上で中継機の設定は完了です。

機器を追加する場合

[「本製品を中継機として使用方法」\(P18\)](#)に記載の手順で設定した環境にWi-Fi機器を追加する場合は、お使いのWi-Fiルーターの取扱説明書を参照し、Wi-Fiルーターと各Wi-Fi機器を接続してください。



メモ: パソコンなどの各Wi-Fi機器は、Wi-Fiルーターと接続設定を行うことで、中継機にも接続できるようになります(中継機と各機器間では、接続設定を行うことはできません)。

MACアクセス制限を使用している環境で中継機を使用する

MACアクセス制限を使用している環境で、本製品を中継機として設置する方法を説明します。

MACアクセス制限下での注意事項

通常、MACアクセス制限を行う場合は、お使いの機器のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録し、制限をかけます。

一方、中継機を経由した通信にMACアクセス制限を行う場合は、中継機の無線MACアドレスをWi-Fiルーターに登録し、その中継機に接続する機器のMACアドレスを中継機に登録する必要があります(Wi-Fi機器がWi-Fiルーターに直接接続する可能性がある場合は、Wi-Fiルーターにも登録します)。

中継機の無線MACアドレスがWi-Fiルーターに登録されていない場合、中継機からWi-Fiルーターへの通信が制限されてしまい、中継機に接続しているWi-Fi機器からは、中継機を経由した通信ができません。

以下の手順に従って、設定を行ってください。

設定のながれ

設定は以下のながれで行います。

ステップ1 中継機(本製品)、Wi-Fi機器のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録する

ステップ2 Wi-Fi機器のMACアドレスを中継機(本製品)に登録する

ステップ3 中継機(本製品)をWi-Fiルーターに接続する

それぞれのステップにおける手順は、以下の[「設定手順」\(P.29\)](#)を参照してください。

設定手順

ステップ1 中継機(本製品)、Wi-Fi機器のMACアドレスをWi-Fiルーターに登録する

メモ: MACアクセス制限後は、ここで登録していないWi-Fi機器は、中継機(本製品)およびWi-FiルーターにWi-Fi接続できなくなりますので注意してください。

- 1** Wi-FiルーターにMACアクセス制限が設定されている場合は、一時的にWi-FiルーターのMACアクセス制限を無効にします。
- 2** 通信を許可したいWi-Fi機器すべてをWi-Fiルーターに接続します。
接続方法は、各機器の取扱説明書を参照してください。
- 3** [「本製品を中継機として使用する方法」\(P.18\)](#)を参照して、中継機(本製品)をWi-Fiルーターに接続します。
- 4** Wi-Fiルーターの設定画面を表示します。Wi-FiルーターがWSR-1500AX2Lの場合は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

以下の手順・画面は、Wi-FiルーターがWSR-1500AX2Lの場合の例です。異なるWi-Fiルーターをご利用の場合は、Wi-Fiルーターの取扱説明書に従ってください。

- 5** 「詳細設定」-「無線設定」-「MACアクセス制限」をクリックします。

6 「登録リストの編集」をクリックします。

無線パソコンの接続 (2.4GHz)	<input type="checkbox"/> 制限する
無線パソコンの接続 (5GHz)	<input type="checkbox"/> 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
MACアドレスが登録されていません	
<input type="button" value="登録リストの編集"/>	

7 「検出された無線パソコン一覧」欄で「登録」をクリックし、表示されているMACアドレスをすべて登録します。

登録リストの新規追加	
登録するMACアドレス	<input type="text"/>
<input type="button" value="新規追加"/>	
登録リスト	
MACアドレス	操作
MACアドレスが登録されていません	
検出された無線パソコン一覧	
MACアドレス	操作
XX:XX:XX:XX:XX:XX	<input type="button" value="登録"/>
XX:XX:XX:XX:XX:XX	<input type="button" value="登録"/>
XX:XX:XX:XX:XX:XX	<input type="button" value="登録"/>
<input type="button" value="現在の状態を表示"/>	

8 「編集を終了して前の画面へ戻る」をクリックします。

9 「無線パソコンの接続」を「制限する」に設定し、[設定]をクリックします。

無線パソコンの接続 (2.4 GHz)	<input checked="" type="checkbox"/> 制限する
無線パソコンの接続 (5 GHz)	<input checked="" type="checkbox"/> 制限する

登録リスト	
MACアドレス	接続状態
XX:XX:XX:XX:XX:XX	○
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	○
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	×
XX:XX:XX:XX:XX:XX	○

登録リストの編集

メモ: 2.4 GHz、5 GHz両方を「制限する」に設定してください。

10 画面右上の「ログアウト」アイコンをクリックします。

以上でステップ1は完了です。
続いてステップ2へ進みます。

ステップ2 Wi-Fi機器のMACアドレスを中継機(本製品)に登録する

- 1** 中継機(本製品)のROUTER/AP/WBスイッチを「ROUTER」に設定して、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。
- 2** 通信を許可したいWi-Fi機器すべてを中継機(本製品)にWi-Fi接続します。
接続方法は、各機器の取扱説明書を参照してください。
- 3** 中継機(本製品)の設定画面を表示します。
メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。
- 4** 上記ステップ1の手順5～10を行います。

以上でステップ2は完了です。
続いてステップ3へ進みます。

ステップ3 中継機(本製品)をWi-Fiルーターに接続する

- 1** 中継機(本製品)のROUTER/AP/WBスイッチを「WB」に設定して、ACアダプターを本製品とコンセントに接続します(電源が自動でONになります)。
- 2** 上記ステップ1の手順2ですでに中継機(本製品)とWi-Fiルーターとの接続設定を行っているため、自動的にWi-Fiルーターに接続されます。中継機(本製品)のWIRELESSランプが緑色に点灯したら、接続完了です。
メモ:
 - 中継機(本製品)のWIRELESSランプが橙色に点滅している場合は、[「本製品を中継機として使用する方法」\(P.18\)](#)を参照して、中継機(本製品)をWi-Fiルーターに接続してください。
 - ここで設定した環境にパソコンやスマートフォンなどの機器を追加する場合は、Wi-Fiルーターと中継機(本製品)両方にMACアドレスを登録してください。

以上で設定は完了です。

機器をWi-Fi接続するには

WPA3で接続する方法

本製品はWPA3(Wi-Fiの新しい暗号化設定)に対応しています。
WPA3に対応した機器をお使いで、WPA3を使って本製品に接続したい場合は、以下の手順で設定してください。

メモ:

- 2024年7月現在、[「QRコードを使って接続する方法\(QRsetup\)」\(P.35\)](#)や[「AOSSで接続する方法」\(P.36\)](#)、[「WPSで接続する方法」\(P.38\)](#)は、WPA3に対応していません。
- お使いの機器やOS、ドライバーによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。

1 本製品に設定されているSSIDや暗号化キーを確認します。

本製品ご購入時のSSIDや暗号化キーは、セットアップカードで確認できます。

メモ:

- 本製品ご購入時のWPA3用のSSIDは、セットアップカードに記載の5 GHzおよび2.4 GHzのSSID末尾に「-WPA3」を加えたものです(例: Buffalo-5G-XXXX-WPA3、Buffalo-2G-XXXX-WPA3など)。
- 本製品ご購入時のWPA3用の暗号化キーは、セットアップカードに記載の暗号化キーと同一です。

2 お使いの機器から本製品を検索します。

お使いの機器でWi-Fiの設定画面を表示し、手順1で確認したWPA3用のSSIDを選択してください。

3 本製品の暗号化キーを入力します。

入力画面が表示されたら、手順1で確認したWPA3用の暗号化キーを入力してください。

メモ: 暗号化キーは、お使いの機器によっては、「パスワード」や「ネットワークセキュリティキー」と表示されます。

4 しばらくして、お使いの機器の画面にWi-Fiアイコンが表示されたら、接続は完了です。

Wi-Fiアイコンが表示されない場合は、手順1からやり直してください。

メモ: Wi-Fiアイコンは、お使いの機器によって異なります(例: 、、、)。

暗号化キーを使って接続する方法(手動設定)

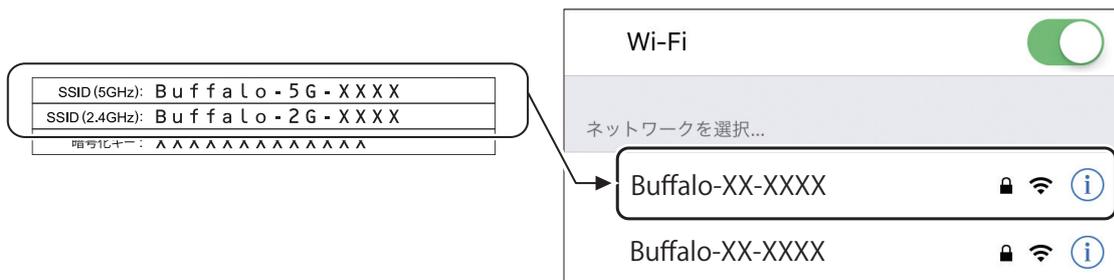
本製品に設定されている暗号化キー(機器によっては、「パスワード」や「ネットワークセキュリティキー」と表示されます)を使って接続する方法です。
設定は以下のながれで行います。

1 本製品に設定されているSSIDや暗号化キーを確認します。

本製品ご購入時のSSIDや暗号化キーは、セットアップカードで確認できます。

2 お使いの機器から本製品を検索します。

お使いの機器でWi-Fiの設定画面を表示し、手順1で確認した本製品のSSIDを選択してください。

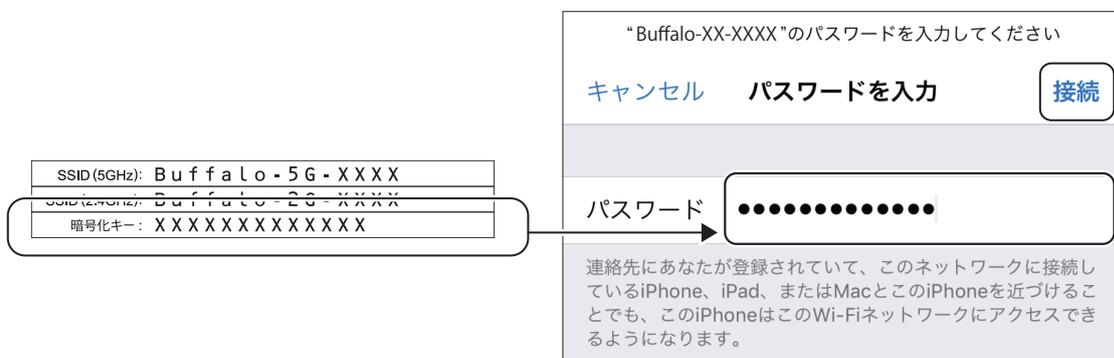


メモ:

- WPA3対応の機器の場合、セットアップカードに記載の5 GHzおよび2.4 GHzのSSID末尾に「-WPA3」の文字が追加されたSSIDも表示されます。「-WPA3」の文字が追加されたSSIDは、通常のSSIDを選択したときよりも強固なセキュリティで接続ができます。
- 上の画面は一例です。お使いの機器によって異なります。

3 本製品の暗号化キーを入力します。

入力画面が表示されたら、手順1で確認した暗号化キーを入力してください。



メモ: 上の画面は一例です。お使いの機器によって異なります。

4 画面に従って設定を行います。

しばらくして、お使いの機器の画面にWi-Fiアイコンが表示されたら、接続は完了です。
Wi-Fiアイコンが表示されない場合は、手順1からやり直してください。

メモ: Wi-Fiアイコンは、お使いの機器によって異なります(例: 、、、)。

QRコードを使って接続する方法(QRsetup)

QRsetup(専用アプリ)を使って接続する方法です。

QRsetupが利用できる機器は以下のとおりです。

- QRsetupをインストールしたiPod touch/iPhone/iPad
- QRsetupをインストールしたAndroid機器

メモ: QRsetupは、App StoreまたはGoogle Playからダウンロードできます。

設定は以下のながれで行います。

- 1** お使いの機器でQRsetup  を起動し、QRコードの読み取り画面を表示します。
カメラや位置情報へのアクセス許可を求める画面が表示された場合は、許可してください。
- 2** セットアップカードに記載されているQRコードを読み取ります。
- 3** 以降は画面の指示に従って設定を進めます。
設定中にパスコードの入力画面が表示された場合は、お使いの機器に設定しているパスコードを入力してください。

AOSSで接続する方法

お使いの機器のAOSS機能(AirStation One-Touch Secure System)を使って接続する方法です。AOSSが利用できる機器は以下のとおりです。

- ・「AOSS」アプリをインストールしたAndroid機器(機器単体でAOSSに対応している場合も含む)
- ・「クライアントマネージャV」をインストールしたWindowsパソコン
- ・AOSSに対応した機器(プリンター、ゲーム機など)

メモ:

- ・Android用「AOSS」アプリは、下記からダウンロードできます。

Android 9:Google Play

Android 10以降:当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/support/download/detail/?dl_contents_id=2812)

Android 10以降のアプリのインストール手順は、「<https://www.buffalo.jp/support/faq/detail/124157018.html>」を参照してください。

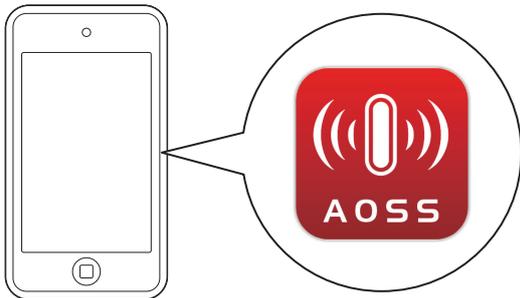
- ・「クライアントマネージャV」は、下記当社ホームページからダウンロードできます。
https://www.buffalo.jp/support/download/detail/?dl_contents_id=60661

設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でAOSS接続を開始します。

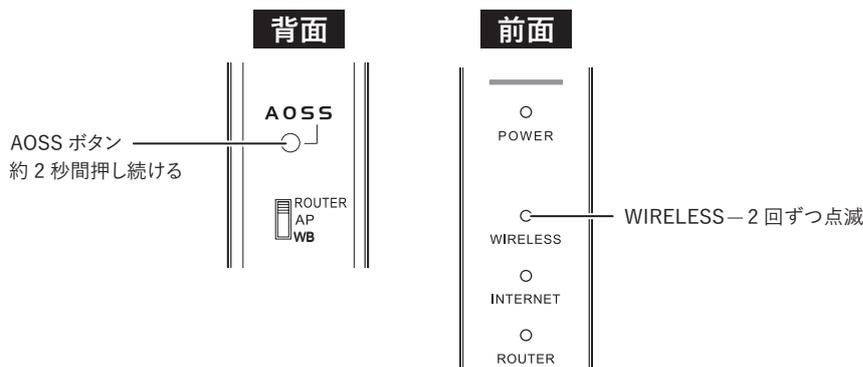
AOSSボタンがある機器をお使いの場合は、AOSSボタンを押してください。

Android機器やWindowsパソコンの場合は、アプリからAOSSを実行してください。



2 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが緑色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。

メモ: AOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(緑)とROUTERランプ(緑)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引越し機能が動作します。このような状態になったときは、本製品からACアダプターを取り外します。もう一度本製品にACアダプターを接続し(電源が自動でONになります)、手順1からやり直してください。



- 3** AOSSボタンを押してから約2分後、本製品のWIRELESSランプが点灯したら、接続は完了です。
高速で連続点滅(0.1秒間隔)している場合は、手順1からやり直してください。

WPSで接続する方法

お使いの機器のWPS機能(Wi-Fi Protected Setup)を使って接続する方法です。
WPSが利用できる機器は以下のとおりです。

- WPSに対応したAndroid機器
- WPSに対応したWindowsパソコン
- WPSに対応した機器(プリンター、ゲーム機など)

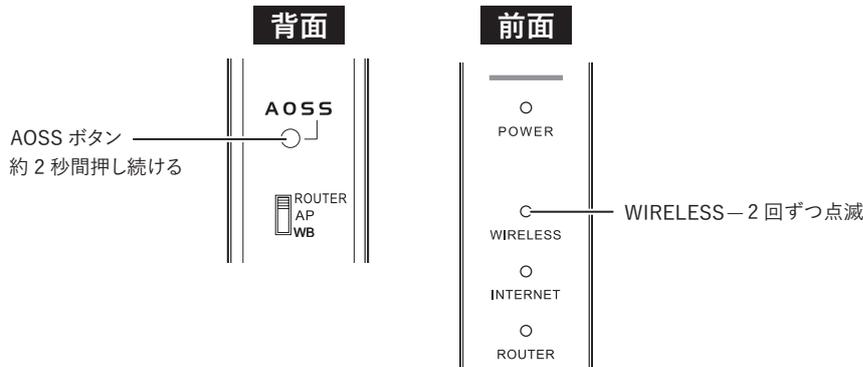
設定は以下のながれで行います。

1 お使いの機器でWPS接続を開始します。

メモ: WPS接続の開始方法は、お使いの機器によって異なります。詳細はお使いの機器の取扱説明書を参照してください。

2 本製品のAOSSボタンを、WIRELESSランプが緑色に2回ずつ連続点滅するまで(約2秒間)長押しします。

メモ: AOSSボタンは10秒以上長押ししないでください。10秒以上長押しすると、WIRELESSランプ(橙)とINTERNETランプ(緑)とROUTERランプ(緑)の3つのランプが2回ずつ点滅し、無線引越し機能が動作します。このような状態になったときは、本製品からACアダプターを取り外します。もう一度本製品にACアダプターを接続し(電源が自動でONになります)、手順1からやり直してください。



3 AOSSボタンを押してから約2分後、本製品のWIRELESSランプが点灯したら、接続は完了です。

高速で連続点滅(0.1秒間隔)している場合は、手順1からやり直してください。

第2章 本製品の各種設定

本章では、本製品の各種設定について説明します。

本製品の設定を変更するには

スマートフォン・タブレットをお使いの場合

「AirStationアプリ^{*}」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

^{*}バージョン3.0以降、アプリ名称を「StationRadar」から「AirStationアプリ」に変更しています。本書では、AirStationアプリを使用した例を説明しています。

メモ:

- AirStationアプリは、App StoreまたはGoogle Playでダウンロードできます。
- スマートフォンやタブレットを本製品に接続した状態で使用してください。

1 AirStationアプリ を起動します。

メモ: はじめて起動したときは、「このアプリでできること」が表示されます。このようなときは、[次へ]をタップして画面を進めてください。

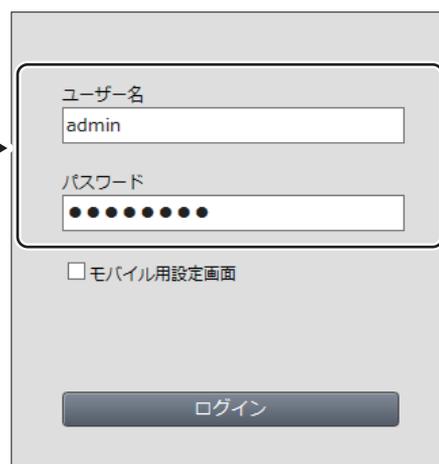
2 AirStationアプリを起動すると、自動的に検索が始まります。本製品が見つかったら、本製品の製品名をタップします。

3 [設定画面を表示する]→[設定画面を開く]を選択し、セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をタップします。

本機ログイン用

ユーザー名: admin

パスワード: XXXXXXXX



ユーザー名
admin

パスワード
●●●●●●●●

モバイル用設定画面

ログイン

メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

4 本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。

メモ: 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

Windowsをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

メモ:

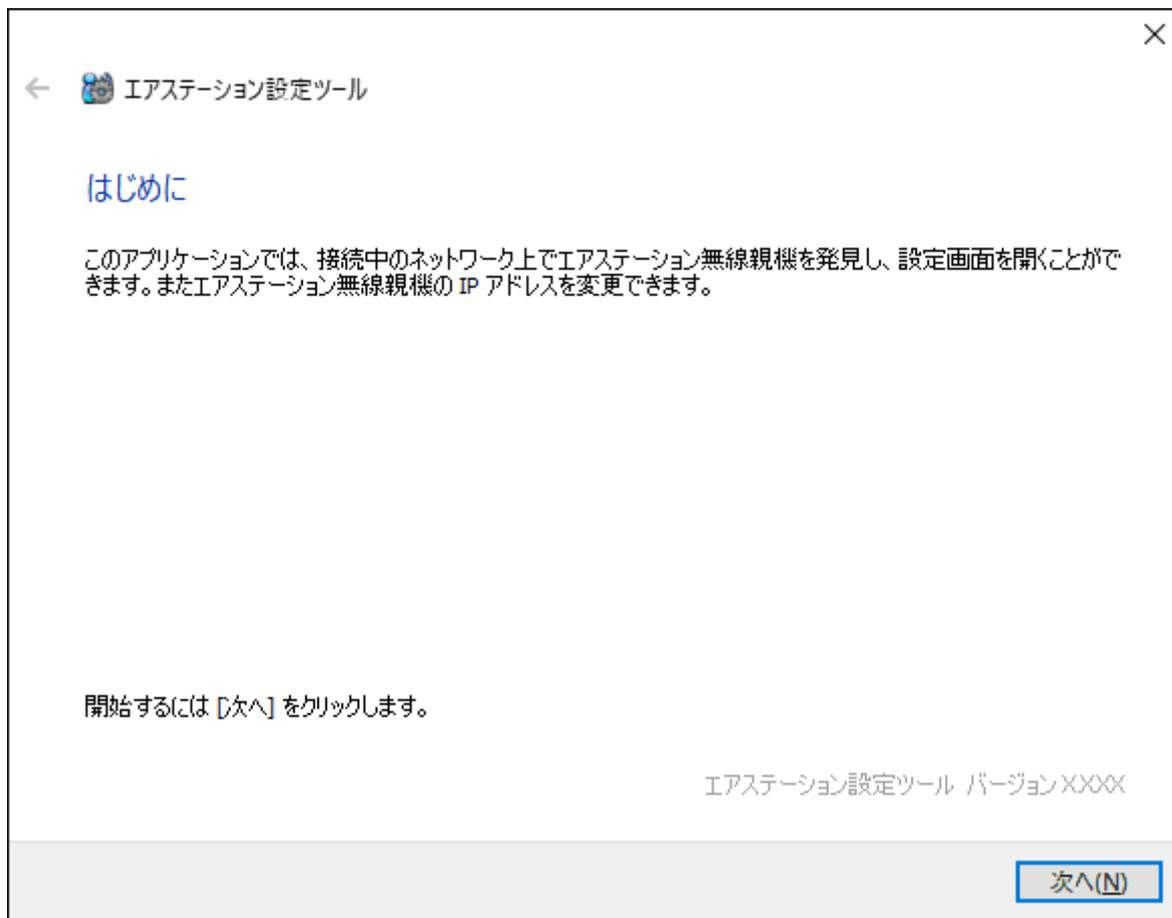
- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(<https://86886.jp/airset/>)でダウンロードできます。
- パソコンを本製品に接続した状態で使用してください。



1 エアステーション設定ツール を起動します。

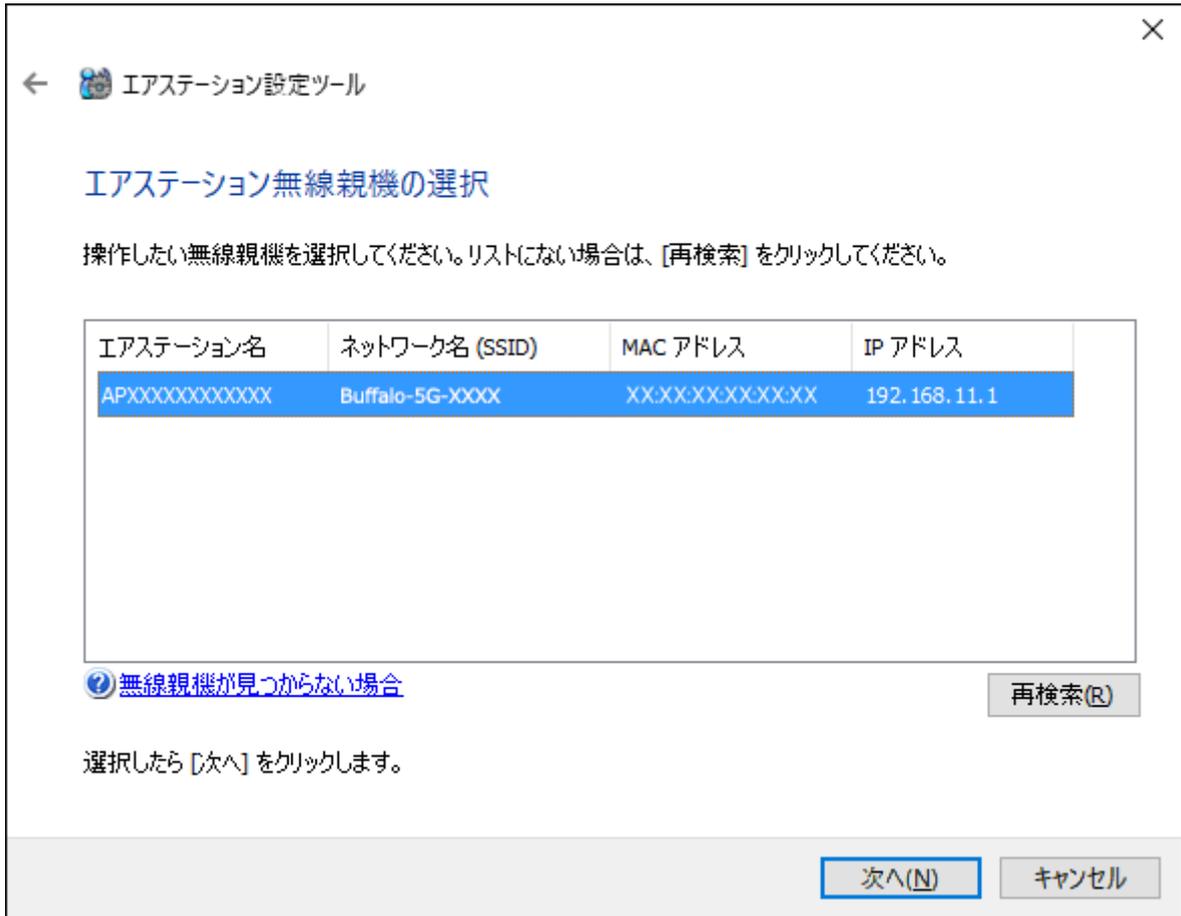
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。

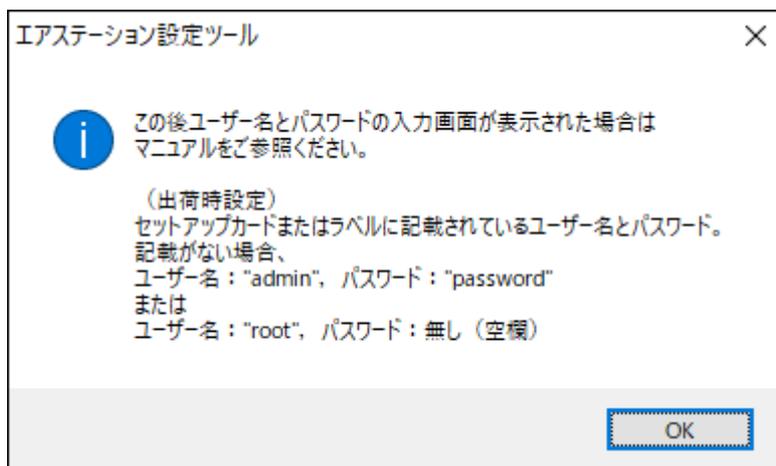


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。

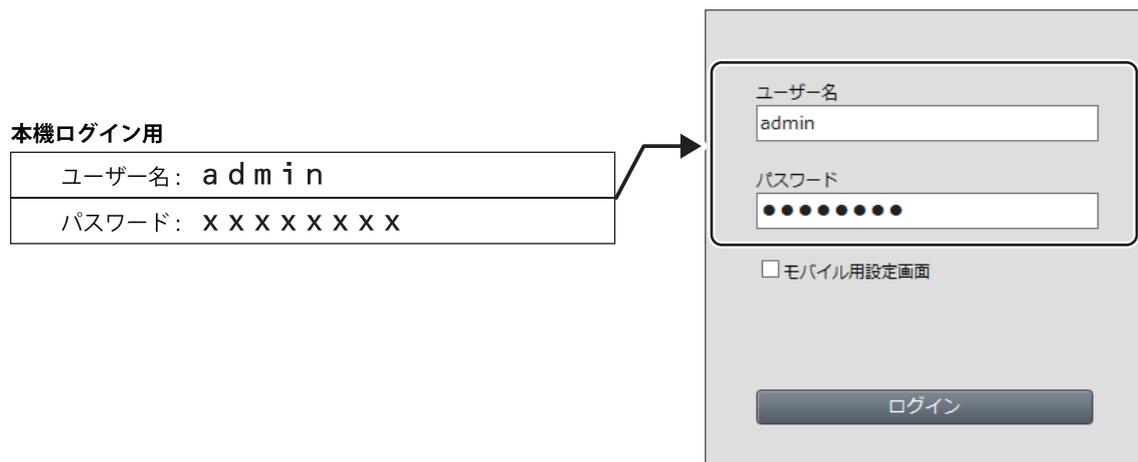


5 [OK]をクリックします。



本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「このパソコンのIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。しばらくすると、パソコンに新しいIPアドレスが設定され、手順6の画面が表示されます。「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されたときは、「はい」をクリックしてください。

6 セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。

メモ:

- 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。
- 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

Macをお使いの場合

「エアステーション設定ツール」を使って本製品の設定画面にアクセスし、本製品を設定します。

メモ:

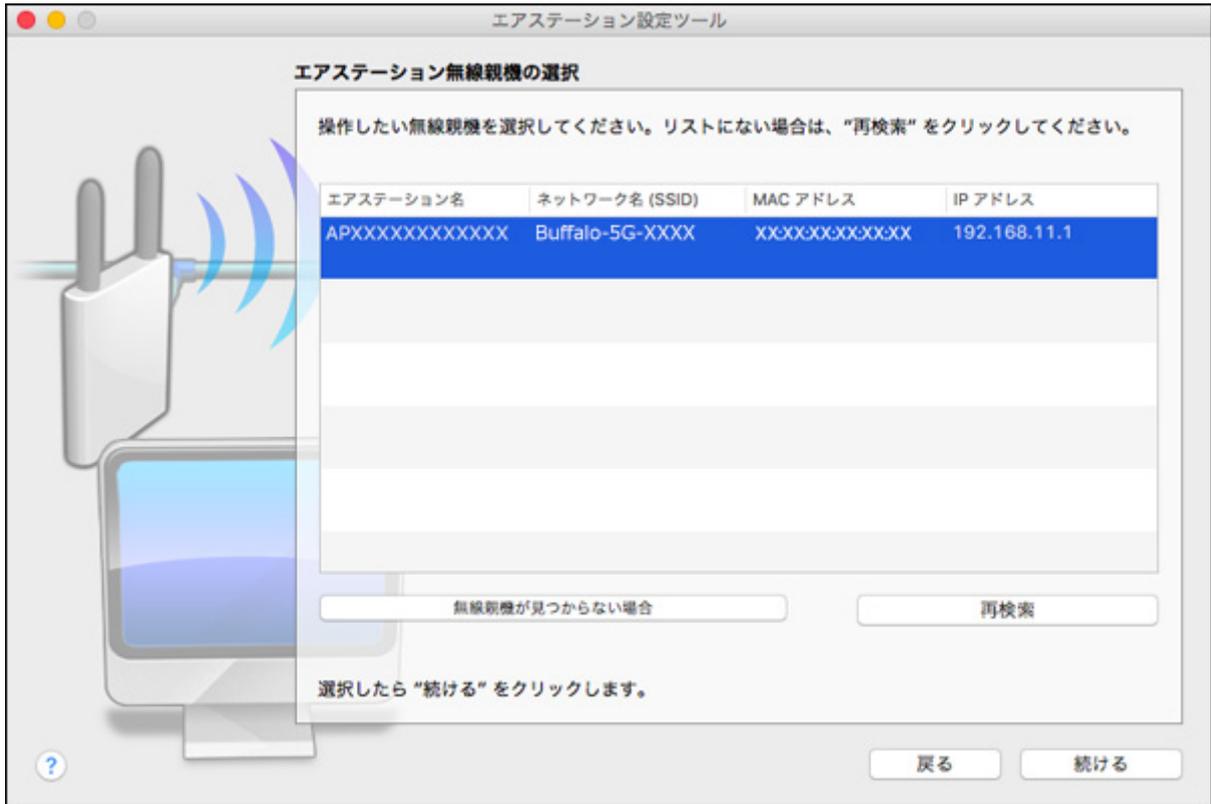
- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(<https://86886.jp/airset/>)でダウンロードできます。
- Macを本製品に接続した状態で使用してください。

1 エアステーション設定ツール  を起動します。

2 [続ける]をクリックします。



3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。

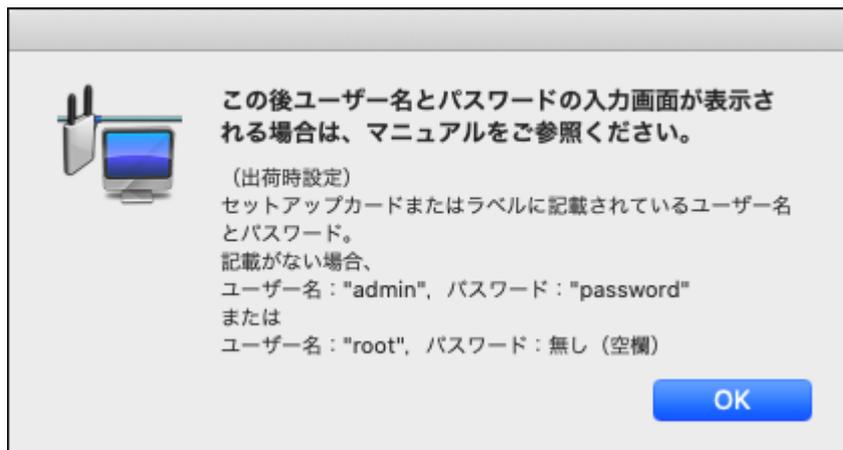


メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [設定画面を開く]をクリックします。

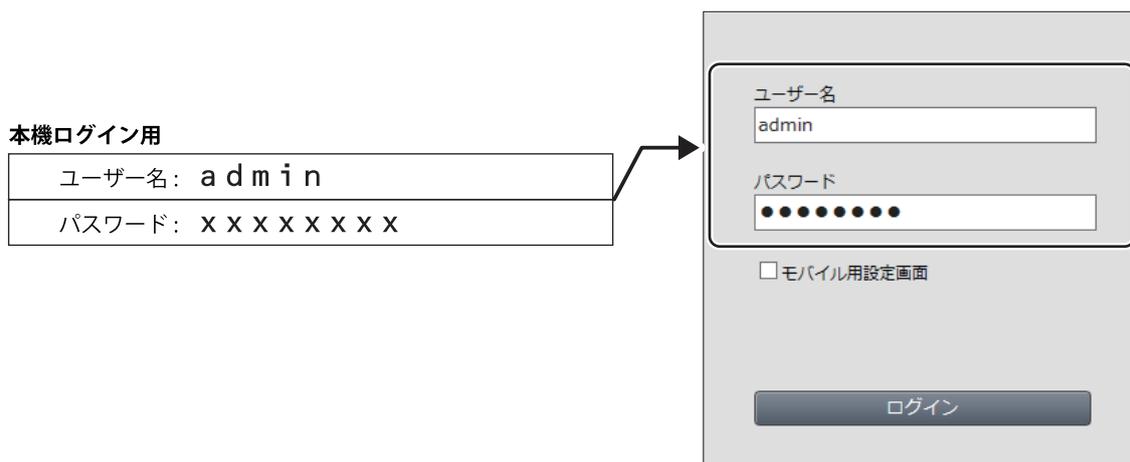


5 [OK]をクリックします。



本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「IPアドレス設定」画面が表示されます。その場合は、「このMacのIPアドレスを設定する」をクリックし、「DHCPサーバーからIPアドレスを自動的に取得する」をクリックしてください。Macのパスワードを要求された場合はパスワードを入力して[OK]をクリックします。しばらくするとMacに新しいIPアドレスが設定され、「設定完了」画面が表示されます。[親機選択画面に戻る]をクリックし、もう一度手順3から行ってください。

6 セットアップカードに記載されているユーザー名とパスワードを入力して、[ログイン]をクリックします。



メモ: パスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

7 本製品の設定画面が表示されたら、設定を行います。

メモ:

- ・ 設定画面のウィンドウの下に、「無線親機の設定画面を開きました」という画面が表示されています。[完了]をクリックして、画面を閉じてください。
- ・ 本製品の各種設定方法は、本章に記載しています。

管理パスワードを変更する

管理パスワード(設定画面のパスワード)は、出荷時設定では製品ごとに固有のパスワード(セットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」)が設定されています。

管理パスワードを変更したい場合は、以下の手順で設定してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「[本製品の設定を変更するには](#)」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」-「管理」-「システム設定」をクリックします。

3 「管理パスワード」に新しいパスワードを入力し、画面を下にスクロールして「設定」をクリックします。

管理パスワードは、半角英数字と「_」で、1~8文字で設定します。

変更した管理パスワードを忘れると設定画面を表示できなくなりますので、必ず控えをとってください。

システム情報	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX
管理ユーザー名	admin(変更することはできません)
管理パスワード <input type="checkbox"/> パスワードを表示する

メモ:

- 生年月日や名前など、第三者から類推されやすい単語は管理パスワードに設定しないでください。
- 管理パスワードを忘れた場合は、本製品のRESETボタンを約3秒間長押しして、本製品の設定を初期化してください。その場合、パスワード以外の設定(インターネット設定やWi-Fi接続設定など)も初期化されます。

以上で設定は完了です。

本製品のファームウェアバージョンを確認する

本製品のファームウェアのバージョンは、以下の手順で確認できます。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」をクリックします。

3 ファームウェアのバージョンを確認します。

製品名	XXX-XXXXXXX Ver. XXX(RXXX/BXXX)
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX

メモ: 製品名欄の「Ver.X.XX」の部分がファームウェアのバージョンです。

本製品のファームウェアを更新する

自動的に更新する場合

新しいファームウェアが公開された際に自動的に更新する場合は、以下の手順で設定してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「管理」-「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェア自動更新機能で「常に最新版に更新する」と更新時刻を設定し、「設定」をクリックします。

[拡張設定]	
ファームウェア自動更新機能	常に最新版に更新する <input type="button" value="▼"/>
現在時刻	2021年 8月 3日 (火曜日) 10:30 <input type="button" value="現在の状態を表示"/>
更新時刻	毎日 <input type="text" value="04:00 - 04:59"/> <input type="button" value="▼"/>
<input type="button" value="設定"/>	

メモ:

- 本製品の時刻設定が正しくない場合(画面に  が表示されている場合)は、「管理」-「システム設定」の画面で「NTP機能」の「使用する」にチェックを入れてください。
- ファームウェア更新中は、再起動などにより、本製品に接続している機器が一時的に切断されます。そのため、更新時刻は、本製品を使用していない時間帯に設定することをおすすめします。

- ・ 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中(前面のPOWERランプが橙色と緑色に交互に点滅中)は、本製品のACアダプターを抜かないでください。

以上で設定は完了です。

設定後に新しいファームウェアがリリースされた場合、上記で設定した時間帯に更新が行われます。

手動で更新する場合

本製品をお使いの方が、お好みのタイミングでファームウェアを更新したい場合は、以下の手順で設定してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「[本製品の設定を変更するには](#)」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」-「管理」-「ファームウェア更新」をクリックします。

3 ファームウェアを更新します。

ファームウェアファイルがある場合は、「ファイルの選択」をクリックしてファームウェアファイルを選択し、「更新実行」をクリックします。

ファームウェアファイルがない場合は、「オンラインバージョンアップ」を選択し、「更新実行」をクリックして画面の指示に従ってください。

ファームウェアバージョン	WSR-1500AX2L Ver.X.XX
更新方法	<input checked="" type="radio"/> ローカルファイル指定 <input type="radio"/> オンラインバージョンアップ
ファームウェアファイル名	<input type="text" value="ファイルの選択"/>
<input type="button" value="更新実行"/>	

メモ: 故障の原因となるため、ファームウェアの更新中(前面のPOWERランプが橙色と緑色に交互に点滅中)は、本製品のACアダプターを抜かないでください。

以上で設定は完了です。

スマートフォンから更新する場合

本製品はAirStationアプリによるファームウェアの更新に対応しています。実施方法は「AirStationアプリ ヘルプ」を参照してください。

https://86886.jp/airstation_app_m/

WPA2を無効にして、WPA3(Wi-Fiの新しい暗号化設定)だけを使用する

本製品ご購入時は、WPA2を使用するSSIDとWPA3を使用するSSIDの2つが有効になっています。ここでは例として、WPA2用のSSID(SSID1)を無効にして、WPA3専用で動作させる方法を説明します。

メモ:

- 2024年7月現在、[「QRコードを使って接続する方法\(QRsetup\)」\(P.35\)](#)や[「AOSSで接続する方法」\(P.36\)](#)、[「WPSで接続する方法」\(P.38\)](#)は、WPA3に対応していません。
- お使いの機器やOS、ドライバーによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、下記の設定は行わずWPA2で接続してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 お使いになる周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」-「無線設定」-「2.4 GHz(11n/g/b)」をクリックします。

5 GHz:「詳細設定」-「無線設定」-「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。

3 SSID1の「使用する」のチェックを外します。

SSID1	
SSID1	<input type="checkbox"/> 使用する

4 SSID2の「使用する」にチェックが付いており、無線の認証が「WPA3 Personal」になっていることを確認して「設定」をクリックします。

SSID2	
SSID2	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-2G-XXXX-WPA3) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA3 Personal ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK (事前共有キー)	XXXXXXXX
Key更新間隔	0 分

以上で設定は完了です。

Wi-Fiチャンネルを変更する

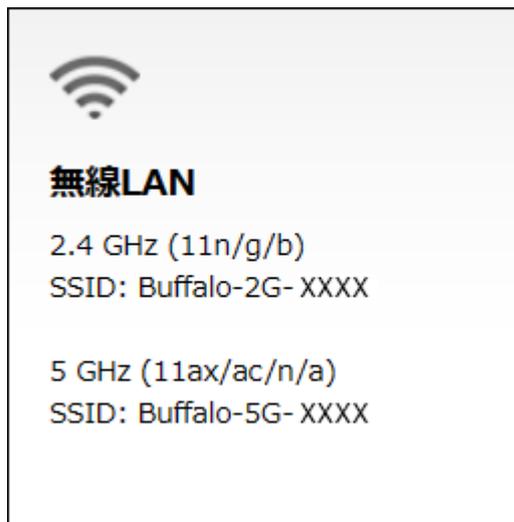
本製品は、電波混雑防止機能により、ほかの機器が使用していないチャンネルを検索して自動的に割り当てるため、通常はWi-Fiチャンネルを設定する必要はありません。ただし、周囲に多くのWi-Fi機器がある場合、Wi-Fi機器から出るノイズの影響などにより、通信が途切れたり、通信速度が低下するなどの現象が発生することがあります。

その場合は、Wi-Fiチャンネルを変更することで改善できることがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「無線LAN」をクリックします。



3 「チャンネル」から使用したいWi-Fi チャンネルを選択して[設定]をクリックします。

メモ: 本設定はWi-Fiの周波数帯(2.4 GHzまたは5 GHz)ごとに設定できます。

無線LAN設定 EasyMesh機能を使用中は2.4GHzと5GHzを無効にすることはできません。

2.4 GHz (11n/g/b)

有効

SSID 1 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

SSID 2 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

チャンネル

帯域

5 GHz (11ax/ac/n/a)

有効

SSID 1 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

SSID 2 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

チャンネル

帯域

メモ: 「チャンネル」を「自動」以外に設定するときは、以下の点に注意してください。

- 設定するチャンネルによっては、ほかのWi-Fi機器と電波干渉を起こすことがあります。
- 隣接するWi-Fi機器に異なるチャンネルを設定するとき、近い周波数(隣りあったチャンネルなど)では、互いに干渉し転送速度が低下してしまうことがあります。
- 5 GHzのチャンネルで52チャンネル以上を設定した場合、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的にほかのWi-Fiチャンネルへ変更されます。その際、1分程度Wi-Fi通信ができなくなります。
- W52(36/40/44/48チャンネル)およびW53(52/56/60/64チャンネル)は、電波法により屋外での使用は禁止されています。
- 2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
- Wi-Fi機器から設定を行っている場合、本製品との接続が一時的に切断されますが、しばらくすると自動的に本製品に再接続され通信できるようになります。

以上で設定は完了です。

機器との電波強度と対応バンドをチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるようにする(バンドステアリング Lite)

バンドステアリング Lite機能を使用すると、機器との電波強度と対応バンド(帯域)をチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるように機器を誘導します。

メモ:

- 本機能を使用すると、本製品にWi-Fi接続している機器がすべて切断されます。本機能設定後は、以下を参考にしてもう一度Wi-Fi接続を行ってください。
 - [「本体のボタンを押して設定する\(AOSS/WPSプッシュボタン式\)」\(P.20\)](#)
 - [「WPS\(PINコード式\)で設定する」\(P.25\)](#)
 - [「Wi-Fiルーターの暗号化キーを入力して設定する\(手動設定\)」\(P.22\)](#)
- SSIDや暗号化キーは、本項目の手順でバンドステアリング Liteの共通SSID、暗号化キーとして設定したものを使用してください。
- 2.4 GHz帯、5 GHz帯のどちらかにしか対応していない機器で本機能を使用すると、機器の対応バンドでのみ通信を行います(機器が対応していないバンドには切り替わりません)。
 - 本機能を有効にすると、機器が通信中であってもバンドが切り替わります。バンドが切り替わる際、機器は本製品から一時的に切断されます。しばらくすると自動的に再接続されて通信できるようになります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「無線設定」-「バンドステアリング Lite」をクリックします。

3 バンドステアリングLite機能で使用する共通SSIDを設定します。

[使用する]にチェックを入れて、SSID、無線の認証、事前共有キーなどを設定し、[設定]をクリックします。

2.4 GHz/5 GHz共通SSID	
SSID1	
SSID1	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-XXXX) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA2 Personal ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXX
Key更新間隔	0 分
SSID2	
SSID2	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-XXXX-WPA3) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA3 Personal ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXX
Key更新間隔	0 分
設定	

以上で設定は完了です。

AOSS接続を解除する

ANY接続拒否設定やMACアクセス制限の設定を行うには、一度AOSS接続を以下の手順で解除する必要があります。

AOSS接続を解除すると、本製品のSSIDや暗号化キーは、AOSS接続を行う前の値に戻るとともに、本製品に接続していたすべてのWi-Fi機器が本製品から切断されます。各機器の取扱説明書を参照して、もう一度Wi-Fi機器を本製品に接続してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「無線設定」-「AOSS」をクリックします。

3 AOSS接続解除ボタン をクリックします。

AOSS動作設定	
AOSS 状態	AOSS 有効 
WEPをゲーム専用にする	2.4GHz <input type="checkbox"/> 使用する 5GHz <input type="checkbox"/> 使用する
本体側AOSSボタン	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する

以上で設定は完了です。

ほかの機器から本製品を検索できなくする (ANY接続拒否設定)

本製品にWi-Fi接続するには、SSIDと暗号化キーが必要です。ANY接続拒否設定を行うと、本製品のSSIDが隠蔽されて、ほかのWi-Fi機器から本製品を検索できなくなるため、外部からの不正アクセスを受けにくくなります。

設定は、以下の手順で行います。

メモ:

- AOSS接続を使用しているとANY接続拒否設定はできません。以下の設定を行う前に、[「AOSS接続を解除する」\(P.55\)](#)を参照してあらかじめ設定を変更してください(以下の設定を行った後にAOSSを使ってWi-Fi接続すると、ANY接続の拒否設定が解除され、「許可する」に戻ります)。
- 以下の設定を行って本製品のSSIDを隠蔽しても、暗号化設定がされていないと外部からの不正アクセスを受けることがあります。暗号化設定を解除しないでください。
- ANY接続を無効にした周波数帯では、WPS接続を実行できません。
- EasyMeshでメッシュネットワークを構築している場合、ANY接続拒否設定は使用できません(コントローラ側で設定は可能ですが、エージェントには引き継ぎされません)。

1 [「AOSS接続を解除する」\(P.55\)](#)を参照して、本製品の設定を変更します。

2 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

3 設定する周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」-「無線設定」-「2.4 GHz(11n/g/b)」をクリックします。

5 GHz:「詳細設定」-「無線設定」-「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。

4 ANY接続の「許可する」のチェックを外して[設定]をクリックします。

[基本設定] EasyMesh機能を使用中は2.4GHzと5GHzを無効にすることはできません。	
無線機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
無線チャンネル	自動 <input type="button" value="v"/> (現在のチャンネル: 108) ※DFSありの場合、気象レーダー等を感知すると自動的にチャンネルが変更されます
倍速モード	帯域: 1201 Mbps (80 MHz) <input type="button" value="v"/> (Current: 80 MHz)
ANY接続	<input type="checkbox"/> 許可する

以上で設定は完了です。

アクセスできる機器を制限する(MACアクセス制限)

本製品に接続するWi-Fi機器のMACアドレスをあらかじめ登録しておき、その機器のみ本製品へのアクセスを許可できます。設定は以下の手順で行います。

メモ: AOSSとMACアクセス制限は同時に使用できません。MACアクセス制限を設定する場合は、[「AOSS接続を解除する」\(P.55\)](#)を参照して本製品の設定を変更してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「無線設定」-「MACアクセス制限」をクリックします。

3 「登録リストの編集」をクリックします。

無線パソコンの接続 (2.4GHz)	<input type="checkbox"/> 制限する
無線パソコンの接続 (5GHz)	<input type="checkbox"/> 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
MACアドレスが登録されていません	
登録リストの編集	

- 4** Wi-Fiで接続できる機器を指定します。「検出された無線パソコン一覧」には、現在接続されている機器のMACアドレスが表示されています。接続できるようにする機器のMACアドレスのみを、「登録」をクリックして登録します。

編集を終了して前の画面へ戻る

登録リストの新規追加

登録するMACアドレス

新規追加

登録リスト

MACアドレス	操作
MACアドレスが登録されていません	

検出された無線パソコン一覧

MACアドレス	操作
XXXXXXXXXXXX	登録

現在の状態を表示

「検出された無線パソコン一覧」に表示されていない機器を登録する場合は、「登録するMACアドレス」欄に接続する機器のMACアドレスを入力し、「新規追加」をクリックします。MACアドレスを入力するときは、2桁ずつコロンの(:)で区切って入力します。登録できるMACアドレスは64個までです。
 例) 12:34:56:78:90:AB

5 登録が終わったら、[編集を終了して前の画面へ戻る]をクリックします。

編集を終了して前の画面へ戻る

登録リストの新規追加

登録するMACアドレス

新規追加

登録リスト

MACアドレス	操作
XXXXXXXXXXXX	修正 削除
XXXXXXXXXXXX	修正 削除

検出された無線パソコン一覧

MACアドレス	操作
XXXXXXXXXXXX	登録

現在の状態を表示

6 「制限する」にチェックを入れ、[設定]をクリックします。

無線パソコンの接続 (2.4GHz) 制限する

無線パソコンの接続 (5GHz) 制限する

メモ: 本設定はWi-Fiの周波数帯(2.4 GHzまたは5 GHz)ごとに設定できます。

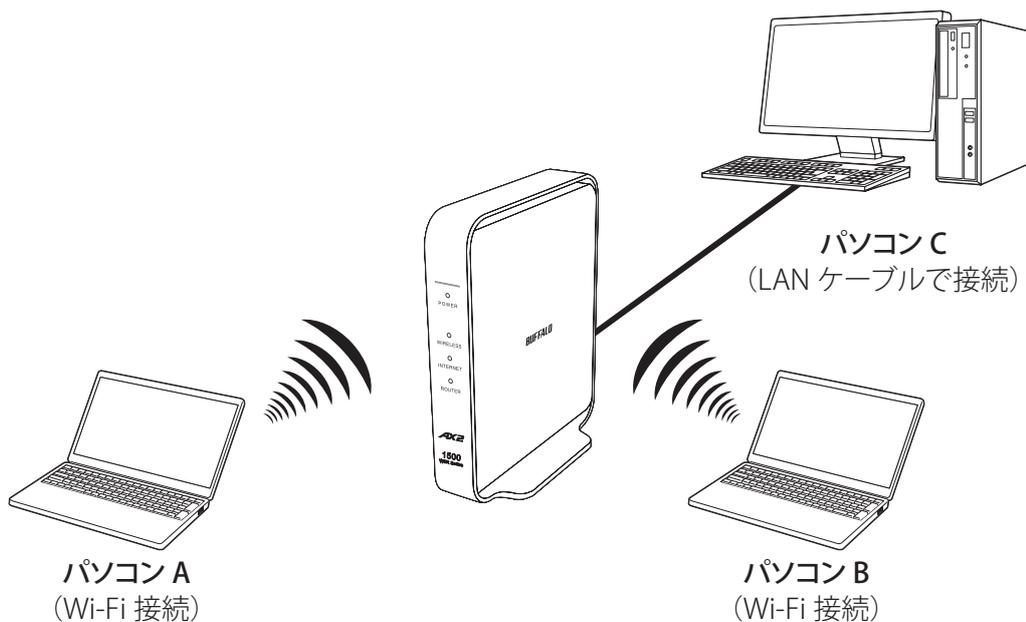
7 「無線パソコンのMACアクセス制限を有効にします」と表示されたら、[設定]をクリックします。

以上で設定は完了です。

機器同士のWi-Fi通信を禁止する(プライバシーセパレーター)

プライバシーセパレーター機能を使用すると、本製品にWi-Fi接続している機器同士の通信(共有フォルダーなどへのアクセス)を禁止できます。

メモ: 本製品にLANケーブルを使って接続している機器がある場合は、プライバシーセパレーターを有効にしても、アクセスを禁止できません。たとえば、以下の図のような接続の場合、プライバシーセパレーターを有効にすることで、パソコンA-B間で共有フォルダーへのアクセスはできなくなります。パソコンA-C間やパソコンB-C間はアクセスできます。



1 本製品の設定画面を表示します。

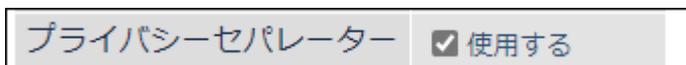
メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 設定する周波数帯の画面を表示します。

2.4 GHz:「詳細設定」-「無線設定」-「2.4 GHz(11n/g/b)」をクリックします。

5 GHz:「詳細設定」-「無線設定」-「5 GHz(11ax/ac/n/a)」をクリックします。

3 「プライバシーセパレーター」欄の「使用する」をクリックしてチェックを入れ、「設定」をクリックします。



以上で設定は完了です。

ポートを開放する(ポート変換設定)

ポート変換設定を行うと、インターネットゲームを楽しんだり各種サーバーを公開したりできます。

メモ:

- サーバーを公開する場合、固定グローバルIPアドレスの取得およびプロバイダーと別途契約が必要な場合があります。
- 手順はお使いの環境によって異なります。
ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合は、以下手順を参照してください。
利用するポート番号が不明な場合は、[「利用するポート番号が不明な場合」\(P.64\)](#)を参照してください。
- ルーター機能を停止している場合([「ルーター機能を停止する」\(P.78\)](#))は、下記手順は設定できません。

ネットワークゲームや各種サーバーを公開する場合など、あらかじめ利用するポート番号が分かっている場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「ルーターセキュリティ」-「ポート変換」をクリックします。

3 各項目を設定し、[新規追加]をクリックします。

ポート変換の新規追加		
グループ	新規追加 ▾ 新規追加 group1	
Internet側IPアドレス	エアステーションのInternet側IPアドレス ▾ 手動設定: <input type="text"/>	
プロトコル	<input type="radio"/> 全て	
	<input type="radio"/> ICMP	
	<input type="radio"/> 任意	プロトコル番号: <input type="text"/>
	<input checked="" type="radio"/> TCP/UDP	HTTP(TCPポート80) ▾ 任意のTCP/UDPポート: <input type="text"/>
LAN側IPアドレス	192.168.11.210	
LAN側ポート	TCP/UDPポート <input type="text"/>	
<input type="button" value="新規追加"/>		

項目	説明
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択すると、新たなグループを作成し、そのグループに追加されます。新規追加時には半角英数字で16文字までのグループ名を付けることが可能です。
Internet側IPアドレス	公開する各種サーバーの固定グローバルIPアドレスを設定します。インターネット側IPアドレスをPPPoEサーバーから取得している場合は各PPPoE接続先のインターネット側IPアドレスを設定します。手動設定を選択したときは、手動設定欄にIPアドレスを指定する必要があります。プロバイダーから複数の固定グローバルIPアドレス指定を受けている場合には、「手動設定」で本製品のインターネット側IPアドレスに設定してあるアドレス以外のグローバルIPアドレスを設定できます。
プロトコル	アドレス変換機能を使用するポートの種類を選択します。[TCP/UDP]を選択したときは、ポートを設定します。
LAN側IPアドレス	インターネットからのアクセスの宛先となるプライベートIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	変換プロトコルでTCP/UDPを指定し、単独のポート番号を指定したときは、LAN側のポート番号を変更できます。

以上の設定の組み合わせにより、最大32種類の組み合わせを設定できます。

メモ: WWW(HTTP)サーバーを公開する場合は、以下のように設定すると、インターネットからのアクセスを任意のLAN側のWWWサーバーIPアドレスに転送できます。

グループ: 任意の名称(例:group1)を入力します。

Internet側IPアドレス: [エアステーションのInternet側IPアドレス]を選択します。

プロトコル: TCP/UDPを選択し、[HTTP(TCPポート:80)]を選択します(任意のTCP/UDPポートは空欄)。

LAN側IPアドレス/LAN側ポート: LAN側IPアドレスは、サーバーIPアドレス(例:192.168.11.210)を入力します。LAN側ポートは、空欄にします。

4 設定内容が登録されていることを確認します。

ポート変換登録情報			
グループ	Internet側IPアドレス LAN側IPアドレス	プロトコル LAN側ポート	操作
group1	エアステーションのInternet側IPアドレス 192.168.11.210	TCPポート:80 TCPポート:80	<input type="button" value="OFF"/> <input type="button" value="修正"/> <input type="button" value="削除"/>

以上で設定は完了です。

利用するポート番号が不明な場合

本製品がルーターとして動作している場合にのみ、以下の設定が行えます。

メモ:

- ・「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- ・「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「ルーターセキュリティー」-「DMZ」をクリックします。

3 DMZのアドレスを設定し、「設定」をクリックします。

DMZのアドレス	<input type="text" value="192.168.11.210"/>
※設定画面を表示している機器のIPアドレス[192.168.11.2]	

メモ:

- ・ DMZのアドレスは、インターネット側から送られてきたデータの宛先ポートが不明な場合に、そのデータが転送されるLAN上のIPアドレスです。ここで設定されたIPアドレスの機器でのみ、ネットワークゲームなどを利用できます。
- ・ ポート変換の設定で[LAN側IPアドレス]を設定した場合は、そちらの設定が優先されます。
- ・ DMZを使用する場合は、機器側のIPアドレスをここで設定した値に固定する必要があります。
- ・ 使用するソフトや契約しているプロバイダーによっては、DMZを設定してもソフトウェアが動作しない場合があります。
- ・ DMZに設定した機器は、ほかのパソコンに比べてセキュリティーが低下するため、重要なデータなどをその機器に保存しないことをおすすめします。
- ・ 安全のため、ファイアウォールの設定画面で、「NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する」を有効にしておくことをおすすめします。

以上で設定は完了です。

本製品のIPアドレスを変更する

エアステーション設定ツールを使用すると、本製品のIPアドレスを変更できます。ここでは、エアステーション設定ツールを使ったIPアドレスの変更方法について説明します。

Windowsをお使いの場合

メモ:

- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(<https://86886.jp/airset/>)でダウンロードできます。
- パソコンを本製品に接続した状態で設定してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面の[詳細設定] - [LAN] - [LAN]からも変更できます。

1 エアステーション設定ツール  を起動します。

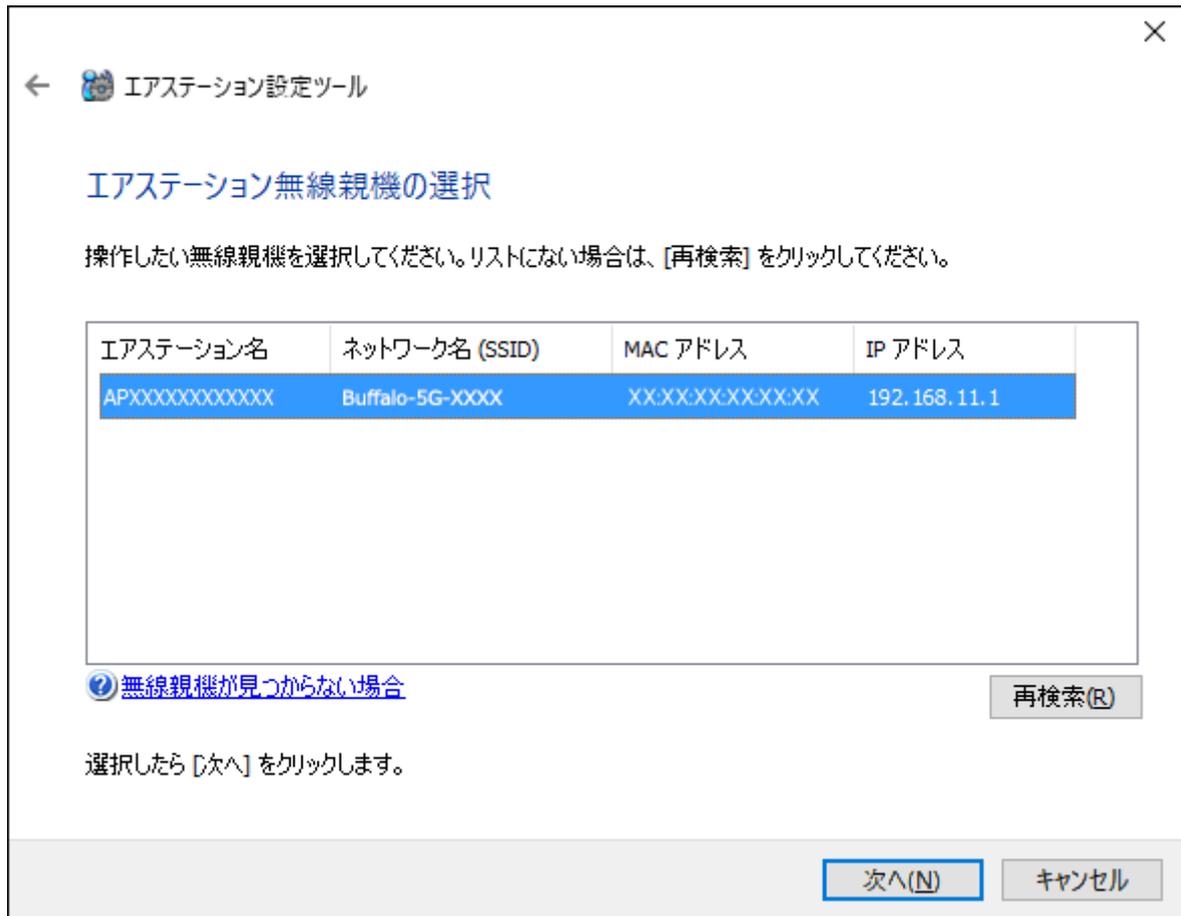
インストール時にデスクトップ上に作られた「エアステーション設定ツール」のショートカットをダブルクリックします。

2 [次へ]をクリックします。



メモ: パソコンに複数のネットワークアダプターが搭載されている場合、「2つ以上のネットワーク接続がつながっています」というメッセージが表示されます。その場合は、使用していないネットワークアダプターを取り外すか無効にしてから[再実行]をクリックしてください。

3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[次へ]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。



5 新しく設定するIPアドレスを入力して[次へ]をクリックします。

← エアステーション設定ツール

無線親機の IP アドレス設定

無線親機の新しい IP アドレスを入力してください。

DHCP サーバーから IP アドレスを自動的に取得する(かんたん)(O)

- ※ 無線親機の ROUTER ランプが点灯している場合(ルーター機能有効時)は、この設定にはできません。

次の IP アドレスを使う(上級者・管理者向け)(S)

IP アドレス(I) [設定方法](#)

サブネットマスク(U)

- ※ 無線親機の ROUTER スイッチが「AUTO」に設定されていて、かつ、ROUTER ランプが消灯している場合(ルーター機能無効時)は、この設定にはできません。
- ※ 参考情報 - このパソコンの IP アドレス:
192.168.10.12 / 255.255.255.0 : イーサネット (Realtek PCIe GBE Family Controller)

[次へ] をクリックすると、設定内容が無線親機に反映されます。

[次へ\(N\)](#)

メモ: 本製品とパソコンのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのパソコンと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[はい]をクリックしてください。

- 6 本製品に設定されているパスワード(出荷時状態ではセットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」)を入力し、[次へ]をクリックします。

← エアステーション設定ツール

設定中

この無線親機には、管理パスワードが設定されています。

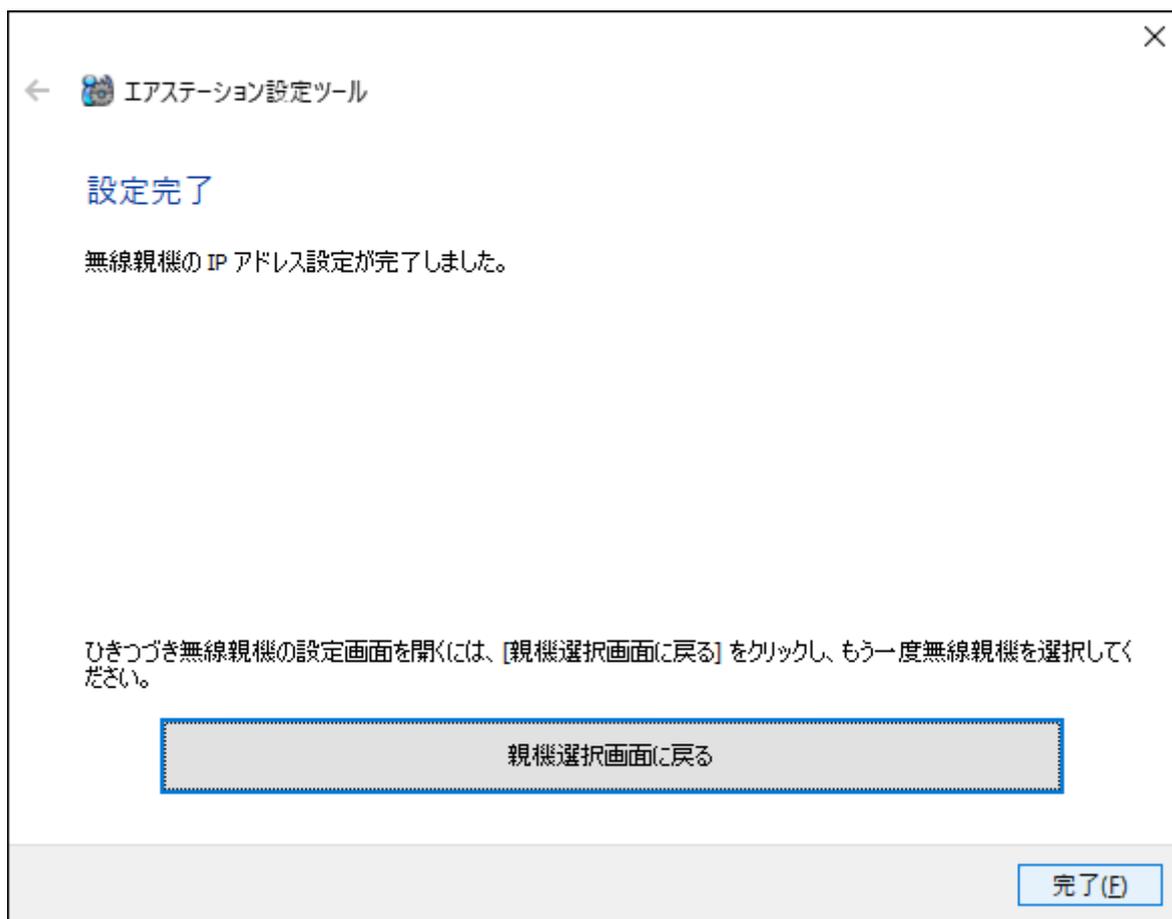
無線親機の管理パスワードを入力してください。

管理パスワード(P) 入力文字列を表示(V)

出荷時の設定は、セットアップカードまたはラベルに記載されています。
記載がない場合、「password」または無し(空欄)です。

次へ(N)

7 [完了]をクリックします。



以上で設定は完了です。

Macをお使いの場合

メモ:

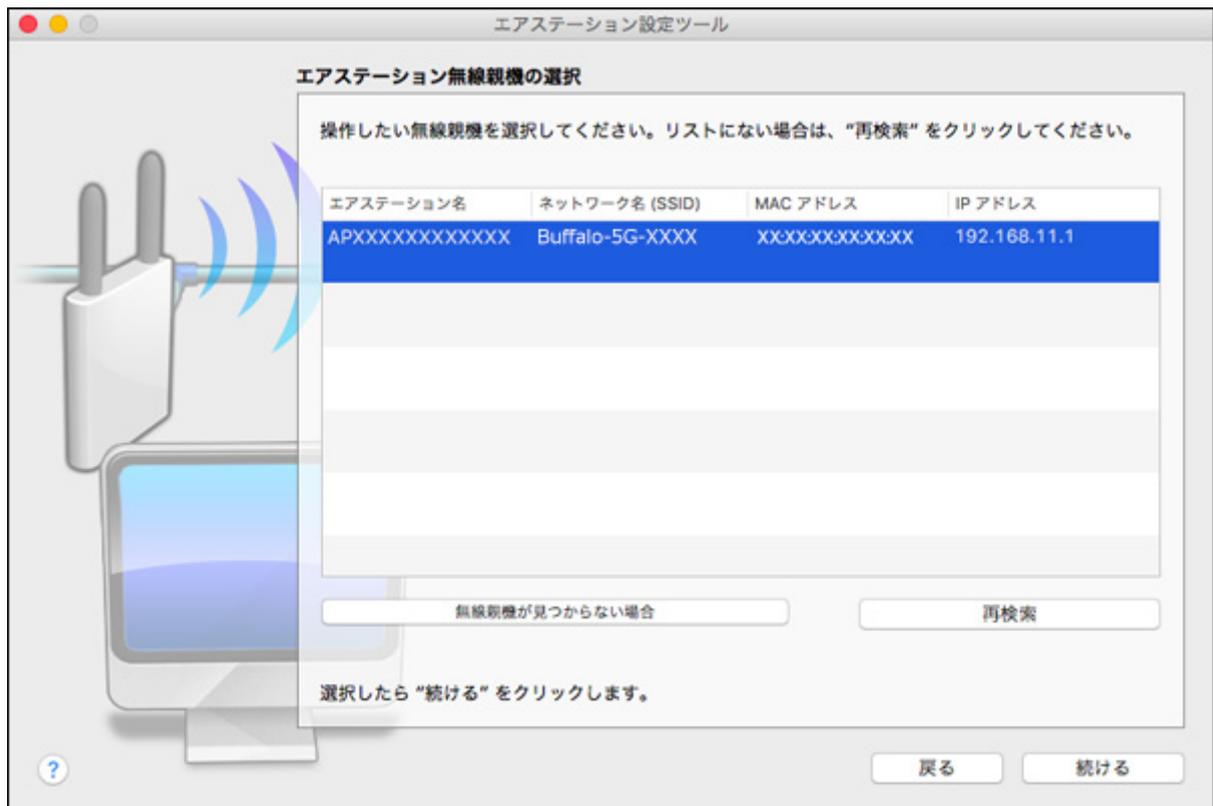
- エアステーション設定ツールは、当社ホームページ(<https://86886.jp/airset/>)でダウンロードできます。
- Macを本製品に接続した状態で設定してください。
- 本製品のIPアドレスは、設定画面の[詳細設定] - [LAN] - [LAN]からも変更できます。

1 エアステーション設定ツール  を起動します。

2 [続ける]をクリックします。



3 以下の画面が表示されたら、本製品を選択して、[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品のMACアドレスは、本体のラベルで確認できます。

4 [この無線親機のIPアドレスを設定する]をクリックします。



5 新しく設定するIPアドレスを入力して[続ける]をクリックします。



メモ: 本製品とMacのIPセグメントが異なる場合は、「入力したアドレスは、ネットワークセグメントがこのMacと異なります」という画面が表示されます。設定を続ける場合は、[無視して続ける]をクリックしてください。

6 本製品に設定されているパスワード(出荷時状態ではセットアップカードに記載されている「本機ログイン用パスワード」)を入力し、[続ける]をクリックします。



7 [終了]をクリックします。



以上で設定は完了です。

フレッツ回線向けの設定をする(PPPoEマルチセッション)

本製品のPPPoEマルチセッション機能を使用して、1つの回線契約でプロバイダーとフレッツ回線向けサービス情報サイトに同時に接続するには、以下を設定してください。

メモ:

- NTT東日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年6月1日より、「サービス情報サイト」に名称が変更されました。
- NTT西日本向けフレッツ・スクウェアは、2011年12月28日をもってサービス終了となりました。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「[本製品の設定を変更するには](#)」(P.39)を参照してください。

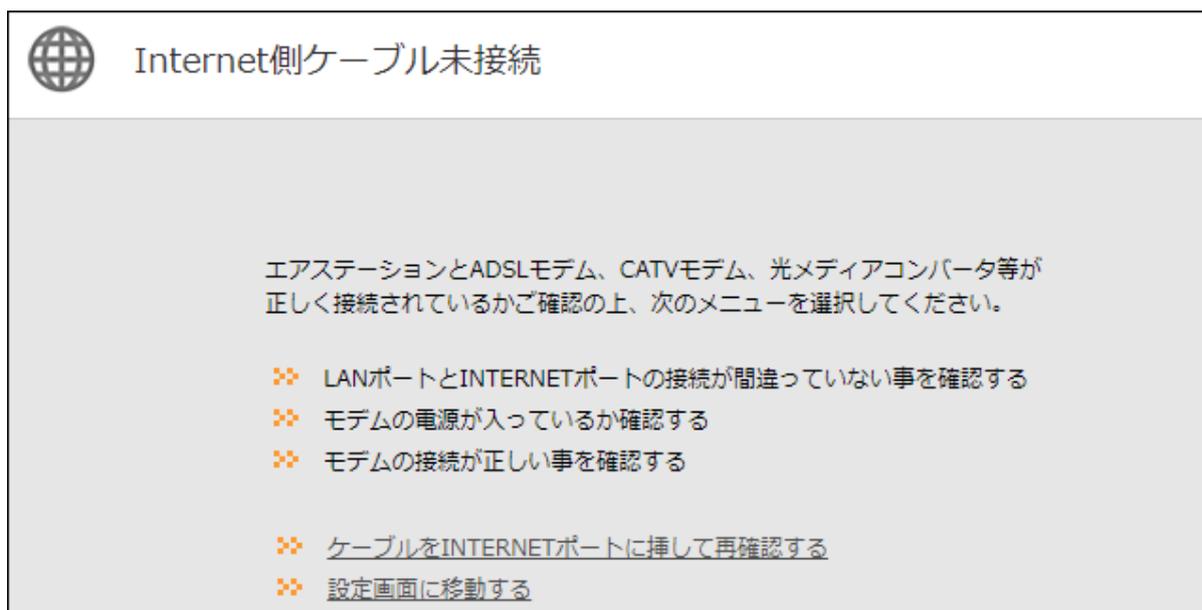
2 本製品のINTERNET端子からLANケーブルを取り外します。

3 設定画面右上の に×マークが付くことを確認します。

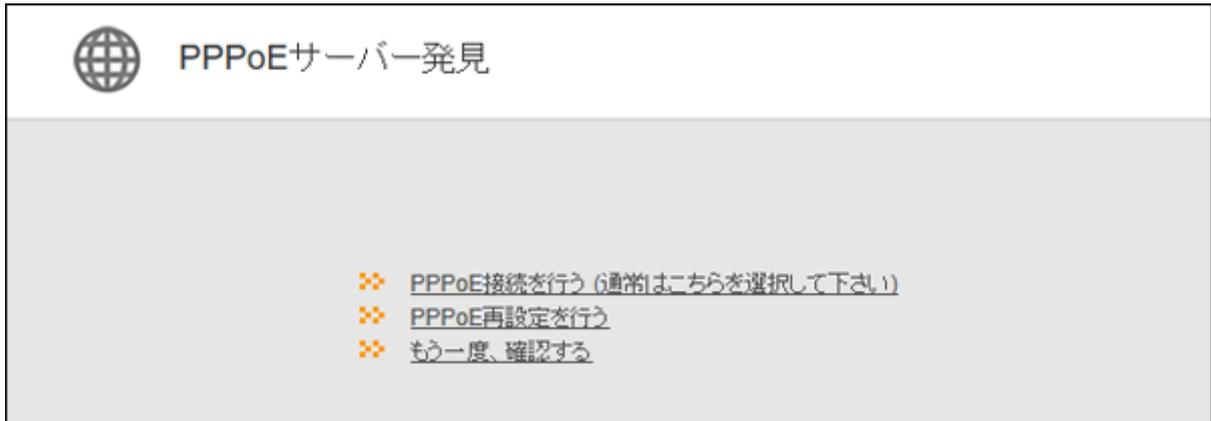


4 をクリックします。

5 手順2で抜いたLANケーブルを、もう一度本製品のINTERNET端子に接続し、「ケーブルをINTERNETポートに挿して再確認する」をクリックします。



6 「PPPoE再設定を行う」をクリックします。



7 お使いの回線の種別に合わせて「回線種類」を選択します。

フレッツ 光ネクストをお使いの方は「フレッツ 光ネクスト/ドコモ光/OCN 光」を、それ以外の回線をお使いの方は、「Bフレッツ/フレッツ・ADSL」を選択してください。



- 8 「フレッツ 光ネクストサービス情報サイト」欄(フレッツ 光ネクスト用)または「サービス情報サイト」欄(Bフレッツ/フレッツ・ADSL用)で、「NTT東日本」を選択し、「進む」をクリックします。

インターネット接続設定

回線種類

フレッツ 光ネクスト/ドコモ光/OCN 光
 Bフレッツ/フレッツ・ADSL
 その他

接続先ユーザー名 **U** XXXXXXXX @ XXX.XXX.XXX.XXX

接続先パスワード **P** ●●●●●●
 パスワードを表示する

DNS(ネーム)サーバーアドレス
 ※プロバイダーより指定がある場合のみ
 プライマリー:
 セカンダリー:

フレッツ 光ネクストサービス情報サイト NTT東日本
 ※フレッツ回線をお使いの場合のみ

ご契約のプロバイダーから送付された資料をご確認ください。
 代表的なプロバイダーには、OCN、BIGLOBE、Yahoo! BB、ぷらら、So-net、eo、@niftyがあります。
 ※「会員登録」、「ご利用開始のご案内」、「入金証」、「登録証」、「契約内容のご案内」などと書かれた資料がプロバイダーによって、表記は異なります。

U 接続先ユーザー名 に入力する文字列
 “認証ID” “接続ID” “接続用ID” “ユーザーID”
 “ユーザー名” などの欄に書かれた文字列
 ※(U)と記載されている場合があります

P 接続先パスワード に入力する文字列
 “認証パスワード” “接続パスワード”
 “接続用パスワード” などの欄に書かれた文字列
 ※(P)と記載されている場合があります

ご契約内容	
お客様番号	ABCDEFGHIJKL
お客様番号	000 00
ご契約種別	XXXXXXXXXX みほん
接続ID(ユーザー名) [接続ID](U)	abcdefg@ B-インターネット-ドコモ光/OCN光/フレッツ-ADSL-ADSL-ADSL-ADSL
接続パスワード [接続パスワード](P)	123456789
ご利用番号	このような資料が見つからない場合、 契約したプロバイダーのサポートセンターへお問い合わせください。

進む

メモ: NTT西日本のサービスが終了しているため、「サービス情報サイト」欄では、「NTT西日本」は選択できません。

- 9 「接続成功です」と表示されたら、「設定完了」をクリックします。

接続確認

指定のURLへアクセスするため、一度、ブラウザー機能を停止する必要があります。
 再度、ブラウザーを起動して指定のURLへアクセスしてください。

ケーブル OK PPPoEサーバー OK 名前解決 OK

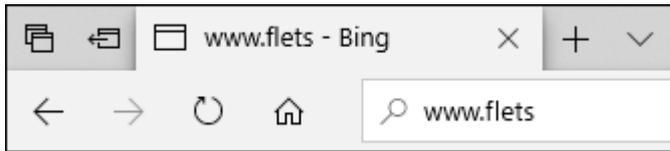
接続成功です!
 AirStationの設定は完了しました。

上の枠内に「接続成功です」と表示されないときは、[こちら](#)で現象を確認してください。

戻る 設定完了

- 10 ブラウザーを起動します。

- 11** Bフレッツ/フレッツ・ADSLをご契約の方は、アドレス欄に「www.flets」と入力して、Enterキーを押します。フレッツ 光ライト/フレッツ 光ネクストをご契約の方は、アドレス欄に「v4flets-east.jp」(NTT東日本向け)と入力して、Enterキーを押します。



- 12** サービス情報サイトが表示されます。

以上で設定は完了です。

ルーター機能を停止する

本製品のルーター機能を使用しないで、アクセスポイントとして使用する場合は、以下の手順で行います。

メモ:

本製品のルーター機能をOFFにすると、本製品のIPアドレスが「192.168.11.100」に変更されます。また、以下の機能が無効になりますのでご注意ください。

- DHCPサーバー(IPアドレス自動割当)機能
- 静的IPマスカレード(アドレス変換)機能
- パケットフィルター機能
- PPPoEマルチセッション機能

- 1** 本製品背面のROUTER/AP/WBスイッチを「AP」に設定します。

- 2** 本製品に接続している機器を再起動します。

以上で設定は完了です。

本製品の設定を保存する・復元する

設定の保存

本製品の設定内容の保存は、以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「[本製品の設定を変更するには](#)」(P.39)を参照してください。

2 「詳細設定」-「管理」-「設定管理/再起動」をクリックします。

3 「設定ファイルを保存する」を選択し、「設定操作実行」をクリックします。

設定管理	
操作	<input checked="" type="radio"/> 設定ファイルを保存する <input type="radio"/> 設定ファイルを復元する <input type="radio"/> 設定を初期化する
パスワード	<input type="checkbox"/> パスワードを使用する <input type="text"/> <input type="checkbox"/> パスワードを表示する
<input type="button" value="設定操作実行"/>	

メモ: パスワードを使って設定ファイルを暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、パスワードを入力してから、「設定操作実行」をクリックしてください。

4 画面の表示に従って、設定ファイルを保存します。

設定の復元

本製品の設定を復元する場合は、以下の手順で行います。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 「詳細設定」-「管理」-「設定管理/再起動」をクリックします。

3 「設定ファイルを復元する」を選択し、「設定ファイル」欄の[参照]をクリックして設定ファイルを指定し、「設定操作実行」をクリックします。

設定管理	
操作	<input type="radio"/> 設定ファイルを保存する <input checked="" type="radio"/> 設定ファイルを復元する <input type="radio"/> 設定を初期化する
設定ファイル	C:\Users\TC\Downloa <input type="button" value="参照..."/>
パスワード	<input type="checkbox"/> パスワードを使用する <input type="text"/> <input type="checkbox"/> パスワードを表示する
<input type="button" value="設定操作実行"/>	

メモ: 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、パスワードを入力してから、「設定操作実行」をクリックしてください。

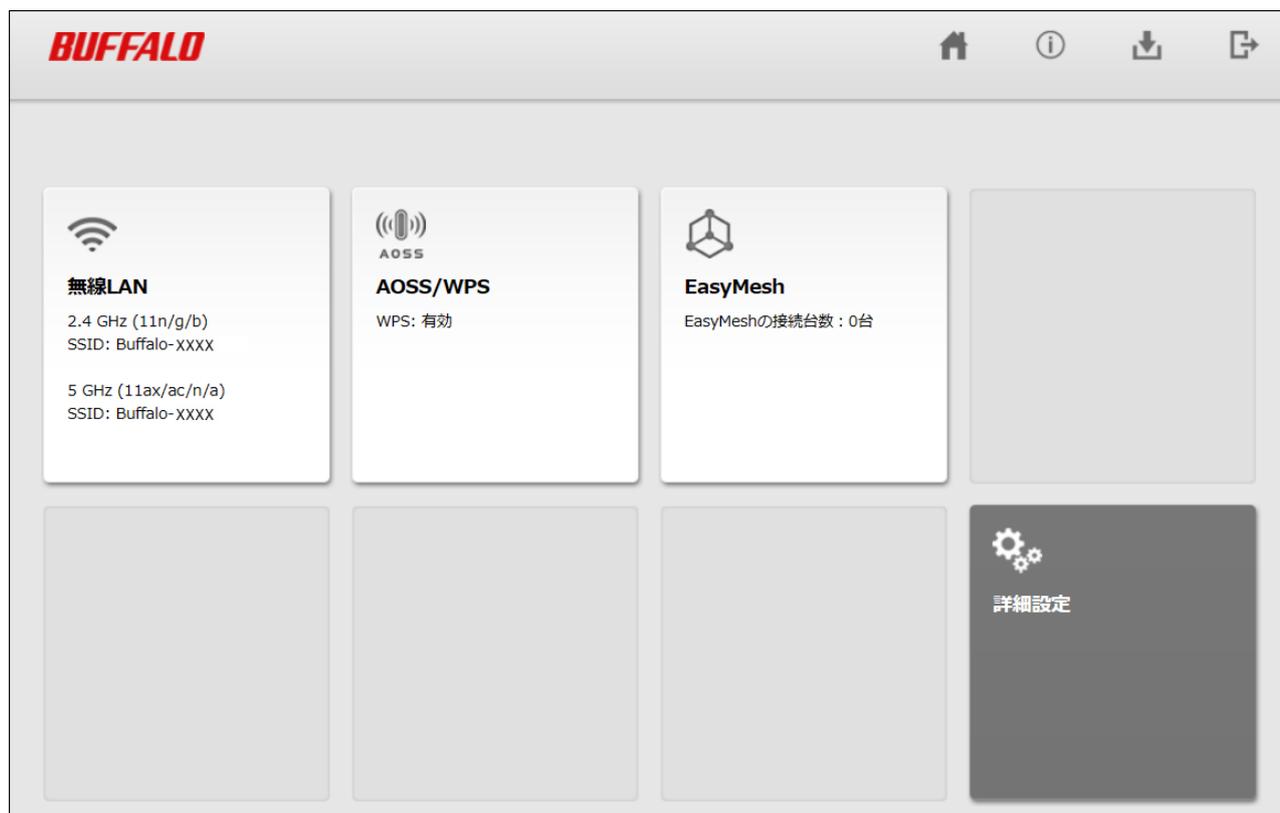
第3章 設定画面の詳細情報

本章では、本製品の設定画面について説明します。

メモ: 設定画面の操作が5分間ない場合、設定画面から自動的にログアウトします。

トップ画面

本製品の設定画面にログインした際、最初に表示される画面です。画面の内容は、本製品の動作モードによって異なります。ここでは、ルーターモード時の画面を例に説明します。



項目	内容
無線LAN	現在のWi-Fiの状態が表示されます。 クリックすると、Wi-Fiの設定画面が表示されます。
AOSS/WPS	現在のAOSS/WPS設定の状態が表示されます。 クリックすると、「簡単設定を開始します (AOSS/WPSプッシュボタン式)」という画面が表示され、[OK]をクリックすると本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
EasyMesh	クリックすると、EasyMeshの設定画面が表示されます。
詳細設定	クリックすると、詳細設定画面が表示されます。
	クリックすると、トップ画面が表示されます。

項目	内容
	<p>ルーターモード時のみ表示されます。インターネットへの接続状況を表示します。インターネットに接続できていないとき( が表示されているとき)にクリックすると、インターネット接続の初期設定画面が表示されます。</p>
	<p>中継機モード時のみ表示されます。Wi-Fiルーターとの接続状況を表示します。Wi-Fiルーターに未接続のとき( が表示されているとき)にクリックすると、Wi-Fiルーターとの接続設定画面が表示されます。</p>
	<p>ファームウェアの更新がある場合などに点滅してお知らせします。クリックすると、本製品の動作モードが表示されます。</p>
	<p>インターネットに接続しているときにクリックすると、取扱説明書やソフトウェアなどのダウンロードページが表示されます。</p>
	<p>クリックすると、設定画面からログアウトします。</p>

無線LAN(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

Wi-Fiの基本設定を行う画面です。

無線LAN設定 EasyMesh機能を使用中は2.4GHzと5GHzを無効にすることはできません。

2.4 GHz (11n/g/b)

有効

SSID 1 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

SSID 2 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

チャンネル

帯域

5 GHz (11ax/ac/n/a)

有効

SSID 1 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

SSID 2 有効

SSID

暗号化モード

暗号化キー

チャンネル

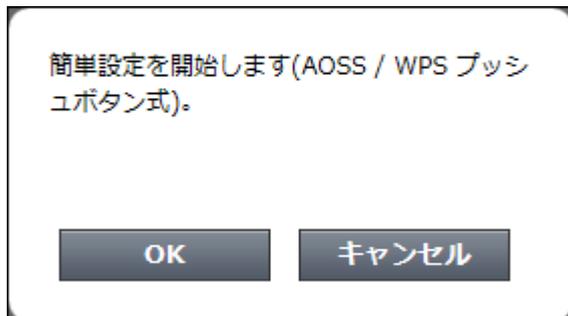
帯域

項目	内容
	詳細設定画面を表示します。
2.4 GHz(11n/g/b) 5 GHz(11ax/ac/n/a)	Wi-Fiの有効/無効を設定します。
SSID 1、SSID 2	<p>SSID 1 WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わないWi-Fi用のSSIDです。</p> <p>SSID 2 WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。

項目	内容
暗号化モード	<p>機器とのWi-Fi接続時の暗号化モードを以下から選択します。</p> <p>WPA2 Personal AES WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA/WPA2 Personal TKIP/AES WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA3 Personal AES WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA2/WPA3 Personal AES WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴されますので暗号化なしでのご使用は避けてください。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>
暗号化キー	<p>機器との認証で使用する暗号化キーを入力します。入力できる暗号化キーは、SSIDごとに異なります。</p> <p>SSID1の暗号化キー 文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8～63文字で入力します。16進数入力の場合、0～9およびa～f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。</p> <p>SSID2の暗号化キー 半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を1～64文字で入力します。</p> <p>メモ: 安全のため、暗号化キーは次のように設定することをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSID1とSSID2で、別々の暗号化キーを設定する。 暗号化キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
チャンネル	<p>Wi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」を選択すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。2.4GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。</p>
帯域	<p>Wi-Fiで使用する帯域幅を設定します。帯域幅を大きくすると、通信速度の向上が見込めますが、周囲の電波状況が悪い場合は、効果が得られないことがあります。</p>

AOSS/WPS

[OK]をクリックすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。
[キャンセル]をクリックすると、トップ画面に戻ります。



EasyMesh

EasyMeshまたは中継機能(WB)の設定画面です。
 詳細は、「[EasyMesh/中継機能\(WB\)](#)」(P.109)を参照してください。

●ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面

EasyMesh機能を使用すると、2.4GHzと5GHzが自動で有効になります。

EasyMesh機能 使用する

[拡張設定]

高速ローミング(11r) 使用する

Backhaul SSID 設定する

[WPS設定]

PushButton式

[接続機器一覧]

●接続機器一覧の画面

接続機器一覧

コントローラ・エージェント

No	機器名	IPアドレス	MACアドレス	接続先	接続帯域	電波状態	種別
1	XXXXXXXXXX	xxx.xxx.xxx.xxx	xxxxxxxxxxxx	-	-	-	コントローラ
2	XXXXXXXXXX	xxx.xxx.xxx.xxx	xxxxxxxxxxxx	1	有線	-	エージェント

デバイス

No	機器名	IPアドレス	MACアドレス	接続先	接続帯域	電波状態
3	Unknown	xxx.xxx.xxx.xxx	xxxxxxxxxxxx	1	2.4GHz	📶
4	Unknown	xxx.xxx.xxx.xxx	xxxxxxxxxxxx	1	有線	-
5	Unknown	xxx.xxx.xxx.xxx	xxxxxxxxxxxx	1	有線	-

●中継機モード時の画面

接続情報

接続状態	未接続
------	-----

2.4 GHz (11n/g/b)

SSID	-
セキュリティ	-
MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK	-

5 GHz (11ax/ac/n/a)

SSID	-
セキュリティ	-
MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK	-

Wi-Fiルーターと無線接続

EasyMeshまたは 中継機能(WB)で接続	WiFiルーターとのWPSを開始する
中継機能(WB)で接続	<input type="button" value="手動設定をする"/> <input type="button" value="PINを使用したWPSを開始する"/>

端末と無線接続

無線端末とWPS	<input type="button" value="無線端末とのWPSを開始する"/>
----------	---

拡張設定

EasyMesh

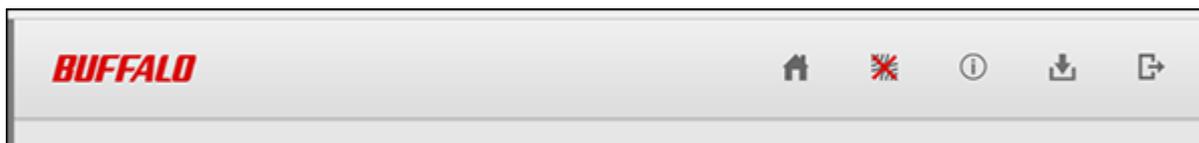
高速ローミング (11r) 使用する

中継機能(WB)

5GHz/2.4GHz 選択	自動(5GHz/優先) ▼
無線LAN親機設定	<input checked="" type="checkbox"/> 接続時に中継機能の設定で動作する

本機の無線LAN親機機能を停止する場合は **2.4GHz (11n/g/b)** 及び **5GHz (11ax/ac/n/a)** から無線機能を停止してください。

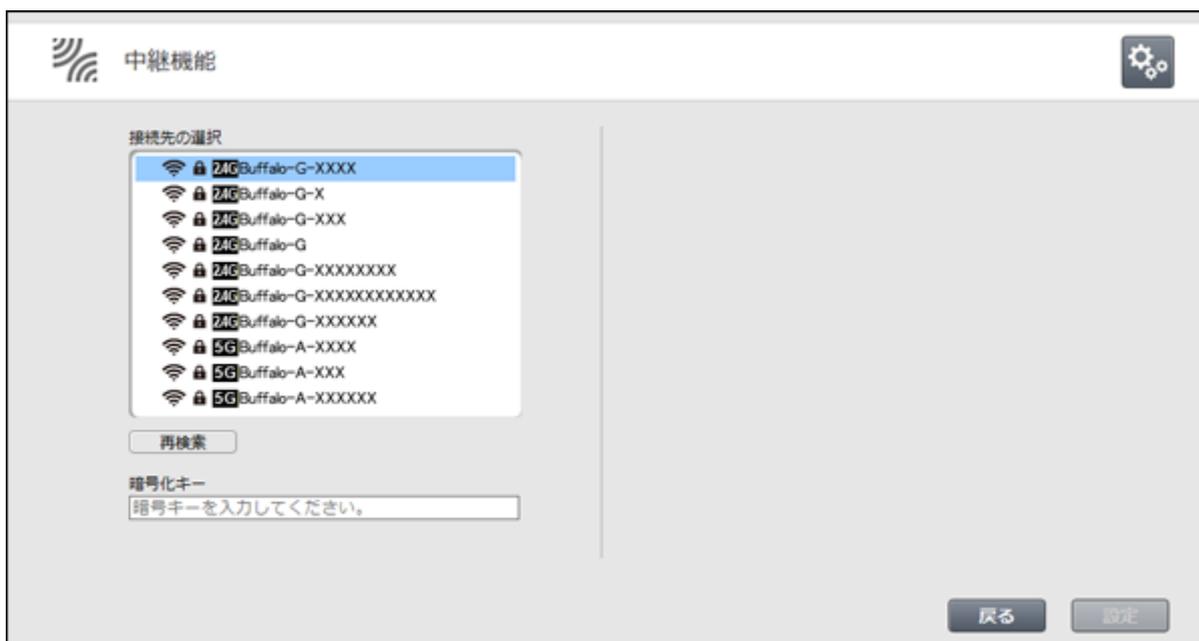
中継機モードでWi-Fiルーターとの接続失敗時の表示



本製品背面のスイッチを「WB」にした状態で、Wi-Fiルーターとの接続ができていない場合、 をクリッ

クすると、接続先Wi-Fiルーターの一覧が表示されます。

自動的にWi-FiルーターのSSIDが検索されるので、接続するSSIDを選択して暗号化キーを入力し、[設定]をクリックしてください。



項目	内容
	[接続先の選択]で選択されているWi-Fiルーターの詳細設定画面を表示します。
再検索	Wi-FiルーターのSSIDをもう一度検索します。
暗号化キー	接続先のWi-Fiルーターに設定されている暗号化キーを入力します。
設定	[接続先の選択]で選択されているWi-Fiルーターに接続します。

詳細設定画面

Internet

インターネット側の設定画面です。

Internet > Internet(ルーターモード時のみ)

IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> インターネット@スタートを行う <input checked="" type="checkbox"/> インターネット回線の変更時に自動で切り替える <input type="radio"/> DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得 <input type="radio"/> PPPoEクライアント機能を使用する <input type="radio"/> transixを使用する <input type="radio"/> v6プラスを使用する <input type="radio"/> IPv6オプションを使用する <input type="radio"/> OCNバーチャルコネクトを使用する <input type="radio"/> クロスパスを使用する <input type="radio"/> v6 コネクトを使用する <input type="radio"/> その他のDS-Liteを使用する
	ゲートアドレス <input type="text"/> <input type="radio"/> 手動設定 IPアドレス <input type="text"/> サブネットマスク 255.255.255.0 <input type="text"/>
<p>※PPPoE接続先の設定はInternet設定 - PPPoE設定で行ってください。</p>	
<p>[拡張設定]</p>	
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
DNS(ネーム)サーバーアドレス	プライマリー: <input type="text"/>
	セカンダリー: <input type="text"/>
Internet側MACアドレス	<input checked="" type="radio"/> デフォルトのMACアドレスを使用 (XX:XX:XX:XX:XX:XX) <input type="radio"/> 手動設定 <input type="text"/>
Internet側MTU値	1500 <input type="text"/> バイト

項目	内容
IPアドレス取得方法	<p>インターネット側(IPv4)のIPアドレスの取得方法を指定します。 IPv4 over IPv6通信サービスをお使いの方は、当社ホームページ(https://www.buffalo.jp/support/other/network-ipv6.html)を参照してください。</p> <p>インターネット@スタートを行う インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行いたい場合に選択します。 通常はこの設定を選択してください。 「インターネット回線の変更時に自動で切り替える」にチェックを入れると、インターネット使用中も回線の自動判別を行い、変更があった場合は自動的に回線を切り替えます。その際、数分間通信ができなくなる場合があります。頻繁に回線が切り替わる場合は、チェックを外して使用してください。</p> <p>DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得 インターネット側(IPv4)のIPアドレスをDHCPサーバーから自動取得する場合に選択します。</p> <p>PPPoEクライアント機能を使用する PPPoE機能を使用して、プロバイダーからIPアドレスを自動取得する場合に選択します。</p> <p>transixを使用する 「transix」をお使いの場合に選択します。</p> <p>v6プラスを使用する 「v6プラス」をお使いの場合に選択します。</p> <p>IPv6オプションを使用する 「IPv6オプション」をお使いの場合に選択します。</p> <p>OCNバーチャルコネクトを使用する 「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合に選択します。</p> <p>クロスパスを使用する 「クロスパス」をお使いの場合に選択します。</p> <p>v6 コネクトを使用する 「v6 コネクト」をお使いの場合に選択します。</p> <p>その他のDS-Liteを使用する その他のDS-Lite方式(「transix」とは異なるゲートアドレスの設定が必要な回線)をお使いの場合に選択して、ゲートアドレスを入力します。</p> <p>手動設定 インターネット側(IPv4)のIPアドレスを手動で設定したい場合に選択します。</p> <p>メモ: 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合で、本設定を選択しても接続できない場合は、「IPv6」(P.94)で「NDプロキシを使用する」に設定してください。 それでも接続できない場合は、「IPv6」(P.94)で「IPv6ブリッジを使用する」に設定してください。</p>
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNS(ネーム)サーバーアドレス	DNSサーバーのIPアドレスを指定します。
Internet側MACアドレス	<p>インターネット側のMACアドレスを設定します。</p> <p>メモ: 不適切なMACアドレスを設定すると、本製品だけでなく、ネットワーク上のほかの機器も使用できなくなります。この設定は、お客様の責任において行ってください。</p>

項目	内容
Internet側MTU値	INTERNET端子で通信を行うときに使用するMTU値を、578～1500バイトの範囲で設定します。 通常は、初期値(1500)のままお使いください。PPPoE接続時は、 [PPPoE] (P.91) の「PPPoE接続先リスト」の「MTU値」が使われます。

※「transix」は、インターネットマルチフィード株式会社の登録商標です。

※「v6プラス」は、株式会社JPIXの登録商標です。

※「OCNバーチャルコネク」は、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。

※「クロスパス」は、アルテリア・ネットワークス株式会社の商標または登録商標です。

※「v6 コネク」は、株式会社朝日ネットの商標です。

PPPoE

PPPoEに関する設定画面です。

Internet > PPPoE(ルーターモード時のみ)

デフォルトの接続先
1 : Internet@Start ▼

PPPoE接続先リスト

接続先No.	名称	状態
1	Internet@Start	有効

接続先の編集

接続先経路の表示

No.	接続先	宛先アドレス	送信元アドレス
設定が登録されていません			

接続先経路の編集

項目	内容
デフォルトの接続先	PPPoE接続先リストで複数の接続先を登録している場合、ここで選択した接続先が優先されます。デフォルト以外の接続先を用いるときは、PPPoEの接続先経路設定を別途行う必要があります。
PPPoE接続先リスト	PPPoEの接続先の編集ができます。最大5セッションまで登録可能です。
接続先の編集	クリックすると、接続先の設定を編集する画面が表示されます。

項目	内容
PPPoE接続先リスト	<p>[接続先の編集]をクリックすると表示されます。</p> <p>接続先名称 接続先を識別するための名称を32文字までの半角英数字記号で入力します。</p> <p>接続先ユーザー名 PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のユーザー名を64文字までの半角英数字記号で設定します。</p> <p>接続先パスワード PPPoEの認証に使用するプロバイダー指定のパスワードを64文字までの半角英数字記号で設定します。</p> <p>サービス名 プロバイダーからサービス名の指定がある場合のみ64文字までの半角英数字記号で設定します。 プロバイダーから指定されなければ、空欄のままにします。</p> <p>接続方法 本製品がプロバイダーに接続するタイミングを指定します。</p> <p>自動切断 接続方法が「オンデマンド接続」または「手動接続」のときに、通信が停止してから、回線の使用を停止するまでの時間を0～1440分の範囲で設定します。</p> <p>認証方法 プロバイダーとの認証方法を設定します。</p> <p>MTU値 PPPoEで通信を行うときに使用するMTU値を、578～1492バイトの範囲で設定します。</p> <p>MRU値 PPPoEで通信を行うときに使用するMRU値を、578～1492バイトの範囲で設定します。</p> <p>キープアライブ 有効にすると、本製品はPPPoEサーバーとの接続を維持するために、LCPエコーリクエストを1分に1度発行します。このとき、6分以上サーバーの応答がない場合は、回線が切断されたものと判断し、接続をいったん切断します。頻繁にPPPoE接続が切断される場合は、キープアライブに応答を返さないサーバーである可能性があるため、無効に設定してください。</p>
接続先経路の表示	接続先経路を設定すると、設定した情報が表示されます。
接続先経路の編集	クリックすると、接続先経路を編集する画面が表示されます。
接続先経路の新規追加	<p>[接続先経路の編集]をクリックすると表示されます。</p> <p>接続先 「宛先アドレス」や「送信元アドレス」が一致する通信の場合にPPPoE接続を行う接続先です。PPPoE接続先リストに登録されている接続先から選択します。</p> <p>宛先アドレス 通信の宛先アドレスです。このアドレス宛へ通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。</p> <p>送信元アドレス 通信の送信元アドレスです。この送信元アドレスから通信を行うと、設定した「接続先」へ通信します。</p>

アドレス変換

アドレス変換の設定画面です。

Internet > アドレス変換(ルーターモード時のみ)

アドレス変換	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
拡張設定	<input checked="" type="checkbox"/> 表示する
TCPタイムアウト時間	<input type="text" value="2500"/> 秒

項目	内容
アドレス変換	アドレス変換機能を使用するかどうかを設定します。
拡張設定	「表示する」を選択すると、アドレス変換機能の拡張設定項目が表示されます。
TCPタイムアウト時間	TCP通信におけるNATテーブルの保持期間を300～86400秒(1日)の範囲で設定します。 NATテーブルの不足により通信できなくなる場合に、TCPタイムアウト時間を短くするとで解決できることがあります。 ただし、TCPタイムアウト時間を短くした場合、ゲームなどの通信で切断が発生することがあります。

IPv6

IPv6の接続方法を設定する画面です。

Internet > IPv6(ルーターモード時のみ)

IPv6接続方法	<input type="radio"/> IPv6を使用しない <input checked="" type="radio"/> インターネット@スタートを行う <input type="checkbox"/> IPv6ブリッジを許可する <input type="radio"/> NTTフレッツ光ネクストを使用する <input type="radio"/> IPv6ネイティブを使用する <input type="radio"/> NDプロキシを使用する <input type="radio"/> IPv6ブリッジを使用する
----------	---

項目	内容
IPv6接続方法	<p>IPv6での接続方法を指定します。ご利用の回線がどの接続方法を採用しているかは、お使いのプロバイダーへ確認してください。</p> <p>IPv6を使用しない インターネット回線がIPv6に対応していないときに選択します。</p> <p>インターネット@スタートを行う インターネット回線の種類を自動的に判別し、インターネットに接続するまでの設定を自動的に行います。 IPv6 PPPoEには対応していません。 「IPv6ブリッジを許可する」にチェックを入れると、インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジを使用する」が選択される場合があります。</p> <p>NTTフレッツ光ネクストを使用する プレフィックス長が64ビットより短いNTTフレッツ 光ネクスト回線をお使いの場合に選択します(本設定は、通常は使用しません)。</p> <p>IPv6ネイティブを使用する 後述の「IPv6プレフィックス取得方法」を設定する必要がある場合に選択します。</p> <p>NDプロキシを使用する 下記の「IPv6ブリッジを使用する」よりもセキュリティーを高めた動作モードで、インターネット側とLAN側とのIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを適用します。 「ひかりTV」などのフレッツIPv6サービスを利用する場合に選択します。</p> <p>IPv6ブリッジを使用する インターネット側とLAN側とのIPv6通信に対して、ファイアウォールやIPv6フィルターを使用できない場合に選択します。</p> <p>メモ: IPv6ブリッジを使用すると、インターネット側から本製品に接続している機器にアクセスできる場合があります。本製品に接続している機器のセキュリティー設定を確認した上で使用してください。</p>
IPv6ブリッジを許可する	<p>この項目にチェックが入っていると、「インターネット@スタートを行う」を選択している際、インターネットとLANの間でIPv6パケットが通過できる「IPv6ブリッジ」が選択されることがあります。</p>

項目	内容
IPv6プレフィックス取得方法	<p>「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスのプレフィックスを取得する方法を以下から選択します。</p> <p>自動取得(DHCPv6-PD) DHCPv6サーバーから自動的にIPv6プレフィックスを取得します。</p> <p>手動設定 IPv6プレフィックスを手動で入力します。グローバルプレフィックスを入力し、プレフィックス長を選択します。</p> <p>メモ: IPv6プレフィックス取得方法を「手動設定」にした場合は、必ずIPv6デフォルトゲートウェイを設定してください。</p>
LAN側IPv6アドレス自動配布方法	<p>「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークにIPv6アドレスを配布する方法を指定します。</p> <p>ステートレスアドレス自動設定で配布 Router Advertiseプロトコルを用いて、各ホストにアドレスを自動で配布します。</p> <p>DHCPv6サーバーで配布 DHCPv6サーバー機能を利用して、各ホストにアドレスを自動で配布します。この方法を選択する場合は、DHCPv6サーバーがアドレスを配布する時間、配布するアドレスの範囲を「リース期間」「リース範囲」にそれぞれ設定します。</p>
IPv6デフォルトゲートウェイ	<p>「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 デフォルトゲートウェイとなるIPv6アドレスを入力します。</p> <p>メモ: IPv6プレフィックス取得方法を「自動取得」にしている場合は設定する必要はありません。「手動設定」にしている場合は、正しく入力しないとIPv6ネットワークと正しく接続できなくなります。</p>
LAN側サブネットID	<p>「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 LAN側ネットワークのサブネットIDを16進数で入力します。</p>
LAN側インターフェースID	<p>「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 本製品のグローバルアドレスのインターフェースIDを設定します。</p>
DNSサーバーの通知	<p>「NTTフレッツ光ネクストを使用する」または「IPv6ネイティブを使用する」を選択した際に表示されます。 IPv6アドレスがリースされた機器に対して通知するDNSサーバーのIPv6アドレスを設定します。</p>

LAN

LAN側ポートの設定画面です。

LAN > LAN

LAN側IPアドレス	IPアドレス	192.168.11.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
DHCPサーバー機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する	
割り当てIPアドレス	192.168.11.2	から 64 台
	除外アドレス:	

DHCPサーバー設定 [拡張設定]

[拡張設定] 表示する

項目	内容
LAN側IPアドレス	LAN側IPアドレスとサブネットマスクを設定します。
DHCPサーバー機能	DHCPサーバー(IPアドレス自動割り当て)機能を使用するかどうかを設定します。
割り当てIPアドレス	DHCPサーバー機能で割り当てるIPアドレスの範囲とその範囲から除外するIPアドレスを設定します。
拡張設定	「表示する」を選択すると、DHCPサーバーの拡張設定項目が表示されます。
リース期間	DHCPサーバー機能で割り当てたIPアドレスの有効期間を設定します。
デフォルトゲートウェイの通知	DHCPサーバー機能で通知するデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
DNSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するDNSサーバーのIPアドレスを設定します。
WINSサーバーの通知	DHCPサーバー機能で通知するWINSサーバーのIPアドレスを設定します。
ドメイン名の通知	DHCPサーバー機能で通知するドメイン名を設定します。

DHCPリース

DHCPリースの設定画面です。

LAN > DHCPリース(ルーターモード時のみ)

リース情報				
IPアドレス	MACアドレス	リース期間	状態	操作
192.168.11.2 (*)	XX:XX:XX:XX:XX:XX	47:27:09	自動割当	<input type="button" value="手動割当に変更"/>
192.168.11.3	XX:XX:XX:XX:XX:XX	47:40:25	自動割当	<input type="button" value="手動割当に変更"/>
192.168.11.4	XX:XX:XX:XX:XX:XX	47:50:12	自動割当	<input type="button" value="手動割当に変更"/>

(*) 設定画面を表示している機器のIPアドレス(192.168.11.2)

項目	内容
リース情報	現在のリース情報が表示されます。 自動リースされたIPアドレスは、[手動割当に変更]をクリックすると、手動リースに変更できます。
リース情報の追加	クリックすると、リース情報の追加画面が表示されます。
リース情報の新規追加	[リース情報の追加]をクリックすると表示されます。 IPアドレス 手動リースするIPアドレスを入力します。本製品のLAN側のネットワークアドレスに含まれないIPアドレスは設定できません。 MACアドレス 機器を識別するMACアドレスを入力します。

経路情報

本製品が行う通信のIP経路の設定画面です。

LAN > 経路情報

経路情報

宛先アドレス	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	操作
経路情報はありません				

項目	内容
経路情報	<p>手動で追加したルーティングテーブルを確認できます。</p> <p>宛先アドレス ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスを表示します。</p> <p>サブネットマスク ルーティングテーブルに追加するサブネットマスクを表示します。</p> <p>ゲートウェイ ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを表示します。</p> <p>メトリック ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を表示します。</p> <p>操作 [修正]をクリックすると、経路情報を修正できます。 [削除]をクリックすると、経路情報が削除されます。</p>
新規追加	<p>クリックすると、経路情報の追加画面が表示されます。</p>
経路の新規追加	<p>[新規追加]をクリックすると表示されます。</p> <p>宛先アドレス ルーティングテーブルに追加する宛先IPアドレスとサブネットマスクを設定します。</p> <p>ゲートウェイ ルーティングテーブルに追加するゲートウェイのアドレスを設定します。</p> <p>メトリック ルーティングテーブルに追加するメトリック(宛先アドレスまでに越えるルーター数)を設定します。</p>

2.4 GHz(11n/g/b)

2.4 GHz(11n/g/b)のWi-Fiの設定画面です。

無線設定 > 2.4 GHz(11n/g/b)

[基本設定] EasyMesh機能を使用中は2.4GHzと5GHzを無効にすることはできません。

無線機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
無線チャンネル	自動 <input type="button" value="v"/> (現在のチャンネル: 6)
倍速モード	帯域: 144 Mbps (20 MHz) <input type="button" value="v"/> (Current: 20 MHz) 拡張チャンネル 1 <input type="button" value="v"/>
ANY接続	<input checked="" type="checkbox"/> 許可する

SSID1

SSID1	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-2G-XXXX) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA2 Personal <input type="button" value="v"/>
無線の暗号化	AES <input type="button" value="v"/>
WPA-PSK(事前共有キー)	<input type="text" value="XXXXXXXXXX"/>
Key更新間隔	0 <input type="text" value=""/> 分

SSID2

SSID2	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-2G-XXXX-WPA3) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA3 Personal <input type="button" value="v"/>
無線の暗号化	AES <input type="button" value="v"/>
WPA-PSK(事前共有キー)	<input type="text" value="XXXXXXXXXX"/>
Key更新間隔	0 <input type="text" value=""/> 分

SSID3

SSID3	<input type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-2G-XXXX_2) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
WEP暗号化キー設定	文字入力・13文字(WEP128)▼ <input checked="" type="radio"/> 1: <input type="text"/> <input type="radio"/> 2: <input type="text"/> <input type="radio"/> 3: <input type="text"/> <input type="radio"/> 4: <input type="text"/>

[拡張設定]

BSS BasicRateSet	1,2,5,5,11 Mbps ▼
Multicast Rate	1 Mbps ▼
802.11n プロテクション	<input type="checkbox"/> 使用する
DTIM Period	1
プライバシーセパレーター	<input type="checkbox"/> 使用する
送信出力	100 % ▼

設定

項目	内容
無線機能	Wi-Fi機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル (Wi-Fiチャンネル)	Wi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。「自動」に設定すると、電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。 手動でチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。
倍速モード	Wi-Fi通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を300Mbps(40MHz)に設定します。
ANY接続	チェックを外すと、Wi-Fi機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 ~ SSID 5	<p>SSID 1 WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わないWi-Fi用のSSIDです。</p> <p>SSID 2 WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。</p> <p>SSID 3 WEP専用のSSIDです。</p> <p>SSID 4、SSID 5 無線引越し機能を使用してWi-Fi設定を引き継いでいる場合に表示されません。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している機器はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。

項目	内容
無線の認証	<p>各SSIDの認証方式を以下から選択します。</p> <p>WPA2 Personal WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA/WPA2 Personal WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA3 Personal WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA2/WPA3 Personal WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>認証を行わない 機器とのWi-Fi接続の際に認証を行いません。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>
無線の暗号化	<p>Wi-Fi通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。</p> <p>AES 暗号化の方式にAESを使用します。</p> <p>TKIP/AES mixed mode 暗号化の方式にTKIPとAESを使用します。</p> <p>暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。</p>
WPA-PSK(事前共有キー)	<p>SSID1とSSID2において、機器との認証で使用する事前共有キー(暗号化キー)を入力します。入力できる事前共有キーは、SSIDごとに異なります。</p> <p>SSID1の事前共有キー 文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8~63文字で入力します。16進数入力の場合、0~9およびa~f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。</p> <p>SSID2の事前共有キー 半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を1~64文字で入力します。</p> <p>メモ: 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSID1とSSID2で、別々の事前共有キーを設定する。 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0~1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	<p>Wi-Fiを暗号化する暗号化キーを入力します。</p> <p>WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0~9およびa~f(大文字/小文字の区別なし)の10桁または26桁で入力します。</p>
BSS BasicRateSet	本製品と機器の制御通信フレームの通信速度を設定します。
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。

項目	内容
802.11nプロテクション	従来規格(11g/11b)の機器が混在している環境でも、コリジョンなどによって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔(1~255)の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	機器間のWi-Fi通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、本製品にWi-Fi接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器と、ほかの機器は通信できます。
送信出力	本製品がWi-Fi送信するときの電波送信出力を設定します。

5 GHz(11ax/ac/n/a)

5 GHz(11ax/ac/n/a)のWi-Fiの設定画面です。

無線設定 > 5 GHz(11ax/ac/n/a)

[基本設定] EasyMesh機能を使用中は2.4GHzと5GHzを無効にすることはできません。

無線機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
無線チャンネル	自動 (現在のチャンネル: 108) ※DFSありの場合、気象レーダー等を感知すると自動的にチャンネルが変更されます
倍速モード	帯域: 1201 Mbps (80 MHz) (Current: 80 MHz)
ANY接続	<input checked="" type="checkbox"/> 許可する

SSID1

SSID1	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-5G-XXXX) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA2 Personal
無線の暗号化	AES
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXXXX
Key更新間隔	0 分

SSID2

SSID2	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-5G-XXXX-WPA3) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA3 Personal
無線の暗号化	AES
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXXXX
Key更新間隔	0 分

SSID3	
SSID3	<input type="checkbox"/> 使用する
隔離機能	<input type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-5G-XXXX_2) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
WEP暗号化キー設定	文字入力・13文字(WEP128)▼ <input checked="" type="radio"/> 1: <input type="text"/> <input type="radio"/> 2: <input type="text"/> <input type="radio"/> 3: <input type="text"/> <input type="radio"/> 4: <input type="text"/>

[拡張設定]

BSS BasicRateSet	6,12,24 Mbps▼
Multicast Rate	6 Mbps ▼
802.11n プロテクション	<input type="checkbox"/> 使用する
DTIM Period	1
プライバシーセパレーター	<input type="checkbox"/> 使用する
送信出力	100 %▼
802.11ax MU-MIMO	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する

設定

項目	内容
無線機能	Wi-Fi機能を使用するかどうかを設定します。
無線チャンネル (Wi-Fiチャンネル)	Wi-Fiで使用するチャンネル(周波数帯)を設定します。DFSに対応したチャンネルを設定した場合は、本製品が気象レーダーなどを感知すると、自動的にチャンネルが変更されます。 「自動」に設定すると電波混雑防止機能により、自動的に最適なチャンネルが設定されます。
倍速モード	Wi-Fi通信で使用する帯域を設定します。高速な通信を行う場合は、帯域を1201Mbps(80MHz)に設定してください。
ANY接続	チェックを外すと、Wi-Fi機器からSSIDを検索できないようにし、本製品の存在を第三者に知られにくくします。
SSID 1 ~ SSID 5	<p>SSID 1 WPA2 Personal、WPA/WPA2 Personal、および認証を行わないWi-Fi用のSSIDです。</p> <p>SSID 2 WPA3 Personal、WPA2/WPA3 Personal用のSSIDです。</p> <p>SSID 3 WEP専用のSSIDです。</p> <p>SSID 4、SSID 5 無線引越し機能を使用してWi-Fi設定を引き継いでいる場合に表示されます。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>

項目	内容
隔離機能	設定を有効にすると、そのSSIDに接続している機器はインターネット側とだけ通信可能になります。
SSID	SSIDを半角英数字記号で32文字までで設定します。
無線の認証	<p>各SSIDの認証方式を以下から選択します。</p> <p>WPA2 Personal WPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA/WPA2 Personal WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA3 Personal WPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>WPA2/WPA3 Personal WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。本製品に設定した暗号化キーと同じキーに設定されたWi-Fi機器だけが通信できます。</p> <p>認証を行わない 機器とのWi-Fi接続の際に認証を行いません。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>
無線の暗号化	<p>Wi-Fi通信のデータ暗号化の種類を以下から選択します。</p> <p>AES 暗号化の方式にAESを使用します。</p> <p>TKIP/AES mixed mode 暗号化の方式にTKIPとAESを使用します。</p> <p>暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。</p>
WPA-PSK(事前共有キー)	<p>SSID1とSSID2において、機器との認証で使用する事前共有キー(暗号化キー)を入力します。入力できる事前共有キーは、SSIDごとに異なります。</p> <p>SSID1の事前共有キー 文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8~63文字で入力します。16進数入力の場合、0~9およびa~f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。</p> <p>SSID2の事前共有キー 半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を1~64文字で入力します。</p> <p>メモ: 安全のため、事前共有キーは次のように設定することをおすすめします。</p> <ul style="list-style-type: none"> SSID1とSSID2で、別々の事前共有キーを設定する。 事前共有キーは、一般的な単語を避けて十分長い文字列を設定する。
Key更新間隔	通信用暗号化キーを更新する間隔を0~1440分の範囲で設定します。
WEP暗号化キー設定	<p>Wi-Fiを暗号化する暗号化キーを入力します。</p> <p>WEP暗号化キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を5文字または13文字で入力します。16進数入力の場合、0~9およびa~f(大文字/小文字の区別なし)の10桁または26桁で入力します。</p>
BSS BasicRateSet	本製品と機器の制御通信フレームの通信速度を設定します。

項目	内容
Multicast Rate	マルチキャストパケットの通信速度を設定します。
802.11nプロテクション	従来規格の機器が混在している環境でも、コリジョンなどによって性能が低下しないようにする802.11nプロテクションを使用するかどうかを設定します。
DTIM Period	機器に通知するビーコン応答間隔(1~255)の設定をします。機器のパワーマネージメント設定を有効にした場合のみ、この設定が有効になります。
プライバシーセパレーター	機器間のWi-Fi通信を許可するかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると、本製品にWi-Fi接続している機器同士が通信できなくなります。 本製品に有線で接続している機器と、ほかの機器は通信できます。
送信出力	本製品がWi-Fi送信するときの電波送信出力を設定します。
802.11ax MU-MIMO	複数の802.11ax対応機器が接続している場合に、802.11ax規格のMU-MIMOによる通信を行うかどうかを設定します。「使用する」に設定すると、複数の802.11ax対応機器と同時通信を行う場合に通信速度の向上や応答速度の改善が見込めます。 メモ: 「使用する」に設定後、802.11ax対応機器の同時通信時に通信速度が安定しない、通信速度が低下するなどの現象が発生した場合は、「使用する」のチェックを外してください。

バンドステアリングLite

バンドステアリングLiteに関する設定画面です。

バンドステアリングLiteは、本製品が機器との電波強度と対応バンド(帯域)をチェックして、最適なバンドに自動的に接続できるように機器を誘導する機能です。

メモ: 本機能を使用すると、本製品に接続している機器がすべて切断されます。本機能設定後は、以下を参考にしてもう一度Wi-Fi接続を行ってください。

- ・ [「AOSSで接続する方法」\(P.36\)](#)
- ・ [「WPSで接続する方法」\(P.38\)](#)
- ・ [「暗号化キーを使って接続する方法\(手動設定\)」\(P.34\)](#)

SSIDや暗号化キーは、この画面で設定したものを使用してください。

無線設定 > バンドステアリングLite(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

2.4 GHz/5 GHz共通SSID	
SSID1	
SSID1	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-XXXX) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA2 Personal ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXXXX
Key更新間隔	0 分
SSID2	
SSID2	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
SSID	<input checked="" type="radio"/> エアステーションのMACアドレスを設定 (Buffalo-XXXX-WPA3) <input type="radio"/> 値を入力: <input type="text"/>
無線の認証	WPA3 Personal ▼
無線の暗号化	AES ▼
WPA-PSK(事前共有キー)	XXXXXXXXXXXX
Key更新間隔	0 分
設定	

項目	内容
SSID1, SSID2	SSID1とSSID2でバンドステアリングLiteを使用するかどうかを設定します。
SSID	バンドステアリングLiteで使用する2.4 GHz/5 GHzの共通SSIDを作成します(半角英数字または記号で32文字までです)。

項目	内容
無線の認証	<p>共通SSIDの認証方式を以下から選択します。</p> <p>認証を行わない 機器とのWi-Fi接続の際に認証を行いません。</p> <p>WPA2 Personal WPA2に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。</p> <p>WPA/WPA2 Personal WPAまたはWPA2に準拠した機器の認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。</p> <p>WPA3 Personal ※SSID2でのみ表示されます。 WPA3に準拠した認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。</p> <p>WPA2/WPA3 Personal ※SSID2でのみ表示されます。 WPA2またはWPA3に準拠した機器の認証を行います。事前共有キーを別途本製品に設定する必要があります。</p> <p>メモ: お使いの機器やOSによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。</p>
無線の暗号化	<p>Wi-Fi通信のデータ暗号化の種類です。 無線の認証を設定すると、本項目も自動的に設定されます。</p> <p>暗号化なし 暗号化を行わずに通信します。通信内容が盗聴される恐れがありますので暗号化なしでのご使用は避けてください。 無線の認証で「認証を行わない」を選択した場合のみ使用可能です。</p> <p>AES 暗号化の方式にAES(強固な次世代暗号化方式)を使用します。事前共有キーを使用して機器とWi-Fi通信します。 無線の認証で「WPA2 Personal」、「WPA3 Personal」を選択した場合のみ使用可能です。</p> <p>TKIP/AES mixed mode TKIP、AESの認証・通信を同時に行うことができます。 無線の認証で「WPA/WPA2 Personal」を選択した場合のみ使用可能です。</p>
WPA-PSK(事前共有キー)	<p>機器との認証で使用する事前共有キーを入力します。 事前共有キーは、文字列入力の場合、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8~63文字で入力します。16進数入力の場合、0~9およびa~f(大文字/小文字の区別なし)の64桁で入力します。 無線の認証が「WPA3 Personal」のとき、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を1~64文字で入力します。 無線の認証が「WPA2/WPA3 Personal」のとき、半角英数字(大文字/小文字の区別あり)を8~63文字で入力します。</p>
Key更新間隔	<p>通信用暗号化キーを更新する間隔を0~1440分の範囲で設定します。</p>

EasyMesh/中継機能(WB)

EasyMeshを利用するネットワークで本製品をコントローラ、エージェントとしての使用する場合の設定や、EasyMeshを利用しないネットワークで本製品を中継機として使用するための設定画面です。本製品の動作するモードによって、以下の2種類のモードのいずれかが表示されます。

- ルーターモード時/アクセスポイントモード時画面
 - 例) EasyMeshを利用するネットワークで本製品をコントローラとする場合
 - 例) EasyMeshを利用しないネットワークで本製品をほかの中継機と中継接続している場合
- 中継機モード時の画面
 - 例) EasyMeshを利用するネットワークで本製品をエージェントとする場合
 - 例) EasyMeshを利用しないネットワークで本製品をほかのWi-Fiルーターと中継接続している場合

無線設定 > EasyMesh(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

●ルーターモード時/アクセスポイントモード時の画面

EasyMeshを利用するネットワークで本製品がコントローラとして動作している場合や、EasyMeshを利用しないネットワークで本製品がほかの中継機と中継接続している場合、以下の画面が表示されます。

EasyMesh機能を使用すると、2.4GHzと5GHzが自動で有効になります。

EasyMesh機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
------------	--

[拡張設定]

高速ローミング(11r)	<input type="checkbox"/> 使用する
Backhaul SSID	<input type="checkbox"/> 設定する

[WPS設定]

プッシュボタン式	プッシュボタンによるWPSを開始する
----------	--------------------

[接続機器一覧]

接続機器一覧の表示

項目	内容
EasyMesh機能	「EasyMesh機能」を使用するかどうかを設定します。
高速ローミング(11r)	「高速ローミング(11r)」を使用するかどうかを設定します。 メモ: 通信中に移動した場合でも電波を途切れにくくしたいときは、[使用する]に設定してください。お使いの機器によっては、[使用する]に設定すると、接続が失敗する場合や、接続が不安定になることがあります。そのようなときは、[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックしてください。
Backhaul SSID	[設定する]をチェックして[設定]をクリックすることで、メッシュネットワークで主にコントローラとエージェントの接続に使用されるSSID (Backhaul SSID)を設定します。 • WPA-PSK(事前共有キー)以外は変更できません。
プッシュボタンによるWPSを開始する	このボタンをクリックすると、WPS待ち受け状態になります。 メモ: 本製品とエージェントを接続する場合や、本製品に中継機を接続する場合にクリックしてください。

項目	内容
接続機器一覧の表示	メッシュネットワーク内にある、コントローラとエージェント、デバイスの情報を一覧表示します。

●接続機器一覧

本製品と同じネットワークに接続されているWi-Fi機器およびデバイスを表示します。

メモ: メッシュネットワークに接続されていない機器も表示されます。

接続機器一覧

コントローラ・エージェント

No	機器名	IPアドレス	MACアドレス	接続先	接続帯域	電波状態	種別
1	XXXXXXXXXX	xxx.xxx.xxx.xxx	xx:xx:xx:xx:xx:xx	-	-	-	コントローラ
2	XXXXXXXXXX	xxx.xxx.xxx.xxx	xx:xx:xx:xx:xx:xx	1	有線	-	エージェント

デバイス

No	機器名	IPアドレス	MACアドレス	接続先	接続帯域	電波状態
3	Unknown	xxx.xxx.xxx.xxx	xx:xx:xx:xx:xx:xx	1	2.4GHz	📶
4	Unknown	xxx.xxx.xxx.xxx	xx:xx:xx:xx:xx:xx	1	有線	-
5	Unknown	xxx.xxx.xxx.xxx	xx:xx:xx:xx:xx:xx	1	有線	-

●コントローラ・エージェント

項目	内容
No	接続されている機器のリスト管理上の番号を表示します。
機器名	当社のEasyMesh対応機器の型番を表示します。 他社のEasyMesh対応機器は、"other"と表示されます。 機器名をクリックすると、その機器に接続しているデバイスの一覧が以下に表示されます。 メモ: 機器名を変更することはできません。
IPアドレス	現在のIPアドレスを表示します。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。
接続先	エージェントには、接続先のコントローラ、またはエージェントのNoを表示します。 メモ: コントローラには、“-”を表示します。
接続帯域	各エージェントとコントローラとの接続している形式を表示します。 メモ: バンドステアリング機能が有効の場合でも、実際に接続している通信規格を表示します。
電波状態	各エージェントの、コントローラとの電波の受信レベルを表示します。
種別	EasyMesh対応機器の場合は、コントローラとして使用しているのか、エージェントとして使用しているのかを表示します。

●デバイス

ネットワークに接続されている機器および、EasyMeshに非対応のWi-Fi機器が表示されます。

メモ: 電源がOFFとなっている機器は表示されません(リストを更新すると表示されなくなります)。

項目	内容
No	接続されている機器のリスト管理上の番号を表示します。
機器名	デバイスから取得した名称を表示します。 デバイスから情報を取得できなかった場合は、"Unknown"と表示されます。 変更したい場合は、デバイス側の名称を変更してください。 IPアドレス情報を取得できなかったデバイスは、“-”と表示されます。
IPアドレス	デバイスの現在のIPアドレスを表示します。 メモ: IPアドレス情報を取得できなかったデバイスは、“-”と表示されます。
MACアドレス	デバイスのMACアドレスを表示します。 メモ: MACアドレス情報を取得できなかったデバイスは、“-”と表示されます。
接続先	メッシュネットワークに接続している場合、接続先のコントローラまたは、エージェントのNoを表示します。 メモ: EasyMesh非対応機器へ接続しているデバイスの場合は、そのEasyMesh非対応機器が接続しているEasyMesh対応機器のNoが表示されます。
接続帯域	各デバイスが接続している機器との接続形式を表示します。 EasyMesh非対応機器へ接続しているデバイスの場合は、そのEasyMesh非対応機器が接続しているEasyMesh対応機器との接続形式が表示されます。 メモ: バンドステアリング機能が有効の場合でも、実際に接続している通信規格を表示します。
電波状態	各デバイスがWi-Fi接続している場合、電波受信レベルを表示します。 EasyMesh非対応機器へ接続しているデバイスの場合は、そのEasyMesh非対応機器が接続しているEasyMesh対応機器との電波受信レベルが表示されます。 メモ: 有線接続している場合は、“-”が表示されます。

無線設定 > EasyMesh/中継機能(WB)(中継機モード時のみ)

●中継機モード時の画面

EasyMeshを利用するネットワークで、本製品がエージェントとして動作している場合や、EasyMeshを利用しないネットワークで、本製品が中継機として動作している場合は以下が表示されます。

接続情報	
接続状態	未接続
2.4 GHz (11n/g/b)	
SSID	-
セキュリティ	-
MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK	-
5 GHz (11ax/ac/n/a)	
SSID	-
セキュリティ	-
MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
WPA-PSK	-
Wi-Fiルーターと無線接続	
EasyMeshまたは 中継機能(WB)で接続	WiFiルーターとのWPSを開始する
中継機能(WB)で接続	<input type="button" value="手動設定をする"/> <input type="button" value="PINを使用したWPSを開始する"/>
端末と無線接続	
無線端末とWPS	無線端末とのWPSを開始する
拡張設定	
EasyMesh	
高速ローミング (11r)	<input type="checkbox"/> 使用する
中継機能(WB)	
5GHz/2.4GHz 選択	自動(5GHz 優先) ▼
無線LAN親機設定	<input checked="" type="checkbox"/> 接続時に中継機能の設定で動作する
<small>本機の無線LAN親機機能を停止する場合は 2.4GHz (11n/g/b) 及び 5GHz (11ax/ac/n/a) から無線機能を停止してください。</small>	
<input type="button" value="設定"/>	

項目	内容
接続状態	中継機能の状態を表示します。
SSID	本製品の接続先のSSIDが表示されます。
セキュリティ	接続先との接続で使用しているセキュリティの種類が表示されます。
MACアドレス	Wi-Fiルーターに接続する際の2.4 GHzと5 GHzのMACアドレスが表示されます。MACアクセス制限を使用する場合、こちらのMACアドレスをWi-Fiルーターに登録します。

項目	内容
WPA-PSK(事前共有キー)	本製品の接続先の事前共有キー(暗号化キー)が表示されます。
Wi-FiルーターとのWPSを開始する	Wi-FiルーターのWPSボタンを押してからこのボタンをクリックすると、Wi-FiルーターとのWPS接続を行います。
手動設定をする	ボタンをクリックすると、本製品周辺のWi-Fiルーターが検索されます。接続したいWi-Fiルーターを選択し、暗号化キーを入力すると、接続処理が完了します。
PINを使用したWPSを開始する	接続に必要なPINコードが発行され、本製品周辺のWi-Fiルーターが検索されます。接続したいWi-Fiルーターを選択して[PIN実行]をクリックすると、本製品はWPSの待ち受け状態になります。接続先のWi-Fiルーターに対して、2分以内にPINコードを登録すると、接続処理が完了します。
無線端末とのWPSを開始する	本製品に接続する機器でWPS接続を開始してからこのボタンをクリックすると、機器とのWPS接続を行います。
高速ローミング(11r)	EasyMeshでの接続において、高速ローミング(11r)を使用するかどうかを設定します。 メモ: 通信中に移動した場合でも電波を途切れにくくしたいときは、[使用する]に設定してください。お使いの機器によっては、[使用する]に設定すると、接続が失敗する場合や、接続が不安定になることがあります。そのようなときは、[使用する]のチェックを外して[設定]をクリックしてください。
5GHz/2.4GHz 選択	接続先と接続する際の優先順位を設定します。
無線LAN親機設定	EasyMeshを利用しないネットワークで、接続先のWi-FiルーターのSSIDと暗号化設定を本製品に引き継ぐ場合は、「接続時に中継機能の設定で動作する」にチェックを入れてください。 メモ: チェックを入れた場合、Wi-Fi機器ではWi-Fiルーターと中継機が同じ1つのSSIDが表示され、チェックを入れない場合、Wi-Fi機器ではWi-Fiルーターとは別のSSIDが表示されます。

WPS

WPSの設定や状況を確認する画面です。

無線設定 > WPS(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

WPS機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
外部Registrar	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
エアステーションのPINコード	xxxxxxx <input type="button" value="PIN生成"/>
EnrolleeのPINコード	<input type="text"/> <input type="button" value="OK"/>

WPS用無線セキュリティ設定

WPSステータス	configured	<input type="button" value="解除"/>
2.4GHz	SSID	Buffalo-2G- XXXX
	セキュリティ	WPA2 Personal AES
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX
5GHz	SSID	Buffalo-5G- XXXX
	セキュリティ	WPA2 Personal AES
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXXXX

項目	内容
WPS機能	WPS機能を使用するかどうかを設定します。 メモ: 「ANY接続」を無効にしている周波数帯では、WPSを実行できません。
外部Registrar	WPS機能を使用する際に、外部Registrarからのconfigure要求を受け付けるかどうかを設定します。 AOSS接続を行うと、外部Registrarの要求を受け付けなくなります。
エアステーションのPINコード	本製品のPINコードが表示されます。[PIN生成]をクリックすると、新しいPINコードが生成されます。
EnrolleeのPINコード	機器のPINコードを入力して[OK]をクリックすると、本製品の内部Registrarが、そのPINコードを持つ機器からの接続要求を受け付ける状態になります。
WPS用無線セキュリティ設定	本製品のWPS状態と現在設定されているSSID、セキュリティ、暗号鍵が表示されます。

AOSS

AOSSの設定や状況を確認する画面です。

無線設定 > AOSS(ルーターモード時/アクセスポイントモード時のみ)

AOSS動作設定

AOSS 状態	AOSS 有効 
WEPをゲーム専用にする	2.4GHz <input type="checkbox"/> 使用する
	5GHz <input type="checkbox"/> 使用する
本体側AOSSボタン	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する

AOSS接続先情報

接続先情報	MACアドレス	暗号化レベル	無線	AOSS	
XXXX-XXXX	XX:XX:XX:XX:XX:XX	WEP64/WEP128		5GHz	AOSS
		WPA-PSK-TKIP (2.4GHz)			
		WPA-PSK-AES			
		WEP64/WEP128			
		WPA-PSK-TKIP (5GHz)			
		WPA-PSK-AES			

AOSS接続先情報の編集

項目	内容
AOSS状態	現在のAOSSの状態を表示します。AOSS有効時に、  をクリックすると、AOSS接続が解除されます(その際、SSIDや暗号化キーもAOSSを使用する前の値に戻ります)。
WEPをゲーム専用にする	設定を有効にすると、本製品にWEPで接続できる機器は、WEPのみをサポートした機器となり、WPA(またはWPA2)とWEPの両方に対応した機器は、WEPでは接続できなくなります。
本体側AOSSボタン	「使用する」のチェックを外した場合は、本製品のAOSSボタンを押してもAOSS接続は実行されず、WPS接続のみが実行されます。

項目	内容
AOSS接続先情報	<p>本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器の情報が表示されます。</p> <p>接続先情報 本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器の名称が表示されます。</p> <p>MACアドレス 本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器のMACアドレスが表示されます。</p> <p>暗号化レベル 本製品とAOSS接続した機器、および本製品とWi-Fi通信中の機器の対応可能な暗号化の種類が表示されます。</p> <p>無線 現在接続しているWi-Fi方式が表示されます。</p> <p>AOSS AOSSで接続している機器かどうかが表示されます。</p>
AOSS接続先情報の編集	AOSSで接続している接続先を削除できます。

MACアクセス制限

機器からのアクセスを制限する設定画面です。

無線設定 > MACアクセス制限

無線パソコンの接続 (2.4GHz)	<input type="checkbox"/> 制限する
無線パソコンの接続 (5GHz)	<input type="checkbox"/> 制限する
登録リスト	
MACアドレス	接続状態
MACアドレスが登録されていません	
登録リストの編集	

項目	内容
無線パソコンの接続	機器からのWi-Fi接続を制限するかどうかを設定します。
登録リスト	<p>MACアクセス制限で、接続を許可する機器のMACアドレスが表示されます。MACアドレスの登録は、[登録リストの編集]をクリックして行います。</p> <p>MACアドレス MACアクセス制限で接続を許可するMACアドレスの一覧が表示されます。</p> <p>接続状態 リストに登録した機器が、現在接続しているかどうかを表示します。接続中であれば「○」、未接続であれば「×」が表示されます。</p>

項目	内容
登録リストの編集	登録したMACアドレスを編集できます。 MACアドレス リストに登録した機器のMACアドレスが表示されます。 操作 [修正]をクリックすると、登録したMACアドレスを修正できます。 [削除]をクリックすると、登録したMACアドレスが削除されます。
登録するMACアドレス	接続を許可する機器のMACアドレスを入力します。 [新規追加]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。
検出された無線パソコン一覧	本製品にWi-Fi接続している機器のMACアドレスをリストに登録できます。 MACアドレス 本製品にWi-Fi接続している機器のMACアドレスが表示されます。 操作 [登録]をクリックすると、MACアドレスがリストに登録されます。[現在の状態を表示]をクリックすると、現在の状態が表示されます。

マルチキャスト制御

無線LAN(Wi-Fi)ポートに不必要なマルチキャストパケットが転送されないように制限する設定を行う画面です。

メモ: 中継機モードで動作時にSnooping機能の設定を変更した場合は、もう一度Wi-Fiルーターと接続する必要があります。

無線設定 > マルチキャスト制御

Snooping 機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
マルチキャストAging Time	<input type="text" value="300"/> 秒

項目	内容
Snooping機能	IGMPなどのマルチキャスト管理パケットを監視し、不必要な有線・無線(Wi-Fi)へのマルチキャストの転送を抑制できる、マルチキャストSnooping(スヌーピング)機能を使用するかどうかを設定します。
マルチキャストAging Time	マルチキャストSnooping機能によって学習した情報を保持する時間を10~3600(秒)の範囲で設定します。IGMP/MLDクエリー間隔よりも十分に大きな値を入力する必要があります。

無線引っ越し機能

無線引っ越し機能を使用した際のWi-Fi設定の引き継ぎ状況を表示する画面です。

無線設定 > 無線引っ越し機能

無線引っ越し機能 無線引っ越し済み

無線引っ越し機能用セキュリティー設定

2.4GHz	SSID	Buffalo-2G-XXXX
	セキュリティー	WPA/WPA2 mixedmode - PSK TKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXX
	SSID	Buffalo-2G-XXXX-4
5GHz	セキュリティー	WPA/WPA2 mixedmode - PSK TKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXX
	SSID	Buffalo-2G-XXXX-2
	セキュリティー	認証を行わない WEP128
暗号鍵	XXXXXXXXXXXX	
SSID	Buffalo-2G-XXXX-3	
セキュリティー	認証を行わない WEP64	
暗号鍵	XXXXXXXXXXXX	
5GHz	SSID	Buffalo-5G-XXXX
	セキュリティー	WPA/WPA2 mixedmode - PSK TKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXX
	SSID	Buffalo-5G-XXXX-4
5GHz	セキュリティー	WPA/WPA2 mixedmode - PSK TKIP/AES mixed mode
	暗号鍵	XXXXXXXXXXXX
	SSID	Buffalo-5G-XXXX-2
	セキュリティー	認証を行わない WEP128
暗号鍵	XXXXXXXXXXXX	
SSID	Buffalo-5G-XXXX-3	
セキュリティー	認証を行わない WEP64	
暗号鍵	XXXXXXXXXXXX	

引っ越しした設定を全削除

項目	内容
無線引っ越し状態	無線引っ越し機能を使用したかどうかを表示します。
無線引っ越し機能用セキュリティー設定	無線引っ越し機能を使用して引き継いだWi-Fi設定情報を表示します。
引っ越しした設定を全削除	クリックすると、無線引っ越し機能で引き継いだWi-Fi設定をすべて削除します。

メモ:

- 無線引っ越し機能の使用方法は、本製品に付属している **1** セットアップガイドを参照してください。
- 一度無線引っ越し機能を使用した状態で、もう一度無線引っ越し機能を使用する場合は、[引っ越しした設定を全削除]をクリックして設定を削除してから使用してください。

ファイアウォール

ファイアウォールの設定画面です。

ルーターセキュリティ > ファイアウォール(ルーターモード時のみ)

ファイアウォール設定 - IPv4		
有効	簡易ルール	パケット数
<input type="checkbox"/>	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する	0
<input checked="" type="checkbox"/>	IDENTの要求を拒否する	0
<input checked="" type="checkbox"/>	Internet側からのPINGに 응답しない	0

ファイアウォール設定 - IPv6		
有効	簡易ルール	パケット数
<input checked="" type="checkbox"/>	Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する	0
<input checked="" type="checkbox"/>	IDENTの要求を拒否する	0
<input type="checkbox"/>	Internet側からのPINGに 응답しない	0
<input checked="" type="checkbox"/>	Internet側からの接続要求を転送しない	0

項目	内容
ファイアウォール設定-IPv4	<p>IPv4接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。各フィルターの内容は以下のとおりです。</p> <p>NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する 有効にすると、インターネット側からLAN側およびLAN側からインターネット側へのMicrosoftネットワーク共有機能は使用できなくなります。</p> <p>IDENTの要求を拒否する 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザーなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定(DMZまたはTCPポート: 113)になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。</p> <p>Internet側からのPINGに 응답しない 有効にすると、インターネット側からのPINGに 응답しなくなります。</p> <p>メモ: 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのサービスをお使いの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本項目は設定変更できません。 ・ 本項目の回線側を含めた動作は、本項目の表示に関わらず回線仕様に従います。

項目	内容
ファイアウォール設定- IPv6	<p>IPv6接続で簡易フィルターを使用するかどうかを設定します。各フィルターの内容は以下のとおりです。</p> <p>Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する 有効にすると、外部のWindowsパソコンとのIPv6を利用したWindowsファイル共有機能によるファイル共有を遮断します。</p> <p>IDENTの要求を拒否する 有効にすると、インターネット側からのIDENTの認証要求に対して拒否パケットを送ります。メール送信、ftp、ブラウザなどのネットワークアプリケーションの通信が遅くなる場合に設定してください。アドレス変換設定で、IDENTの要求をLAN側パソコンに転送する設定(DMZまたはTCPポート:113)になっている場合、そちらの設定が優先され、この設定を有効にしても機能は動作しません。</p> <p>Internet側からのPINGに応答しない 有効にすると、インターネット側からのPINGに応答しなくなります。</p> <p>Internet側からの接続要求を転送しない 有効にすると、インターネット側からの接続要求を遮断します。</p> <p>メモ: 以下の場合、ファイアウォールは動作しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IPv6](P94)で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合 • インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

IPフィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関する、IPフィルターを編集する画面です。
IPv4接続の場合はこの画面で設定してください。

ルーターセキュリティ > IPフィルター(ルーターモード時のみ)

IPフィルターの新規追加

動作	<input type="text" value="無視"/>		
方向	<input type="text" value="Internet->LAN"/>		
IPアドレス	送信元: <input style="width: 150px;" type="text"/>	->宛先: <input style="width: 150px;" type="text"/>	
プロトコル	<input type="radio"/> 全て		
	<input type="radio"/> ICMP		
	<input type="radio"/> 任意	プロトコル番号: <input style="width: 80px;" type="text"/>	
	<input checked="" type="radio"/> TCP/UDP	<input type="text" value="任意のTCPポート"/>	任意のTCP/UDPポート: <input style="width: 150px;" type="text"/>

IPフィルター登録情報

動作	方向	送信元アドレス 宛先アドレス	プロトコル	パケット数	操作
IPフィルター設定が未登録					

項目	内容
動作	対象となるパケットの処理方法を指定します。
方向	対象となるパケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となるパケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPフィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

IPv6フィルター

LAN側とインターネット側の間で通過するパケットに関する、IPフィルターを編集する画面です。IPv6接続の場合はこの画面で設定してください。

メモ: 以下の場合は、IPv6フィルターは動作しません。

- ・ [「IPv6」\(P.94\)](#)で、IPv6接続方法を「IPv6ブリッジを使用する」に設定している場合
- ・ インターネット@スタートの自動判別で「IPv6ブリッジ」が選択された場合

ルーターセキュリティー > IPv6フィルター(ルーターモード時のみ)

IPv6フィルターの新規追加

動作	<input type="text" value="無視"/>				
方向	<input type="text" value="Internet->LAN"/>				
IPアドレス	送信元:	<input type="text"/>			
	宛先:	<input type="text"/>			
プロトコル	<input type="radio"/> 全て				
	<input type="radio"/> ICMPv6				
	<input type="radio"/> 任意	プロトコル番号:	<input type="text"/>		
	<input checked="" type="radio"/> TCP/UDP	任意のTCPポート	<input type="text"/>	任意のTCP/UDPポート:	<input type="text"/>

IPv6フィルター登録情報

動作	方向	送信元アドレス 宛先アドレス	プロトコル	パケット数	操作
IPv6フィルター設定が未登録					

項目	内容
動作	対象となるパケットの処理方法を指定します。
方向	対象となるパケットの通信方向を指定します。
IPアドレス	対象となるパケットの送信元IPアドレスと宛先IPアドレスを指定します。
プロトコル	対象となる通信パケットのプロトコルを選択します。
IPv6フィルター登録情報	登録されているIPフィルターを一覧で表示します。

パススルー

PPPoEパススルー、PPTPパススルーに関する設定画面です。

ルーターセキュリティ > パススルー(ルーターモード時のみ)

PPPoEパススルー機能	<input type="checkbox"/> 使用する
PPTPパススルー	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する

項目	内容
PPPoEパススルー機能	PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを設定します。 PPPoEブリッジ機能を使用すると、PPPoEパケットがインターネット – LAN間ですべて通過可能となり、LAN側に接続した機器でPPPoEプロトコルを使用してプロバイダーからIPアドレスを自動取得できるようになります。
PPTPパススルー	アドレス変換において、PPTPパススルー機能を使用するかどうかを設定します。 メモ: 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネク ト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのサービスをお使いの場合、PPTPパ ススルーは使用できません。

ポート変換

ポート変換に関する設定画面です。

メモ:

- ・「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、ポート変換できません。
- ・「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、ポート変換設定をしても通信が転送されないことがあります。
- ・インターネットへの接続方法によって利用できるポートが制限される場合、利用可能なポート番号が表示されます。

ルーターセキュリティ > ポート変換(ルーターモード時のみ)

ポート変換の新規追加

グループ	<input type="text" value="新規追加"/> <input type="text" value="新規追加"/>
Internet側IPアドレス	<input type="text" value="エアステーションのInternet側IPアドレス"/>
プロトコル	<input type="radio"/> 全て <input type="radio"/> ICMP <input type="radio"/> 任意 <input type="text" value="プロトコル番号:"/> <input checked="" type="radio"/> TCP/UDP <input type="text" value="任意のTCPポート"/> <input type="text" value="任意のTCP/UDPポート:"/>
LAN側IPアドレス	<input type="text" value="192.168.11.2"/>
LAN側ポート	<input type="text" value="TCP/UDPポート"/>

ポート変換登録情報

グループ	Internet側IPアドレス LAN側IPアドレス	プロトコル LAN側ポート	操作
アドレス変換設定は登録されていません			

項目	内容
利用可能ポート	インターネットへの接続方法によって利用できるポートが制限される場合、利用可能なポート番号が表示されます。
グループ	登録するルールが属するグループを指定します。[新規追加]を選択して新規グループ名を入力すると、新たなグループを作成します。半角英数字で16文字までのグループ名を付けることができます。
Internet側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するインターネット側(変換前)のIPアドレスを設定します。
プロトコル	ポート変換テーブルに追加するインターネット側(変換前)のプロトコルを設定します。
LAN側IPアドレス	ポート変換テーブルに追加するLAN側(変換後)のIPアドレスを設定します。
LAN側ポート	ポート変換テーブルに追加するLAN側(変換後)のポート番号(1~65535)を設定します。
ポート変換登録情報	現在設定されているポート変換テーブルの有効/無効の指定を行います。

DMZ

LAN側からの通信と無関係な通信パケットの転送先を設定する画面です。

メモ:

- 「transix」、「クロスパス」、「v6 コネクト」をお使いの場合は、DMZを設定しても動作しません。
- 「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」をお使いの場合、回線仕様により、DMZを設定しても通信が転送されないことがあります。

ルーターセキュリティ > DMZ(ルーターモード時のみ)

DMZのアドレス

※設定画面を表示している機器のIPアドレス[192.168.11.2]

項目	内容
DMZのアドレス	ポート変換テーブルに設定されていないパケットの転送先IPアドレスを設定します(RIPプロトコル(UDPポート番号520)のパケットは、転送されません)。

UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)の設定画面です。

ルーターセキュリティ > UPnP(ルーターモード時のみ)

UPnP 使用する

項目	内容
UPnP	Universal Plug and Play(UPnP)機能を使用するかどうかを設定します。

システム設定

本製品のシステムに関する設定画面です。

管理 > システム設定

システム情報

エアステーション名	<input type="text" value="APXXXXXXXXXXXX"/>
管理ユーザー名	admin (変更することはできません)
管理パスワード	<input type="password" value="....."/> <input type="checkbox"/> パスワードを表示する

アクセス

使用する	管理アクセス	パケット数
<input type="checkbox"/>	無線LANからの設定を禁止する	0
<input type="checkbox"/>	有線LANからの設定を禁止する	0

Internet側リモートアクセス設定

使用する	管理アクセス
<input type="checkbox"/>	Internet側リモートアクセス設定を許可する

時刻

NTP機能	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
サーバー名	<input type="text" value="ntp.nict.jp"/>
確認時間	<input type="text" value="24"/> 時間毎
日付	2023 年 1 月 1 日
時刻	0 時 54 分 12 秒
タイムゾーン	(GMT+09:00)東京、大阪、ソウル <input type="button" value="v"/>
現在の時刻を表示	現在アクセス中のパソコンから時刻を取得

項目	内容
エアステーション名	本製品の名称を半角英数字と「-」で、64文字までで設定します。
管理ユーザー名	本製品の設定画面へログインするときのユーザー名です。「admin」以外に変更できません。
管理パスワード	本製品の設定画面へログインするときのパスワードです。半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。
無線LANからの設定を禁止する	本製品にWi-Fi接続した機器から、本製品を設定できないようにします。
有線LANからの設定を禁止する	本製品のLAN端子に接続した機器から、本製品を設定できないようにします。
Internet側リモートアクセス設定を許可する	<p>インターネットに接続したネットワーク機器から本製品の設定画面へのアクセスを制限するかどうかを設定します。 アクセスを許可する場合は、許可IPアドレスと許可ポートを別途設定します。</p> <p>メモ: 「transix」、「v6プラス」、「IPv6オプション」、「OCNバーチャルコネクト」、「クロスパス」、「v6 コネクト」などのサービスをお使いの場合、Internet側リモートアクセスは使用できません。</p>
デバイスに対しポートスキャンを実行する	チェックを入れると、本製品は設定画面を持つ機器の検出を行います。セキュリティソフトなどが本製品からのポートスキャンを警告する場合は、チェックを外してください。
NTP機能	本製品の内部時計を、NTPサーバーを使って設定するかどうかを指定します。
サーバー名	NTPサーバーの名称をホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
確認時間	NTPサーバーに時刻を問い合わせる周期(1～24時間ごと)を設定します。
日付	本製品の内部時計の日付を手動で設定します。
時刻	本製品の内部時計の時刻を手動で設定します。
タイムゾーン	本製品の内部時計のタイムゾーン(グリニッジ標準時からの時差)を指定します。

ログ

syslogによる本製品のログ情報を転送するための設定画面です。

管理 > ログ

ログ

ログ情報転送機能	<input type="checkbox"/> 使用する	
syslogサーバー	<input style="width: 100%;" type="text"/>	
転送するログ情報	<input checked="" type="checkbox"/> アドレス変換 <input checked="" type="checkbox"/> ファイアウォール <input checked="" type="checkbox"/> DHCPクライアント <input checked="" type="checkbox"/> AOSS <input checked="" type="checkbox"/> 認証 <input checked="" type="checkbox"/> システム起動 <input checked="" type="checkbox"/> 有線リンク	<input checked="" type="checkbox"/> IPフィルター <input checked="" type="checkbox"/> PPPoEクライアント <input checked="" type="checkbox"/> DHCPサーバー <input checked="" type="checkbox"/> 無線 <input checked="" type="checkbox"/> 設定変更 <input checked="" type="checkbox"/> NTPクライアント <input checked="" type="checkbox"/> システム

[拡張設定]

詳細なログ取得	<input type="checkbox"/> アドレス変換 <input type="checkbox"/> IPフィルター <input type="checkbox"/> ファイアウォール <input type="checkbox"/> アクセスフィルター
---------	--

項目	内容
ログ情報転送機能	ログ情報転送機能を使用するかどうかを設定します。
syslogサーバー	syslogサーバーのアドレスをホスト名、ドメイン名つきホスト名、IPアドレスのいずれかで設定します。
転送するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
詳細なログ取得	「アドレス変換」、「IPフィルター」、「ファイアウォール」、「アクセスフィルター」に関するログ情報を取得するかどうかを設定します。

設定管理/再起動

本製品の設定の保存、復元や初期化、再起動を行う画面です。

管理 > 設定管理/再起動

設定管理

操作	<input checked="" type="radio"/> 設定ファイルを保存する <input type="radio"/> 設定ファイルを復元する <input type="radio"/> 設定を初期化する
パスワード	<input type="checkbox"/> パスワードを使用する <input type="checkbox"/> パスワードを表示する

再起動

再起動	エアステーションを再起動します。 <input type="button" value="再起動"/>
-----	--

項目	内容
操作	<p>操作内容を選択します。</p> <p>設定ファイルを保存する 本製品の設定内容を設定ファイルに保存します。 [設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルをパスワードで暗号化する場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。 パスワードは、半角英数字と「_」で、1～8文字で設定します。</p> <p>設定ファイルを復元する 本製品の設定を、設定ファイルから復元します。 「設定ファイル」欄の[参照]をクリックして設定ファイルを指定し、[設定操作実行]をクリックしてください。 設定ファイルがパスワードで暗号化されている場合は、「パスワードを使用する」にチェックを入れ、[設定操作実行]をクリックしてください。</p> <p>設定を初期化する 本製品の設定を初期化して、再起動します。 [設定操作実行]をクリックしてください。</p>
再起動	<p>クリックすると、本製品が再起動します。</p>

ファームウェア更新

本製品のファームウェアを更新するための画面です。

管理 > ファームウェア更新

ファームウェアバージョン	WSR-1500AX2L VerX.XX										
更新方法	<input checked="" type="radio"/> ローカルファイル指定 <input type="radio"/> オンラインバージョンアップ										
ファームウェアファイル名	<input type="text" value="ファイルの選択"/>										
<input type="button" value="更新実行"/>											
<p>※ファームウェアファイルは下のリンクから取得できます。</p> <p style="text-align: center;">ファームウェアダウンロードサイト</p>											
<p>[拡張設定]</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  </div> <table border="1"> <tr> <td>ファームウェア自動更新機能</td> <td colspan="2"> <input type="text" value="重要な更新のみ行う"/> </td> </tr> <tr> <td>現在時刻</td> <td>2023年 1月 1日 (日曜日) 00:54</td> <td> <input type="button" value="現在の状態を表示"/> </td> </tr> <tr> <td>更新時刻</td> <td colspan="2"> 毎日 <input type="text" value="04:00 - 04:59"/> </td> </tr> </table>			ファームウェア自動更新機能	<input type="text" value="重要な更新のみ行う"/>		現在時刻	2023年 1月 1日 (日曜日) 00:54	<input type="button" value="現在の状態を表示"/>	更新時刻	毎日 <input type="text" value="04:00 - 04:59"/>	
ファームウェア自動更新機能	<input type="text" value="重要な更新のみ行う"/>										
現在時刻	2023年 1月 1日 (日曜日) 00:54	<input type="button" value="現在の状態を表示"/>									
更新時刻	毎日 <input type="text" value="04:00 - 04:59"/>										
<input type="button" value="設定"/>											

項目	内容
ファームウェアバージョン	現在のファームウェアバージョンを表示します。
更新方法	<p>ファームウェアの更新方法を設定します。</p> <p>ローカルファイル指定 パソコンに保存されているファームウェアファイルを使用して更新を行います。</p> <p>オンラインバージョンアップ インターネットから自動的に最新のファームウェアファイルをダウンロードして更新を行います。</p>

項目	内容
ファームウェアファイル名	「ローカルファイル指定」時にファームウェアファイル名を指定します。
ファームウェア自動更新機能	<p>ファームウェアの自動更新方法を設定します。</p> <p>重要な更新のみ行う セキュリティに関わる脆弱性の対応など、重要な更新があった場合、ファームウェアを自動的にダウンロードして本製品へ適用します。</p> <p>常に最新版に更新する 本製品の新しいファームウェアがリリースされると、自動的にダウンロードして本製品へ適用します。</p> <p>更新せずに通知のみ行う 新しいファームウェアがリリースされたときに、設定画面に通知します。本製品への適用は行いません。</p> <p>更新しない 新しいファームウェアがリリースされても、設定画面への通知や本製品へ適用は行いません。</p>
現在時刻	現在の時刻が表示されます。
更新時刻	自動更新を行う時間帯を設定します。

システム

本製品の現在の状態が表示されます。

ステータス > システム

製品名	WSR-1500AX2L VerX.XX	
エアステーション名	APXXXXXXXXXXXX	
動作モード	ルーターモード	
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	接続方法	インターネット接続可能なDHCPサーバーもしくはPPPoEサーバー未検出のため判別不可
LAN	有線リンク	1000Base-T (全二重)
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	IPアドレス	192.168.11.1
IPv6	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	MACアドレス	XX:XX:XX:XX:XX:XX
	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
IPv6	IPv6接続状態	無効
	グローバルアドレス	設定されていません
	プレフィックス	設定されていません
	LAN側Link Localアドレス	fe80::4eba:7dff:fe37:1900/64
	サブネットID	0001
	インターフェイスID	4eba:7dff:fe37:1900

無線(2.4 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1 認証方式 暗号化	Buffalo-2G-XXXX WPA2 Personal AES
	SSID2 認証方式 暗号化	Buffalo-2G-XXXX-WPA3 WPA3 Personal AES
	ANY接続 プライバシーセパレーター	許可する 使用しない
	無線チャンネル 倍速モード MACアドレス	6(自動設定) 20 MHz XX:XX:XX:XX:XX:XX
無線(5 GHz)	無線状態	制限なし
	SSID1 認証方式 暗号化	Buffalo-5G-XXXX WPA2 Personal AES
	SSID2 認証方式 暗号化	Buffalo-5G-XXXX-WPA3 WPA3 Personal AES
	ANY接続 プライバシーセパレーター	許可する 使用しない
	無線チャンネル 倍速モード MACアドレス	108(自動設定) 80 MHz XX:XX:XX:XX:XX:XX
EasyMesh機能	状態 Backhaul SSID 無線の認証 無線の暗号化	有効 Buffalo-BH-XXXX WPA2/WPA3 Personal AES

項目	内容
製品名	本製品の製品名とファームウェアのバージョンが表示されます。
エアステーション名	エアステーション名が表示されます。
動作モード	現在の動作モードが表示されます。
Internet	インターネット側の情報が表示されます。
LAN	LAN側の情報が表示されます。
IPv6	IPv6接続に関する情報が表示されます。
接続先	中継機モード時のみ、コントローラ (Wi-Fiルーター) の情報が表示されます。
無線 (2.4 GHz)	2.4 GHz帯のWi-Fi情報が表示されます。
無線 (5 GHz)	5 GHz帯のWi-Fi情報が表示されます。
EasyMesh機能	本製品をコントローラとしてEasyMeshで接続している場合に、EasyMeshでの接続情報が表示されます。

ログ

本製品に記録されているログ情報を確認する画面です。

ステータス > ログ

表示するログ情報	<input checked="" type="checkbox"/> アドレス変換	<input checked="" type="checkbox"/> IPフィルター
	<input checked="" type="checkbox"/> ファイアウォール	<input checked="" type="checkbox"/> PPPoEクライアント
	<input checked="" type="checkbox"/> DHCPクライアント	<input checked="" type="checkbox"/> DHCPサーバー
	<input checked="" type="checkbox"/> AOSS	<input checked="" type="checkbox"/> 無線
	<input checked="" type="checkbox"/> 認証	<input checked="" type="checkbox"/> 設定変更
	<input checked="" type="checkbox"/> システム起動	<input checked="" type="checkbox"/> NTPクライアント
	<input checked="" type="checkbox"/> 有線リンク	<input checked="" type="checkbox"/> システム
	<input type="button" value="表示"/> <input type="button" value="すべてチェックする"/> <input type="button" value="すべてチェックを外す"/>	
<h3>ログ</h3>		
<input type="button" value="ファイル(logfile.log)に保存する"/> <input type="button" value="消去"/>		
日付時刻	種類	ログ内容

項目	内容
表示するログ情報	表示するログ情報の種類を設定します。
ログ	本製品に記録されているログ情報が表示されます。

通信パケット

本製品が通信したパケットの合計を確認する画面です。

ステータス > 通信パケット

インターフェース	送信パケット数		受信パケット数	
	正常	エラー	正常	エラー
Internet側有線	1180	0	17258	0
LAN側有線(#1)	13555	0	13144	0
LAN側有線(#2)	0	0	0	0
LAN側有線(#3)	0	0	0	0
LAN側無線(2.4GHz)	0	0	177	28
LAN側無線(5GHz)	0	0	0	0

現在の状態を表示

項目	内容
送信パケット数	Internet側有線、LAN側有線、LAN側無線に送信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。
受信パケット数	Internet側有線、LAN側有線、LAN側無線から受信したパケット数とエラーパケット数が表示されます。

診断

本製品からネットワーク上のほかの機器との接続確認を行う画面です。

ステータス > 診断

送信プロトコル	<input checked="" type="radio"/> IPv4 <input type="radio"/> IPv6
宛先アドレス	<input type="text"/>
<input type="button" value="実行"/>	
実行結果	
宛先	192.168.11.2
実行結果	64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=0 ttl=128 time=0.718 ms 64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=1 ttl=128 time=0.565 ms 64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=2 ttl=128 time=0.474 ms 64 bytes from 192.168.11.2: icmp_seq=3 ttl=128 time=0.487 ms

項目	内容
送信プロトコル	Pingテストを行うプロトコルを選択します。
宛先アドレス	接続確認を行う機器のIPアドレス、またはホスト名を入力し、[実行]をクリックすると、「実行結果」欄に結果が表示されます。

第4章 困ったときは

IPv4 over IPv6通信サービスを契約しても、インターネット接続方式が切り替わらない

原因1 IPアドレス取得方法が異なっている

IPアドレス取得方法が「DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得」、「PPPoEクライアント機能を使用する」、「手動設定」の場合、「インターネット@スタート」を選択してください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、「[本製品の設定を変更するには](#)」(P.39)を参照してください。

2 [詳細設定] - [Internet] - [Internet]をクリックします。

3 [インターネット@スタートを行う]を選択します。

IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> インターネット@スタートを行う
	<input checked="" type="checkbox"/> インターネット回線の変更時に自動で切り替える
	<input type="radio"/> DHCPサーバーからIPアドレスを自動取得
	<input type="radio"/> PPPoEクライアント機能を使用する
	<input type="radio"/> transixを使用する
	<input type="radio"/> v6プラスを使用する
	<input type="radio"/> IPv6オプションを使用する
	<input type="radio"/> OCNバーチャルコネクトを使用する
	<input type="radio"/> クロスパスを使用する
	<input type="radio"/> v6 コネクトを使用する
	<input type="radio"/> その他のDS-Liteを使用する
	ゲートアドレス <input type="text"/>
	<input type="radio"/> 手動設定

IPアドレス	<input type="text"/>
サブネットマスク	255.255.255.0 <input type="button" value="v"/>

※PPPoE接続先の設定はInternet設定 - PPPoE設定で行ってください。

原因2 本製品にPPPoE接続設定が残っている

本製品にPPPoE接続設定が残っている場合、新しいサービス(IPv4 over IPv6通信サービス)を検出する前に、今までのサービス(PPPoE)でつながる場合があります。

以下の手順で、PPPoE接続設定をOFFにしてください。

1 本製品の設定画面を表示します。

メモ: 設定画面の表示方法は、[「本製品の設定を変更するには」\(P.39\)](#)を参照してください。

2 [詳細設定] - [Internet] - [PPPoE]をクリックします。

3 PPPoE接続リストの[接続先の編集]をクリックします。



4 PPPoE接続先リストの表示/操作で、操作欄にある[OFF]をクリックします。



5 手順4でOFFにした設定の状態が「無効」になったことを確認します。



以上でPPPoE接続設定がOFFになりました。

原因3 IPv4 over IPv6通信サービスへ切り替わるまでに時間がかかっている

申し込み後、サービスが切り替わるまでに時間がかかる場合があります。

切り替え状況については、プロバイダーに確認してください。

インターネットにつながらない

原因1 動作モードの設定が間違っている

動作モードの設定が間違っていることが考えられます。

本製品をルーターとして動作させる場合は、背面のスイッチを「ROUTER」にして、ROUTERランプが緑色に点灯するのを確認してください。

原因2 プロバイダーから提供された機器の電源が入っていない

プロバイダーから提供された機器と本製品がLANケーブルで正しく接続されているにもかかわらずインターネットに接続できない場合は、電源が入っているか確認してください。

原因3 インターネットに接続しようとする機器が本製品に接続されていない

AirStationアプリやエアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたはWi-Fiで接続してください。

メモ: Wi-Fiでの接続方法は、お使いの機器の取扱説明書、または[「機器をWi-Fi接続するには」\(P.33\)](#)を参照してください。

原因4 インターネットの設定が間違っている

製品添付の**1** セットアップガイドを参照して、インターネットの設定をやり直してください。

Wi-Fi接続が切れる/不安定

原因1 本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品からACアダプターを取り外し、もう一度本製品にACアダプターを接続してください(電源が自動でONになります)。

原因2 本製品とWi-Fi機器の距離が遠い

本製品とWi-Fi機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。Wi-Fi機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3 本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、Wi-Fiによる通信が不安定になる場合があります。

それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品のWi-Fiチャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因4 本製品のファームウェアが古い

上記1~3の対策を行っても、本製品とのWi-Fi接続が切れたり不安定な状況が続いたりする場合は、本製品のファームウェアを最新版に更新してください。

原因5 Wi-Fi機器のドライバーが古い

上記1~4の対策を行っても、本製品とのWi-Fi接続が切れたり不安定な状況が続いたりする場合は、Wi-Fi機器のドライバー(ソフトウェア)を最新版に更新してください。

Wi-Fiでつながらない

原因1 本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品からACアダプターを取り外し、もう一度本製品にACアダプターを接続してください(電源が自動でONになります)。

原因2 本製品とWi-Fi機器の距離が遠い

本製品とWi-Fi機器の距離が遠いため、電波が十分に届いていないことが考えられます。Wi-Fi機器を本製品に近づけるか、周囲に障害物がある場合は障害物を移動するなど、見通しをよくしてください。

原因3 セキュリティーソフトが動作している

Wi-Fi機器にウイルス対策ソフトなどのセキュリティーソフトがインストールされている場合、Wi-Fi接続設定に失敗することがあります。いったんセキュリティーソフトを終了して、Wi-Fi接続設定を完了させてからセキュリティーソフトを起動してください。

原因4 Wi-Fi接続の設定が間違っている

Wi-Fi接続の設定が間違っていると、本製品にWi-Fiで接続できません。

メモ: Wi-Fiでの接続方法は、[「機器をWi-Fi接続するには」\(P.33\)](#)を参照してください。

原因5 本製品にANY接続拒否やMACアクセス制限の設定がされている

本製品にANY接続拒否の設定がされていると、Wi-Fi機器から検索しても本製品が表示されません。その場合は、ANY接続拒否を解除してから接続してください。

本製品にMACアクセス制限の設定がされていると、そのままでは本製品にWi-Fi接続できません。Wi-Fi機器のMACアドレスを本製品に登録してからWi-Fi接続してください。

原因6 WPA3の設定で動作している

お使いの機器やOS、ドライバーによっては、WPA3で接続できないことがあります。その場合は、WPA2で接続してください。

AOSSでWi-Fi接続できない

AOSSに対応した機器(テレビ、レコーダー、ゲーム機やスマートフォンなど)のうち、一部の機器では、AOSSで本製品にWi-Fi接続できないことがあります。

その場合は、WPS(プッシュボタン式)で接続するか、お使いの機器から本製品を検索してWi-Fi接続してください。

WPS(プッシュボタン式)で接続する場合

- 1 お使いの機器のWi-Fi接続設定画面を表示します。
- 2 WPS(プッシュボタン式)を選択して、接続を開始します。
- 3 本製品のAOSSボタンを約2秒間長押しします。
- 4 しばらくすると、お使いの機器と本製品のWi-Fi接続が完了します。

以上で完了です。

お使いの機器から本製品を検索して接続する場合

- 1 お使いの機器のWi-Fi接続設定画面を表示します。
- 2 お使いの機器から接続先を検索し、セットアップカードに記載のSSIDと同じ値を選択します。
- 3 パスワードの入力画面が表示されたら、セットアップカードに記載の暗号化キーを入力します。
- 4 しばらくすると、お使いの機器と本製品のWi-Fi接続が完了します。

以上で完了です。

設定画面が表示できない

原因1 本製品の動作が不安定になっている

本製品への負荷などにより、本製品の動作が不安定になっていることが考えられます。いったん本製品からACアダプターを取り外し、もう一度本製品にACアダプターを接続してください(電源が自動でONになります)。

原因2 設定用機器が本製品に接続されていない

AirStationアプリやエアステーション設定ツールを使用して、リストに本製品が表示されるか確認してください。リストに本製品が表示されない場合は、インターネットに接続しようとする機器と本製品をLANケーブルまたはWi-Fiで接続してください。

メモ: Wi-Fiでの接続方法は、お使いの機器の取扱説明書、または[「機器をWi-Fi接続するには」\(P.33\)](#)を参照してください。

Wi-Fiでの通信が遅い

原因1 本製品周辺の電波環境が悪い

電子レンジなど、本製品と同じ2.4 GHz帯の電波を発する機器が本製品の周囲で動作している場合、Wi-Fiによる通信が不安定になり、通信速度が低下する場合があります。

それらの機器を本製品から遠ざけるか、使用を一時的に中断してください。2.4 GHz帯の電波を発する機器がコードレス電話などであり、本製品から遠ざけることができない場合は、本製品の無線チャンネルを変更してください。2.4 GHzのチャンネルを設定する場合は、電波干渉の低減や周波数利用効率向上のため、チャンネルを1、6、11のいずれかに設定することをおすすめします。

原因2 2.4 GHzの帯域が「144Mbps(20MHz)」になっている

本製品の2.4 GHz(11n/g/b)の帯域は、出荷時の状態で「144Mbps(20MHz)」に設定されています。「300Mbps(40MHz)」に設定することで、Wi-Fiでの通信速度が速くなる場合があります。

メモ:

- 本製品の設定だけでなく、お使いの機器の設定も必要になる場合があります。
- 2.4 GHz帯を使用する機器が周囲に多くあり、電波環境が悪い場合は、設定を変更しても通信速度が向上しない場合があります。

設定を出荷時の状態に戻したい

本製品の設定を出荷時の状態に戻したい場合は、下記の手順を行ってください。

- 1** 本製品の電源を入れた状態で、本製品背面のRESETボタンを前面のPOWERランプが緑色に点滅するまで(約3秒間)、先の細いもの(つまようじなど)で長押しします。
- 2** 本製品が再起動します。
- 3** 本製品の再起動が完了すると、POWERランプが緑色に点灯します。

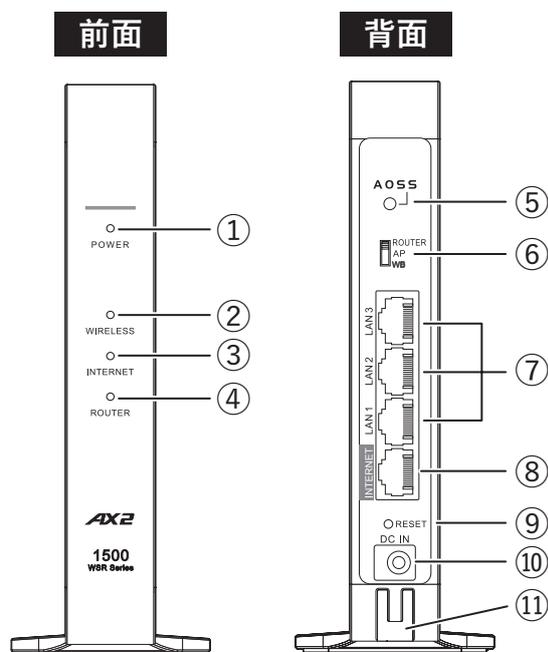
付録

製品仕様

Wi-Fiインターフェース	
準拠規格(最大転送速度)	5 GHz: IEEE 802.11ax:1201Mbps(80MHz 2x2) IEEE 802.11ac:866Mbps(80MHz 2x2) IEEE 802.11n:300Mbps(40MHz 2x2) IEEE 802.11a:54Mbps 2.4 GHz: IEEE 802.11n:300Mbps(40MHz 2x2) IEEE 802.11g:54Mbps IEEE 802.11b:11Mbps 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
伝送方式	多入力多出力直交周波数分割多元変調(MIMO-OFDMA)方式 多入力多出力直交周波数分割多重変調(MIMO-OFDM)方式 直交周波数分割多重変調(OFDM)方式 直接拡散型スペクトラム拡散(DS-SS)方式 単信(半二重)
周波数範囲(中心周波数)	5 GHz: W52 36/40/44/48ch(5180~5240MHz) W53 52/56/60/64ch(5260~5320MHz) W56 100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch (5500~5720MHz) 2.4 GHz: 1~13ch(2412~2472MHz) 本製品と同一の周波数帯を使用する機器がある場合、電波干渉により通信速度が遅くなるなどの障害が発生する可能性があります。
アクセス方式	インフラストラクチャーモード、中継機能
セキュリティー	WPA3 Personal、WPA2 Personal、WPA3/WPA2 Personal、WPA2/WPA Personal、WEP(128bit/64bit)、プライバシーセパレーター、ANY接続拒否、MACアクセス制限
有線LANインターフェース	
準拠規格	IEEE 802.3 ab(1000BASE-T)/IEEE 802.3u(100BASE-TX)/ IEEE 802.3(10BASE-T)
データ転送速度	1000/100/10Mbps(自動認識) 表示の数値は理論上の最大値であり、実際の転送速度を示すものではありません。
データ伝送モード	半二重/全二重(自動認識)

伝送路符号化方式	8B1Q4/PAM5(1000BASE-T)/4B5B/MLT-3(100BASE-TX)/マンチェスターコーディング(10BASE-T)
スイッチング方式	ストア&フォワード方式
端子	1000 BASE-T/100 BASE-TX/10 BASE-T 兼用端子(AUTO-MDIX)
その他	
電源	AC 100 50/60Hz
消費電力	9.1W(最大)
外形寸法	55×159×130mm ※本体のみ
質量	約241g ※本体のみ
動作環境	0～40°C、10～85%(結露しないこと) 本製品は屋内使用に限ります。

各部の名称とはたらき



1 POWERランプ

点灯(緑)	電源がONの状態、通常状態。ACアダプターを接続して約2分経つと緑色に点灯します。
点滅(緑)	システムが起動中
点滅(緑と橙の繰り返し)	ファームウェア更新中
消灯	電源がOFFの状態
点滅(橙)	エラー発生時

メモ: エラー発生時は、本製品からACアダプターを取り外して、もう一度本製品にACアダプターを接続してください(電源が自動でONになります)。再びランプが同じように橙色に点滅している場合や、すべてのランプが橙色に点灯している場合は、当社サポートセンターにお問い合わせください(製品添付の

1 セットアップガイド参照)。

2 WIRELESSランプ

・ルーターモード時/アクセスポイントモード時

点灯(緑)	Wi-Fi動作時/Wi-Fi通信時
2回ずつ点滅(緑)	AOSS/WPS待ち受け状態
高速点滅(緑:0.1秒間隔)	AOSS/WPS失敗
2回ずつ点滅(橙)	無線引っ越し待ち受け状態
消灯	Wi-Fi無効時

・中継機モード時

点灯(緑)	Wi-Fiルーターまたはメッシュネットワークと接続時
点灯(橙)	Wi-Fiルーターまたはメッシュネットワークと接続が未設定
2回ずつ点滅(緑)	WPS待ち受け時
高速点滅(緑:0.1秒間隔)	WPS失敗時
高速点滅(橙:0.1秒間隔)	有線接続でメッシュネットワークとの接続設定に失敗時
点滅(緑と橙の繰り返し)	メッシュネットワークとの接続設定が完了後に、メッシュネットワークに未接続時
点滅(橙)	Wi-Fiルーターとの接続設定が完了後に、Wi-Fiルーターに未接続時

3 INTERNETランプ

インターネットに接続可能なときに点灯しますが、お使いの環境により消灯する場合があります。消灯していてもインターネットに接続できるときは、異常ではありませんので、そのままお使いください。

点灯(緑)	インターネット通信が可能な状態
2回ずつ点滅(緑)	無線引っ越し待ち受け状態
消灯	インターネット未接続

4 ROUTERランプ

点灯(緑)	ルーターモードで動作時
消灯	アクセスポイントモードで動作時、中継機モードで動作時
2回ずつ点滅(緑)	無線引っ越し待ち受け状態

5 AOSSボタン

本製品の電源を入れた状態で、WIRELESSランプが点滅するまで(約2秒間)ボタンを長押しすると、本製品がAOSS/WPS待ち受け状態になります。

約10秒間長押しすると、無線引っ越し待ち受け状態になります(製品添付の**1** セットアップガイド参照)。

6 ROUTER/AP/WBスイッチ

本製品の動作モード(ROUTER/AP/WB(中継機))を切り替えるスイッチです。

ROUTER	本製品をルーターモードとして使用します。同じネットワーク内にルーターが無いときに指定します。
AP	本製品をアクセスポイントモードとして使用します。同じネットワークにすでにルーターがあるときに指定します。
WB	本製品をEasyMeshのエージェント、または中継機モードとして使用します。メッシュネットワークを構築する場合は、本製品を別のWi-Fiルーター(コントローラ)に接続して、電波の範囲を広げるときに指定します。メッシュネットワークを構築しない場合は、本製品を別のWi-Fiルーター(親機)に接続して、電波の範囲を広げるときに指定します。

7 LAN端子

パソコンやハブなどを接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

8 INTERNET端子

プロバイダーから提供された機器(光回線終端装置やモデムなど)を接続します。1000/100/10Mbpsに対応しています。

9 RESETボタン

本製品の電源を入れた状態で、POWERランプが緑色に点滅するまで(約3秒間)ボタンを先の細いもの(つまようじなど)で長押しすると、本製品が出荷時設定に戻ります。

10 DC端子

付属のACアダプターを接続します。

11 ACアダプター用フック

ACアダプターのケーブルが抜けないように、ケーブルをフックに引っ掛けます。

初期設定一覧

機能	項目	出荷時設定
Internet	IPアドレス取得方法	インターネット@スタートを行う
	デフォルトゲートウェイ	－
	DNS(ネーム)サーバーアドレス	－
	Internet側MACアドレス	デフォルトのMACアドレスを使用
	Internet側MTU値	1500バイト
PPPoE	デフォルトの接続先	未設定
	PPPoE接続先リスト	未設定
	接続先経路の表示	未設定
アドレス変換	アドレス変換	使用する
	拡張設定	表示しない
	TCPタイムアウト時間	2500秒
IPv6	IPv6接続方法	インターネット@スタートを行う
LAN	LAN側IPアドレス	IPアドレス: 192.168.11.1 サブネットマスク: 255.255.255.0
	DHCPサーバー機能	使用する
	割り当てIPアドレス	192.168.11.2から64台
	拡張設定	表示しない
	リース期間	48時間
	デフォルトゲートウェイの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	DNSサーバーの通知	エアステーションのLAN側IPアドレス
	WINSサーバーの通知	通知しない
	ドメイン名の通知	取得済みのドメイン名
DHCPリース	リース情報	未設定
経路情報	経路情報	－

機能	項目	出荷時設定
2.4 GHz(11n/g/b) 5 GHz(11ax/ac/ n/a)	基本設定	
	無線機能	使用する
	無線チャンネル	自動
	倍速モード	2.4 GHz: 144Mbps(20MHz)、拡張チャンネルは自動設定 5 GHz: 1201Mbps(80MHz)
	ANY接続	許可する
	SSID 1	
	SSID 1	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA2 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 2	
	SSID 2	使用する
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA3 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 3	
	SSID 3	使用しない
	隔離機能	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	WEP暗号化キー設定	未設定
	拡張設定	
	BSS BasicRateSet	2.4 GHz: 1, 2, 5.5, 11Mbps 5 GHz: 6, 12, 24Mbps
	Multicast Rate	2.4 GHz: 1Mbps 5 GHz: 6Mbps
	802.11nプロテクション	使用しない
	DTIM Period	1
	プライバシーセパレーター	使用しない
	送信出力	100%
802.11ax MU-MIMO (5 GHzのみ対応)	使用する	

機能	項目	出荷時設定
バンドステアリングLite	SSID 1	
	SSID 1	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA2 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
	SSID 2	
	SSID 2	使用しない
	SSID	エアステーションのMACアドレスを設定
	無線の認証	WPA3 Personal
	無線の暗号化	AES
	WPA-PSK(事前共有キー)	製品付属のセットアップカードに記載の値
	Key更新間隔	0分
EasyMesh	EasyMesh機能	使用する
	高速ローミング(11r)	使用しない
	Backhaul SSID	設定しない
EasyMesh/中継機能(WB)	高速ローミング(11r)	使用しない
	5 GHz/2.4 GHz選択	自動
	無線LAN親機設定	接続時中継機能の設定で動作する
WPS	WPS機能	使用する
	外部Registrar	使用する
	エアステーションのPINコード	製品固有の8桁のPINコードが設定済み
	EnrolleeのPINコード	空欄
	WPS用無線セキュリティー設定	WPSステータス: configured セキュリティー: WPA2 Personal AES SSID/暗号鍵: 製品付属のセットアップカードに記載の値
AOSS	AOSS状態	AOSS 無効
	WEPをゲーム専用にする	使用しない
	本体側AOSSボタン	使用する
MACアクセス制限	無線パソコンの接続	制限しない
	登録リスト	未登録
マルチキャスト制御	Snooping機能	使用する
	マルチキャストAging Time	300秒
無線引っ越し機能	無線引っ越し状態	未実施

機能	項目	出荷時設定
ファイアウォール	ファイアウォール設定-IPv4	NBTとMicrosoft-DSのルーティングを禁止する 無効 IDENTの要求を拒否する 有効 Internet側からのPINGに応答しない 有効
	ファイアウォール設定-IPv6	Microsoft-DS/SMB2.0のルーティングを禁止する 有効 IDENTの要求を拒否する 有効 Internet側からのPINGに応答しない 無効 Internet側からの接続要求を転送しない 有効
IPフィルター	IPフィルター登録情報	未設定
IPv6フィルター	IPv6フィルター登録情報	未設定
パススルー	PPPoEパススルー機能	使用しない
	PPTPパススルー	使用する
ポート変換	ポート変換登録情報	未設定
DMZ	DMZのアドレス	未設定
UPnP	UPnP	使用する
システム設定	エアステーション名	AP + 本製品のMACアドレス
	管理ユーザー名	admin(変更することはできません)
	管理パスワード	製品付属のセットアップカードに記載の値
	制限項目	無線LANからの設定を禁止する 無効 有線LANからの設定を禁止する 無効 Internet側リモートアクセス設定を許可する 無効 デバイスに対しポートスキャンを実行する 無効
	NTP機能	使用する
	サーバー名	ntp.nict.jp
	確認時間	24時間毎
	タイムゾーン	(GMT + 09:00)東京、大阪、ソウル
ログ	ログ情報転送機能	使用しない
	Syslogサーバー	未設定
	転送するログ情報	アドレス変換、IPフィルター、ファイアウォール、PPPoEクライアント、ダイナミックDNS、DHCPクライアント、DHCPサーバー、AOSS、無線、認証、設定変更、システム起動、NTPクライアント、有線リンク、システム
	詳細なログ取得	取得しない
ファームウェア更新	更新方法	ローカルファイル指定
	ファームウェアファイル名	空欄
	ファームウェア自動更新機能	重要な更新のみ行う
	更新時刻	毎日04:00~04:59

参考情報 パソコンのIPアドレスを一時的に固定する

以下は、本製品を中継機として使用する設定を行うために、パソコンのIPアドレスを一時的に固定する設定手順です。

中継機の設定完了後、パソコンのIPアドレスを元の設定に戻す際は、各手順で控えたメモを参照してください。

Windows 11の場合の設定

- 1** タスクバー上のWindowsロゴ(スタート)をクリックして表示される画面から、[すべてのアプリ] - [Windowsツール] - [コントロールパネル]を選択します。
- 2** 「ネットワークの状態とタスクの表示」 - 「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 3** Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。
- 4** 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。
- 5** 現在の設定内容をメモしてください。
中継機の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります。
- 6** 以下のように設定して、[OK]をクリックします。
 - ・ 「次のIPアドレスを使う」を選択
 - ・ IPアドレス「192.168.11.135」
 - ・ サブネットマスク「255.255.255.0」
 - ・ デフォルトゲートウェイは空欄
 - ・ 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
 - ・ 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄
- 7** [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Windows 10の場合の設定

- 1** タスクバー上のWindowsロゴ(スタート)をクリックして表示されるメニューから、[Windowsシステムツール]–[コントロールパネル]を選択します。
- 2** 「ネットワークの状態とタスクの表示」–「アダプター設定の変更」をクリックします。
- 3** Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「イーサネット」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
メモ: 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい]または[続行]をクリックしてください。
- 4** 「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択し、[プロパティ]をクリックします。
- 5** 現在の設定内容をメモしてください。
中継機の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります。
- 6** 以下のように設定して、[OK]をクリックします。
 - 「次のIPアドレスを使う」を選択
 - IPアドレス「192.168.11.135」
 - サブネットマスク「255.255.255.0」
 - デフォルトゲートウェイは空欄
 - 「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択
 - 優先DNSサーバーと代替DNSサーバーは空欄
- 7** [閉じる]をクリックします。

以上で設定は完了です。

Macの場合の設定

- 1** システム環境設定を表示します。
- 2** ネットワークをクリックします。
- 3** Wi-Fi接続の場合は「Wi-Fi」を、LANケーブルで接続の場合は「Ethernet」を選択します。
- 4** IPv4の設定で「手入力」を選択します
「Wi-Fi」を選択した場合は[詳細...]をクリックし、「TCP/IP」を選択します。
- 5** 現在の設定内容をメモしてください。
中継機の設定完了後、元の設定に戻す際に必要となります。
- 6** 以下のように設定して、[適用]をクリックします。
 - IPアドレスまたはIPv4アドレス「192.168.11.135」
 - サブネットマスク「255.255.255.0」
 - ルーターは空欄

以上で設定は完了です。

電波に関する注意

- 本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内でのみ使用できます。
- 本製品は、工事設計認証を受けていますので、以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。
 - 本製品を分解/改造すること
 - 本製品に貼ってある証明ラベルをはがすこと
- 電波法によりW52、W53は屋外利用禁止です(法令により許可された場合を除く)。
- 本製品は、次の場所で使用しないでください。
電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところ、2.4 GHz付近の電波を使用しているものの近く(環境により電波が届かない場合があります。)
- 本製品の使用するWi-Fiチャンネル(2.4 GHz帯の1~13チャンネル)は、以下の機器や無線局と同じ周波数帯を使用します。
 - 産業・科学・医療用機器
 - 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の無線局
 - (1) 構内無線局(免許を要する無線局)
 - (2) 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)
- 本製品を使用する際は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、以下の事項に注意してください。
 - 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合は、速やかに本製品の使用周波数を変更して、電波干渉をしないようにしてください。
 - その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、当社サポートセンターへお問い合わせください。

使用周波数	2.4 GHz
変調方式	OFDM方式/DS-SS方式
想定干渉距離	40m以下
周波数変更の可否	全帯域を使用し、かつ「構内無線局」「特定小電力無線局」帯域を回避可能

- 「新4K8K 衛星放送」と本製品は、相互に電波干渉を引き起こすことがあります。
シールド性能の高い衛星放送用受信設備を使用してください。
詳しくは、総務省のホームページ「4K 放送・8K 放送 情報サイト」(https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/housou_suishin/4k8k_suishin/radio-frequency-interference.html)を参照してください。



Wi-Fi(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティーに関する注意

Wi-Fi(無線LAN)では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどとWi-Fiアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティーに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

- ・ 悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、Wi-Fi製品は、セキュリティーに関する仕組みを持っていますので、その設定を行って製品を使用することで、上記問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティーの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティーに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)

「無線LANのセキュリティーに関する注意事項」より

本製品は、工場出荷時にWi-Fi通信を暗号化するための暗号化キーを設定済みのため、通常はこのままご利用いただけます。本製品の設定画面より下記の設定を有効にすると、より強固なセキュリティーを設定できます。本製品の用途にあわせてご利用ください。

- ・ [「ほかの機器から本製品を検索できなくする\(ANY接続拒否設定\)」\(P.56\)](#)
- ・ [「アクセスできる機器を制限する\(MACアクセス制限\)」\(P.57\)](#)
- ・ [「機器同士のWi-Fi通信を禁止する\(プライバシーセパレーター\)」\(P.60\)](#)

免責事項

- 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、当社ではいかなる責任も負いかねます。設備や設計、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 本製品は、日本国内での使用を前提に設計・製造されています。日本国外での使用における故障・不具合についての責任は負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 当社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合には、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当社に故意または重大な過失があった場合を除き、本製品の購入代金と同額を上限と致します。
- 本製品に契約の不適合があった場合、無償にて当該契約不適合を修補し、または契約不適合のない同一製品または同等品に交換致しますが、当該契約不適合に基づく損害賠償の責に任じません。
- 本書に記載された責任は、日本国内においてのみ有効です。

商標・登録商標

AirStation™、AOSS™は、株式会社バッファローの商標です。本書に記載されている他社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。本書では一部を除き、™、®、©などのマークは記載していません。